平成31年度

七生第19－2号
平成31年度町民プール改修工事
公　開　数　量　内　訳　書

＜取扱上の注意事項＞

1　本内訳書に記載されている数量は参考数量であり，本内訳書は工事請負契約書に記載される設計図書には含まれない。

2　公開数量は，設計変更や出来高計算等の対象数量となるものではない。

3　公開数量は，公共建築工事積算基準、公共建築数量積算基準及び公共建築設備数量積算基準の最新版に準拠している。

4　本内訳書に疑義があるときは，公開数量に関する質問書に入札参加予定者が自ら作成した内訳及びその根拠（部位別及び階別の集計表）を明示した数量見積書を添付して質問することができる。（細目は，工事担当に問い合わせのこと。）

七ヶ浜町

（数量公開用）

文書登録番号	調査								設計者	検査者
七生第19-2号	町長		副町長		財政課長		課長			

事業場所　七ヶ浜町吉田浜字野山5-9(町民プール)

平成 31 年度　町民プール改修工事　　実施設計仕様書

事業費

金　　円也

内消費税　　円也

期間

自

至　平成32年1月31日

「仕様概要・その他」

屋根改修(断熱パネル・FRPパネル)	583.0	㎡
構造体補強	1.0	式
建具改修		
・アルミ排煙窓(4連オペレータのみ)	2.0	箇所
・スチールドア(本体取替え)	1.0	箇所
・アルミ換気窓(42連再設置オペレータ共)	1.0	箇所
プール函体塗装改修	645.0	㎡
外部床下パネル改修	94.3	㎡
エキスパンションジョイント改修	29.4	m

起　工　理　由

積　算　総　括　表			
工 事 名	平成31年度町民プール改修工事		
工 事 費	金　　円（消費税を含む）		
工事日数			
項　目	名　　称	金　　額　（円）	摘　　要
A	直接工事費		
B	共通仮設費		
C	純工事費		
D	現場管理費		
E	工事原価		
F	一般管理費等		
G	同上（契約保証費）		
H	工事価格合計		
	改め		
	消費税等相当額		
	総　合　計		

共　通　費

主たる工事の種別	工事種目		直接工事費(A)	共通仮設費(B)			純工事費(C)
				共通仮設費率	補正率	共通仮設費	
建築工事（改修）	一般工事						
	鉄骨工事						
	その他工事	家具・書架等造園舗装取壊しその他					
	共通仮設費(積上分)						
	現場管理費(積上分)						
	小計						
	発生材処分費						
	合計						

工事種目			現場管理費(D)			工事原価(E)
			現場管理費率	補正率	現場管理費	
一般工事						
鉄骨工事						
その他工事	家具・書架等造園舗装取壊しその他					
共通仮設費(積上分)						
現場管理費(積上分)						
小計						
発生材処分費						
合計						

一般管理費等(F)		
一般管理費等率	補正率	一般管理費
契約保証費(G)		
工事価格(H)=(E)+(F)+(G)（税抜き）		
	改め	
消費税相当額		
工事価格(税込み)		
（税込み）		

工事番号	七生第19-2号
工事名称	平成31年度町民プール改修工事
発注者	七ヶ浜町

工期	
監督員事務所の有無	無し
前払金支出割合による一般管理費の補正	
前払い金支出割合	
契約保証費の有無	有り
消費税率	

項　目　別　内　訳　書

項　　目	名　　称	金　　額 （円）	摘　　要
A	指定仮設工事		
B	直接工事費		
【建築工事】			
1	直接仮設工事		
2	屋根改修工事		
3	構造体改修工事		
4	建具改修工事		
5	床下隠しパネル改修工事		
6	EXP.J改修工事		
7	塗装改修工事		
8	発生材運搬		
	（B　合計）		
C	発生材処分費		
	合計（A＋B＋C）		
	合計（B＋C）		

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
A	指定仮設工事						
	交通誘導員B			人			
	（小計）						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
B							
	建築工事						
1	直接仮設工事						
	隅出し	複合改修　プール棟	67.9	m2			
	隅出し	個別改修　附属棟	2.9	m2			
	養生	複合改修　プール棟	1,056.0	m2			
	整理清掃跡片付け	複合改修　プール棟	1,056.0	m2			
	整理清掃跡片付け	個別改修　附属棟	136.0	m2			
	外部足場	枠組本足場(手すり先行方式) W600　プール棟	683.0	m2			
	内部足場	枠組棚足場　平均高さ5.75m プール棟	1,056.0	m2			
	仕上足場	脚立足場　附属棟	10.6	m2			
	ネット状養生シート	プール棟	683.0	m2			
	安全手すり	プール棟	72.0	m			
	（小計）						

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
2	屋根改修工事						
	【撤去】						
	屋根撤去	断熱パネル　厚35	141.0	m2			
	屋根撤去	折版　厚O.8　H150	151.0	m2			
	屋根撤去	FRP製折版　厚2.0　H150	301.0	m2			
	棟包み撤去	鋼板　厚0.5　糸面幅800	5.1	m			
	水上エプロン撤去	鋼板　厚0.5　糸面幅700	36.0	m			
	ケラバ包み撤去	鋼板　厚0.5　糸面幅580	56.5	m			
	鼻隠し撤去	鋼板　厚0.5　高さ460	88.3	m			
	片棟包み撤去	鋼板　厚0.5　糸面幅550	36.0	m			
	外壁撤去	鉄板ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ　厚0.5	27.3	m2			
	内壁撤去	断熱パネル　厚20	34.2	m2			
	軒天井撤去	石綿セメント板　厚5.0　アスベスト含有材	41.6	m2			
	鉄骨壁下地撤去	C-100×50×20×2.3	27.3	m2			
	軽量鉄骨天井下地撤去	H25	41.6	m2			
	雪止め金物撤去	L-75×75×6	88.0	m			
	軒どい撤去	塩ビ製　W150	88.2	m			
	【撤去】 計						
	【改修】						
	屋根新設	断熱パネル　厚35	325.0	m2			
	同上金物新設	水上金物	26.0	m			
	同上金物新設	軒先金物	26.0	m			
	屋根新設	FRP製折版　厚2.0　H150	258.0	m2			
	同上金物新設	タイトフレーム　溶融亜鉛めっき処理	132.0	m			
	同上金物新設	水上面戸	90.0	か所			
	同上金物新設	見切り面戸	90.0	か所			
	同上金物新設	軒先面戸	90.0	か所			
	棟包み新設	断熱パネル外面同材　厚0.5　糸面幅800	5.1	m			
	水上エプロン新設	断熱パネル外面同材　厚0.5　糸面幅700	36.0	m			
	ケラバ包み新設	断熱パネル外面同材　厚0.5　糸面幅580	56.5	m			
	片棟包み新設	断熱パネル外面同材　厚0.5　糸面幅550	40.3	m			
	雪止め金物新設	ステンレスL-75×75×6	88.0	m			
	外壁新設	断熱パネル　厚30	27.3	m2			
	内壁新設	断熱パネル　厚20	34.2	m2			

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
	鉄骨壁下地新設	C-100×50×20×2.3	27.3	m2			
	軒どい新設	芯入り塩ビ製　W150 支持金物共	88.2	m			
	軒どい落し口新設	塩ビ製　100A 既設たてどいに接続	14.0	か所			
	屋根補修	ガルバリウムカラー鋼板　厚0.5 200×300　メタル接着剤	500.0	か所			
	【改修】 計						
	（小計）						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
3	構造体改修工事						
	【撤去】						
	（鉄骨工事）						
	H鋼撤去	H-248×124×5×8	1.1	t			
	H鋼撤去	H-198×99×4.5×7	3.1	t			
	【撤去】 計						
	【改修】						
	(鉄筋工事)						
	異形鉄筋	SD295A　径13	0.1	t			
	異形鉄筋	SD295A　径10	0.2	t			
	鉄筋加工		0.3	t			
	鉄筋運搬		0.3	t			
	鉄筋組立		0.3	t			
	接着系アンカー	下向き　径13　定着長さ160 異形鉄筋共	570.0	か所			
	(型枠工事)						
	打放し用型枠	B種	65.0	m2			
	型枠運搬		65.0	m2			
	(コンクリート工事)						
	普通コンクリート	Fc21　SL15	5.9	m3			
	コンクリート打設費		5.9	m3			
	打放し面補修	B種	65.0	m2			
	基礎天端均し	金ごて直均し	18.7	m2			
	コンクリート面目あらし	既存地中梁　天端	18.7	m2			
	（鉄骨工事）						
	(鉄骨材料)						
	H鋼	SS400　H-248×124×5×8	1.1	t			
	H鋼	SS400　H-198×99×4.5×7	3.2	t			
	溝形鋼	SS400　[-100×50×5×7.5	0.2	t			
	山形鋼	SS400　L-65×65×6	0.1	t			
	角形鋼管	STKR400 □-100×100×2.3	0.4	t			
	軽量溝形鋼	SSC400 C-100×50×20×2.3	0.8	t			
	鋼板	SS400　厚12	0.04	t			
	鋼板	SS400　厚9	0.6	t			
	鋼板	SS400　厚6	0.5	t			
	平鋼	SS400　厚9　幅25	0.03	t			
	縞鋼板	SS400　厚4.5	0.4	t			

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
	高力ボルト	S10T　径22　首下長さ55	166.0	組			
	高力ボルト	S10T　径16　首下長さ40	287.0	組			
	高力ボルト	S10T　径16　首下長さ35	100.0	組			
	アンカーボルト	径20　定着長さ240	44.0	組			
	(工場製作費)						
	工場製作費		6.9	t			
	工場溶接	6mm隅肉換算	200.0	m			
	工場錆止め塗装		6.9	t			
	超音波探傷試験	工場内　第3者	20.0	m			
	(現場工事費)						
	現場工事費	工場製作部材	6.9	t			
	H鋼取外し・再取付	H-150×75×5×7	40.0	か所			
	水平ブレース取外し・再取付	径22　長さ≒4,000	80.0	か所			
	現場溶接	6mm隅肉換算	1,094.0	m			
	高力ボルト締付け		532.0	本			
	現場錆止め塗装		6.9	t			
	超音波探傷試験	現場　第3者	30.0	か所			
	(その他)						
	鉄骨運搬費		6.9	t			
	鉄骨建て方重機		1.0	式			
	アンカーボルト埋込み		44.0	か所			
	柱脚均しモルタル	無収縮モルタル　厚50　260×150	22.0	か所			
	【改修】 計						
	（小計）						

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
4	建具改修工事						
	【撤去】						
	鋼製両開き戸撤去	幅1,600　高さ2,000 扉及び附属金物のみ 集積共　枠残置	3.2	m2			
	【撤去】 計						
	【改修】						
	鋼製両開き戸 新設	幅1,500　高さ1,930	1.0	か所			
	アルミ製24連外倒し窓 取外し・再取付	幅38,430　高さ700 オペレーター装置交換 開閉動作調整	1.0	か所			
	アルミ製4連外倒し窓 改修	幅3,810　高さ520 オペレーター装置交換のみ	2.0	か所			
	アルミ製水切り新設	幅80　長さ5,250 既存アルミ窓に取付	6.0	か所			
	アルミ製水切り新設	幅80　長さ5,060 既存アルミ窓に取付	2.0	か所			
	アルミ製水切り新設	幅80　長さ4,920 既存アルミ窓に取付	2.0	か所			
	アルミ製水切り新設	幅80　長さ4,320 既存アルミ窓に取付	2.0	か所			
	アルミ製水切り新設	幅80　長さ1,730 既存アルミ窓に取付	12.0	か所			
	鋼板製見切り新設	厚1.5　高さ40　長さ9,570 既存アルミ窓に取付	2.0	か所			
	シーリング新設	MS-2　20×10	6.9	m			
	シーリング新設	MS-2　10×10	178.0	m			
	【改修】 計						
	（小計）						

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
5	床下隠しパネル改修工事						
	【撤去】						
	既存床下隠しパネル撤去	ｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞﾒﾀﾙ+樹脂板 厚5.5　鋼管枠共　集積共	98.8	m2			
	既存縁石撤去	片面歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸA種 集積共	6.1	t			
	【撤去】 計						
	【改修】						
	床下隠しパネル新設	中空セメント板縦張り　厚15	94.3	m2			
	同上取付金具新設	アルミ製既製品 下枠、上枠共	22.5	m			
	同上点検口	600角　GRC製既製品 取付下地共	6.0	か所			
	【改修】 計						
	（小計）						

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
6	EXP.J改修工事						
	【撤去】						
	シーリング撤去	MS-2　20×10	28.6	m			
	【撤去】 計						
	【改修】						
	EXP.Jカバー新設	アルミ製既製品　屋根ー壁 可動幅75㎜品	21.5	m			
	EXP.Jカバー新設	アルミ製既製品　壁ー壁 可動幅75㎜品	7.9	m			
	シーリング新設	MS-2　20×10	29.4	m			
	【改修】 計						
	（小計）						

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
7	塗装改修工事						
	【撤去】						
	シーリング撤去	PS-2　10×10	209.0	m			
	【撤去】 計						
	【改修】						
	DP塗り	鉄鋼面　上塗り塗料1級 上塗り塗装のみ	205.0	m2			
	DP塗り	鉄鋼建具面　上塗り塗料1級 素地こしらえ　錆止め塗装共	8.7	m2			
	DP塗替え	鉄鋼面　上塗り塗料1級 下地調整　錆止め塗装共	2,695.0	m2			
	DP塗替え	屋根鉄鋼面　上塗り塗料1級 下地調整　錆止め塗装共	641.0	m2			
	プール塗料塗替え	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 ｴﾎﾟｷｼ樹脂+ふっ素樹脂塗料塗替え 下地調整RA種 ｶﾁｵﾝ系ﾓﾙﾀﾙ薄塗共（10㎡程度）	405.0	m2			
	プール塗料塗替え	鉄鋼面 ｴﾎﾟｷｼ樹脂+ふっ素樹脂塗料塗替え 下地調整RA種	240.0	m2			
	シーリング新設	PS-2　10×10	209.0	m			
	【改修】 計						
	（小計）						

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
8	発生材運搬						
	とりこわし発生材 積込み	コンクリートくず類	2.6	m3			
	とりこわし発生材 積込み	内装材等	53.5	m3			
	とりこわし発生材 運搬	コンクリート(無筋)くず 6.0km以下　DID有	2.6	m3			
	とりこわし発生材 運搬	プラスチックくず 6.0km以下　DID有	47.7	m3			
	とりこわし発生材 運搬	廃発泡スチロール・ウレタン 23.0km以下　DID有	5.6	m3			
	とりこわし発生材 運搬	アスベスト含有成形板 23.0km以下　DID有	0.2	m3			
	（小計）						

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
C							
	発生材処分費						
	発生材 処分	コンクリート(無筋)くず	6.1	t			
	発生材 処分	プラスチックくず	47.7	m3			
	発生材 処分	廃発泡スチロール・ウレタン	0.2	t			
	発生材 処分	アスベスト含有成形板	0.3	t			
	発生材 処分	金属くず	5.9	t			
	(小計)						

七ヶ浜町

平成３１年度町民プール改修工事

図面リスト			
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
Ａ－０１	特記仕様書１	Ｓ－０１	鉄骨標準図
０２	特記仕様書２	０２	補強伏図（１）
０３	特記仕様書３	０３	補強伏図（２）
０４	特記仕様書４	０４	補強伏図（３）
０５	特記仕様書５	０５	補強軸組図（１）
０６	案内図　配置図	０６	補強軸組図（２）
０７	改修概要　仕上表	０７	補強軸組図（３）
０８	平面図（改修前・撤去）	０８	補強詳細図（１）
０９	平面図（改修後）	０９	補強詳細図（２）
１０	屋根伏図（改修前・撤去）	１０	補強詳細図（３）
１１	屋根伏図（改修後）		
１２	立面図（改修前・撤去）		
１３	立面図（改修後）		
１４	矩計図（１）		
１５	矩計図（２）		
１６	建具表		
１７	部分詳細図（１）		
１８	部分詳細図（２）		

七ヶ浜町

特　記　仕　様　書

Ⅰ　工　事　概　要

1　工事番号・名称　　平成３１年度町民プール改修工事
2　工　事　場　所　　宮城県宮城郡七ヶ浜町吉田浜字野山５－９（町民プール）
3　用途地域等
　都市計画区域（⊙ 内　・　外）　用途地域（　指定なし　　）
　防火地域等（・　防火　　・　準防火　　・　指定なし　　⊙　２２条　）
　その他の地域・地区（　　）
4　主　要　用　途　　プール
5　敷　地　面　積　　１８，０３６．８６５ m2
6　工 事 の 概 要
　・屋根改修工事
　・構造体改修工事
　・床下隠しパネル改修工事
　・ＥＸＰ．Ｊ改修工事
　・建具改修工事
　・塗装改修工事

7　別　途　工　事

8　そ　の　他

9　特記仕様書の範囲
　特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印もので構成する。
　・　構造特記仕様書　　・　外構工事特記仕様書　　・　植栽工事特記仕様書
　・　解体工事特記仕様書　　・　電気設備工事特記仕様書　　・　機械設備工事特記仕様書
　・

Ⅱ　建　築　工　事　仕　様

1．共通仕様
　図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書(平成28年版)［平成28年6月改定］」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。ただし、「改修標準仕様書」に記載されていない事項は、「公共建築工事標準仕様書（平成28年版）［平成28年6月改定］」（以下「標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書(平成24年版）」（以下「解体共通仕様書」という。）による。
　なお、施工条件明示書は特記仕様書に含める。
2．特記仕様
　1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
　2）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
　3）特記事項に記載の＜　＞、（　）及び［　］内の表示番号は、それぞれ「改修標準仕様書」、「標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	①. 一般事項	⊙　工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合には、監督職員に報告の上、指示に従うこと。 ⊙　請負業者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ⊙　施工体系図を現場に掲示すること。 ・　工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 調査範囲　　※　図示 ・
	②. 適用基準等	⊙　建設工事執行規則(昭和39年3月宮城県規則第9号) ⊙　宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（平成27年4月1日施行） ⊙　建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成22年版） ⊙　宮城県建築工事写真撮影要領（宮城県土木部制定　平成12年版）及び工事写真の撮り方〈建築編〉第２編 工事写真の撮り方（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
	3．概成工期	工事工期より　　日前　　〈1.1.2〉
	④. 工事実績情報(CORINS)の登録	※　適用する（請負精算額が500万円以上の場合）　〈1.1.4〉 受注時、変更時及び工事完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、契約締結後及び工事完成後の10日以内に登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 ・　適用しない
	⑤. 発生材の処理等	発生材の処理　　〈1.3.8〉 ・　引渡しを要するもの（　　） ・　特別管理産業廃棄物（　　） 受入れ施設名・所在地(㎞) ・　現場において再利用を図るもの（　　） ・　再生資源化を図るもの

種　類	受入施設名	所在地(㎞)	備　考
・　コンクリート塊			
・　アスファルトコンクリート塊			
・　建設発生木材			
・　コンクリートから成る建設資材			
・			

・その他の廃棄物（安定型）

種　類	受入施設名	所在地(㎞)	備　考

・その他の廃棄物（管理型）

種　類	受入施設名	所在地(㎞)	備　考

上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。
また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること

PCB（ポリ塩化ビフェニール）含有機器　・有（数量は図示）　[5.4.3]
　・無

PCB含有シーリング材　・有（施工範囲は図示）[5.4.4]
　・無

PCBを含有する機器等については、飛散、流出がないように適切な容器に納め、適切な場所に保管し、工事完了後、監督職員に引き渡す。

アスベストの処理
吹き付けアスベスト除去工事　・有(図示　　)　・無
　受け入れ施設名・所在地(㎞)
アスベスト含有保温材除去工事　・有(図示　　)　・無
　受け入れ施設名・所在地(㎞)
アスベスト成形板除去工事　・有(図示　　)　・無
　受け入れ施設名・所在地(㎞)

ヒ素又はカドミウム含有石膏ボードの処理
ヒ素又はカドミウムボード　・有(図示　　)　・無
次に該当する場合は、指定する場所に処分すること。
＜対象となる石膏ボード＞
小名浜吉野石膏（株）　いわき工場　昭和48年10月～平成9年4月の間に製造されたもの
日東石膏ボード（株）　八戸工場　平成4年10月～平成9年4月の間に製造されたもの
指定する処分場
【名称：　　所在地(㎞)　　】

⑥. 電気保安
・　適用する　　※　適用しない　　〈1.3.3〉

⑦. 事故報告　　〈1.3.10〉
工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。

⑧. 建築材料等
材料の品質等　　〈1.4.2〉
※　本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし，その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。
　特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これらと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。

環境への配慮　　〈1.4.1〉
※　本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。

※　ホルムアルデヒド仕様
使用する材料のホルムアルデヒド仕様は以下のとおりとする。
ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合
該当する建築材料
1）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品
2）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品
3）次の表示のあるＪＡＳ適合品
　a．非ホルムアルデヒド系接着剤使用
　b．接着剤等不使用
　c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用
　d．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
　e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用

⑨. 室内の空気中の化学物質濃度の測定
※　ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　　〈1.6.9〉(1.5.9)
試料採取及び測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか，拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。
測定対象物質
※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ（濃度指針値　100μg/m3　・　0.08ppm）
※ ｽﾁﾚﾝ（濃度指針値　220μg/m3　・　0.05ppm）
※ ﾄﾙｴﾝ（濃度指針値　260μg/m3　・　0.07ppm）
※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ（濃度指針値　3,800μg/m3　・　0.88ppm）
※ ｷｼﾚﾝ（濃度指針値　870μg/m3　・　0.20ppm）

測定する室等：（　プール　　）

採取方法：吸引方式又は拡散方式とし，拡散方式では８時間採取する。

測定結果等報告書の提出
次の事項を記載した報告書を２部提出する。
・測定結果
・試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内），天候，風の状況，日射進入状況，測定年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成時から測定日までの日数）
・試料採取方法，測定方法，使用した測定機器

測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は，引渡は受けない。

・　総揮発性有機化合物の測定
　測定方法，測定物質及び測定か所等については，末尾に定める総揮発性有機化合物測定仕様書による。

※　室内ＶＯＣ濃度の測定結果に関する書面の当該施設への提示については，施設管理者に依頼する。

10. 特別な材料の工法
「改修標準仕様書」及び「標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。

1 一般共通事項	⑪. 建築基準法による風圧力等の指定	〈3.5.4〉〈3.9.3〉〈5.10～12.2〉〈5.13.5〉(13.2.3) (13.3.3) 適用工事：・合成高分子系ルーフィングシート　・アルミニウム笠木　・金属板屋根葺　・折板屋根葺　・ガラスブロック　・重量シャッター　・軽量シャッター　・オーバーヘッドドア 建築基準法の指定：風速(V0)　※３０　・ 地表面粗度区分　・Ⅱ　・Ⅲ 多雪地域の指定　・有　・無
	12. 設計ＧＬ	※　図　示　　・　現状平均地盤高
	⑬. 施工調査	施工数量調査　　〈1.5.2〉

調査項目	調査範囲	調査方法	成　果　品

・　既存部分の破壊を行った場合の補修方法は、図示による。　〈1.5.3〉

⑭. 技　能　士
・　下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。　〈1.6.2〉
※　下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。
　下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。

工事種目	技能検定職種（技能検定作業）
以下の該当工事	・該当する作業がある以下の職種（作業）の全て
仮設工事	・とび（とび作業）
防水改修工事	・防水施工（・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業　　）
外壁改修工事	・左官(左官作業)　・タイル張り(タイル張り作業) ・樹脂接着剤注入施工(樹脂接着剤注入工事作業) ・塗装(建築塗装作業)
建具改修工事	・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ・ガラス施工（ガラス工事作業） ・自動ドア施工（自動ドア施工作業）
内装改修工事	・内装仕上施工（・プラスチック系床仕上工事作業 ・カーペット系床仕上作業 ・木質系床仕上工事作業 ・ボード仕上工事作業 ・鋼製下地工事作業　　）
	・表装（壁装作業）
塗装改修工事	・塗装（建築塗装作業）
耐震改修工事	・鉄筋施工(鉄筋組立作業) ・型枠施工(型枠工事作業)　・とび(とび作業) ・コンクリート圧送施工(コンクリート圧送工事作業)
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ALCﾊﾟﾈﾙ・押出成形セメント板工事	・ブロック建築（コンクリートブロック工事作業） ・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）
石工事	・石材施工（石張り作業）
排水工事	・配管（建築配管作業）
舗装工事	・路面表示施工（・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ作業　　）
植栽工事	・造園（造園工事作業）
屋根及びとい工事	・建築板金（内外装板金作業） ・かわらぶき（かわらぶき作業）

1 一般共通事項	⑮. 完成図等	〈1.8.1〉〈1.8.2〉〈1.8.3〉 営繕工事完成引渡要領（平成31年1月1日宮城県土木部営繕課・設備室策定）により作成する。 ※　完成原図　１部 ※　青焼２つ折製本　１部 ※　青焼Ａ４版折製本　１部 ※　青焼縮小（Ａ３版）２つ折製本　２部 ※　完成図面電子データDXF形式及びPDF形式　CD１枚
	⑯. 完成写真	※　作成する 宮城県建築工事写真撮影要領により，完成届に添付する完成写真とは別に次のものを原版（ネガ又は電子媒体）とともに監督職員に提出する。 なお，原版を電子媒体とする場合は，CD等で提出すること。

分　類	サイズ	撮影箇所数	部　数	提出様式
※カラー ・白黒	※Ｌ ・２Ｌ ・六切り	※宮城県写真撮影要領の完成写真程度 ・　箇所　枚	※１部 ・　部	※工事用アルバムA4版 ポケット式程度 ・フリーアルバム （台紙寸法323×270程度） ・

・　作成しない

	⑰. 設備工事との取合い	施工範囲　各工事の区分表による。 施 工 図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。
	⑱. 火災保険等	工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。 保険の種類　※　火災保険　　※　建設工事保険　　・ 保険期間　※　工事着手から工事目的物引き渡しまで　・
2 仮設工事	①. 仮囲い	※　設ける　　・　設けない 仮囲いの位置及び延長は図示による。 ・万能鋼板（H=　）　・波形鉄板（H=　）　・単管シート（H=　） ・シートゲート（H=　，W=　）×　　箇所
	②. 交通誘導員	⊙　配置する（ 60 日　×　1 人　＝　60 人日）　※　配置しない
2 仮設工事	③. 揚重機械器具	・　トラッククレーン（　ｔ吊り）×　　日 ・　　（　ｔ吊り）×　　日
	④. 工事表示板	※　設置する（設置枚数　１枚）　・　設置しない 営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成14年2月6日宮城県土木部営繕課・設備室制定）による。
	⑤. 足場その他	内部足場　⊗　脚立、足場板等　⊙　棚足場　〈2.2.1〉 外部足場　※　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種　〈表2.2.1〉 ・　Ｄ種　・　Ｅ種 防護シート　※　設ける　・　設けない 材料の運搬　・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種　〈表2.2.2〉 ・　Ｄ種　※　Ｅ種 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。
	⑥. 養生	家具の移動　・　行う(図示)　・　行わない　〈2.3.1〉 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 ・　行う　・　行わない 養生の方法 保管場所
	7．仮設間仕切り	・　設ける(図示)　〈2.3.2〉〈表2.3.1〉 ・　Ａ種　・　Ｂ種　※　Ｃ種
	⑧. 監督職員事務所	※　設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保する）　〈2.4.1〉 ・　設ける（規模　　m程度　請負者事務所と同様　・可　・否） 備品（
	⑨. 工事用水	構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない
	⑩. 工事用電力	構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない ※ 溶接などの消費電力の大きな機器を除く
	⑪. 工事用通路	※　指定しない　・　指定する（図示）
	12. その他の仮設	・
3 防水改修工事	1．アスファルト防水	改修工法の種別　〈3.1.4〉〈3.3.3〉〈表3.1.1〉〈表3.3.3～10〉

新規防水層の種別	改修工法の種類	施工箇所
・		
・		
・Ｅ－１		屋内（便所・浴室）

アスファルトの種類　JIS K2207のJIS表示認証製品　※３種　〈3.2.2〉
脱気装置　・　設ける　・設けない　〈3.3.3〉
種　類　・　平面部脱気型　・　立ち上がり部脱気型
施工業者　防水層製品の製造所又はその指定業者とする。

2．伸縮調整目地　〈3.3.2〉〈3.3.5〉
※　成型伸縮目地（天端　ＥＰＴゴム、サイド　ブチルゴム製）

3．改質アスファルトシート防水　改修工法の種別　〈3.1.4〉〈3.4.3〉〈表3.1.1〉〈表3.4.1～3〉

新規防水層の種別	改修工法の種類	施工箇所	仕上塗料
・ＡＳ－Ｔ			※　カラー
・ＡＳ－Ｊ			・　シルバー
・ＡＳＩ－			

脱気装置　・　設ける　・設けない　〈3.4.3〉
種　類　・　平面部脱気型　・　立ち上がり部脱気型
施工業者　防水層製品の製造所又はその指定業者とする。

4．合成高分子系ルーフィングシート防水　改修工法の種別　〈3.1.4〉〈3.5.3〉〈表3.1.1〉〈表3.5.1～2〉

新規防水層の種別	改修工法の種類	施工箇所	仕上塗料
・Ｓ－Ｆ			※　カラー
・Ｓ－Ｍ			・　シルバー
・ＳＩ－			

脱気装置　・　設ける　・設けない　〈3.5.3〉
種　類　・　平面部脱気型　・　立ち上がり部脱気型
施工業者　防水層製品の製造所又はその指定業者とする。

5．塗膜防水　改修工法の種別　〈3.1.4〉〈3.6.3〉〈表3.1.1〉〈表3.6.1～2〉

新規防水層の種別	改修工法の種類	施工箇所	仕上塗料
・Ｘ－１			※　カラー
・Ｘ－２			・　シルバー
・Ｙ－２			

脱気装置　・　設ける　・設けない　〈3.6.3〉
種　類　・　平面部脱気型　・　立ち上がり部脱気型
施工業者　防水層製品の製造所又はその指定業者とする。

⑥. シーリング材の種別及び施工箇所　〈3.7.2〉〈表3.7.1〉
※　被着体に応じたものとし、〈表3.7.1〉を標準とする。
・　〈表3.7.1〉によらない箇所及びシーリング材料

〈表3.7.1〉によらない箇所	シーリング材料
・カーテンウォール	
・	

⑦. シーリング改修工法　改修工法の種別　〈3.1.4〉〈3.7.4～8〉〈表3.1.2〉

改修工法の種類	施工箇所
⊙　シーリング充てん工法	
⊙　シーリング再充てん工法	
・　拡幅シーリング充てん工法	
・　ブリッジ工法（　　）	

⑧. と　い　〈3.8.2〉〈表3.8.1〉〈表3.8.3～4〉

材　種	防　露
・　配管用鋼管（ＳＧＰ）	※　〈表3.8.3～4〉により行う
⊙　硬質塩化ビニル管（ＶＰ）	
・	

特記無き限り既存のとい受け金物を使用する。
鋼管製といの防露巻き　〈3.8.3〉〈表3.8.5〉
※　〈表3.8.5〉による。　・

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	全葉	図面 No
図面名称	特記仕様書１　Scale		Ａ－０１

3 防水改修工事

9. ルーフドレイン

※ 鋳鉄製 〈3.8.2〉<表3.8.2〉
※ 縦型 ・ 横型

10. アルミニウム製笠木

部材の種類 〈3.9.2〉<表3.9.1〉
・ 押出 ２５０形 ・ 押出 ３００形 ・ 押出 ３５０形
・ 板材折曲げ形
付属部品の材料、角各部並びに突当り部等の役物は、笠木本体製作所の仕様による。

表面処理 〈3.9.2〉<表5.2.2〉
※ Ｂ－１種 ・ Ｂ－２種

11. 防水保証

アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡しの日から10年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書を提出する。
塗膜防水及びケイ酸質系塗布防水については、メーカー・施工業者が通常定めている期間とし、保証書を作成し提出する。

4 外壁改修工事

1. ひび割れ部改修

・ コンクリート打放し仕上げ 〈4.3.4～6〉

工法	材料	ひび割れの幅(mm)	延べ長さ(m)
※ シール工法	※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂	０.２未満	
※ 樹脂注入工法	※ 硬質形エポキシ樹脂 ・ 軟質形エポキシ樹脂	０.２～０.３未満 ０.３～０.５未満 ０.５～１.０未満	
※ Ｕカットシール材充てん工法	※ 可とう性エポキシ樹脂	０.２～０.３未満 ０.３～０.５未満 ０.５～１.０未満	
	・ シーリング材ＰＵ－２ ・ 可とう性エポキシ樹脂	１.０～１.５未満 １.５～２.０未満 ～ 未満	

・ モルタル塗り仕上げ 〈4.4.5～7〉

工法	材料	ひび割れの幅(mm)	延べ長さ(m)
※ シール工法	※ パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂	０.２未満	
※ 樹脂注入工法	※ 硬質形エポキシ樹脂 ・ 軟質形エポキシ樹脂	０.２～０.３未満 ０.３～０.５未満 ０.５～１.０未満	
※ Ｕカットシール材充てん工法	※ 可とう性エポキシ樹脂	０.２～０.３未満 ０.３～０.５未満 ０.５～１.０未満	
	・ シーリング材ＰＵ－２ ・ 可とう性エポキシ樹脂	１.０～１.５未満 １.５～２.０未満 ～ 未満	

・ タイル張り仕上げ 〈4.5.5～8〉<4.5.16〉

工法	材料	ひび割れの幅(mm)	延べ長さ(m)
※ シール工法	※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂	０.２未満	
※ 樹脂注入工法	※ 硬質形エポキシ樹脂 ・ 軟質形エポキシ樹脂	０.２～０.３未満 ０.３～０.５未満 ０.５～１.０未満	
※ タイル貼り除去後 ・Ｕカットシール材充てん工法 ・樹脂注入工法の上タイル張替え工法	※ 可とう性エポキシ樹脂	０.２～０.３未満 ０.３～０.５未満 ０.５～１.０未満	
	・ シーリング材ＰＵ－２ ・ 可とう性エポキシ樹脂	１.０～１.５未満 １.５～２.０未満 ～ 未満	
・ タイル部分張替え工法	・ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂		
・ 目地ひび割れ改修工法	※ 既製調合目地材		

・ 樹脂注入工法 〈4.3.4(c)〉

ひび割れの幅 (mm)	０.２～０.３未満	０.３～０.５未満	０.５～１.０以下
注入孔の間隔 (mm)	２００程度	３００程度	３００程度
注入量 (cc/m)			

コアの抜取り検査 ・ 行う ※ 行わない 〈4.3.4(f)〉

2. 欠損部改修

・ コンクリート打放し仕上げ 〈4.3.7〉

工法	材料	平均深さ(mm)	延べ面積(㎡)
※ 充てん工法	エポキシ樹脂モルタル	２０～３０未満	
		３０～４０未満	
	ポリマーセメントモルタル	５～１０未満	
		１０～１５未満	
		１５～２０未満	

・ モルタル塗り仕上げ 〈4.4.8～9〉

工法	材料	平均深さ(mm)	延べ面積(㎡)
※ 充てん工法	エポキシ樹脂モルタル	２０～３０未満	
		３０～４０未満	
	ポリマーセメントモルタル	５～１０未満	
		１０～１５未満	
		１５～２０未満	
・ モルタル塗替え工法	・〈表4.4.1〉による	２０程度 ラス下地２５程度	
	・ポリマーセメントモルタル		

・ タイル張り仕上げ 〈4.5.7～8〉

工法	材料	平均深さ(mm)	延べ面積(㎡)
※ タイル部分張替え工法	エポキシ樹脂モルタル	２０～３０未満	
		３０～４０未満	
	ポリマーセメントモルタル	１０～１５未満	
		１５～２０未満	
		～	
・ タイル張替え工法			

3. 浮き部改修

・ モルタル塗り仕上げ 〈4.4.4〉<4.4.8～15〉

工法	1箇所の面積(㎡)	浮き代(mm)	アンカーピン(本/㎡) 一般部	アンカーピン(本/㎡) 指定部	注入口(箇/㎡) 一般部	注入口(箇/㎡) 指定部	延べ面積(㎡) 一般部	延べ面積(㎡) 指定部
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満		※16 ・ ※25 ・					
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下	※13 ・ ※20 ・		※12 ・ ※20 ・			
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を越える	※13 ・ ※20 ・		※12 ・ ※20 ・			
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満		※ 9 ・ ※16 ・					
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下	※ 9 ・ ※16 ・		※ 9 ・ ※16 ・			
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を越える	※ 9 ・ ※16 ・		※ 9 ・ ※16 ・			
・充てん工法	0.25未満							
・モルタル塗替え工法								

・ タイル張り仕上げ 〈4.5.4〉<4.5.7～15〉

工法	1箇所の面積(㎡)	浮き代(mm)	アンカーピン(本/㎡) 一般部	アンカーピン(本/㎡) 指定部	注入口(箇/㎡) 一般部	注入口(箇/㎡) 指定部	延べ面積(㎡) 一般部	延べ面積(㎡) 指定部
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満		※16 ・ ※25 ・					
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下	※13 ・ ※20 ・		※12 ・ ※20 ・			
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を越える	※13 ・ ※20 ・		※12 ・ ※20 ・			
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満		※ 9 ・ ※16 ・					
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下	※ 9 ・ ※16 ・		※ 9 ・ ※16 ・			
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を越える	※ 9 ・ ※16 ・		※ 9 ・ ※16 ・			
・タイル部分張替え工法	0.25未満							
・タイル張替え工法								

アンカーピンの材質 〈4.2.2〉
※ 〈4.2.2(e)(f)〉による。
アンカーピン固定用エポキシ樹脂 〈4.2.2(e)(f)〉
※ JIS A6024のJIS表示認証製品 ※硬質 高粘度形
注入用エポキシ樹脂
※ JIS A6024のJIS表示認証製品

4. タイル張り

タイルの種類 JIS A 5209のJIS表示認証製品 〈4.2.2〉<4.5.8〉

施工箇所	形状寸法(mm)	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 注文	再生材利用タイル	備考
		・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	

※セメントモルタルによるタイル張替え工法
〈表4.5.4〉により、小口タイル以上二丁掛け以下は密着張りとする。
・有機系接着剤によるタイル張替え工法 〈表4.5.5〉による。

5. 塗り仕上げ外壁

〈4.1.5〉<4.2.2(j)〉<表4.2.4～5〉

規格名称	種類(呼び名)	仕上の形状	工法	上塗り材
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材E ・	・砂壁状 ・	・吹付け ・ローラー	
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C ・外装厚塗材E ・	・	※吹付け ・こて	
・複層仕上塗材	・複層塗材CE ※複層塗材E ・複層塗材RS ・複層塗材RE ・複層塗材Si ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RS ・	・ゆず肌 ・凸部処理 ・凸凹模様	・吹付け ・ローラー	溶剤 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 外観 ※つやあり ・メタリック 樹脂 ※アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系 ※アクリルシリコン系 (可とう形改修用塗材の場合) ・フッ素系
※可とう形改修用仕上塗材	※可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE	※ゆず肌 ・さざ波	※吹付け ・ローラー	
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・砂壁状	・吹付け	
	・こて塗用軽量塗材	・平たん状	・こて塗り	

仕上塗材の耐候性 ※ 耐候形１種 (可とう形改修塗材の場合)
・ 耐候形２種
※ 耐候形３種 (可とう形改修塗材以外の場合)

6. 壁仕上げ既存塗膜等の除去及び下地処理 〈4.6.3〉

塗膜の劣化部の除去工法	処理範囲
・ サンダー工法 ※ 高圧水洗工法 ・ 塗膜はく離剤工法 ・ 水洗い工法	※ 既存仕上面全体 ・ 図示

5 建具改修工事

① 一般事項

改修工法 〈5.1.3〉
⊙ かぶせ工法 ・ 撤去工法
新規建具周囲の補修方法及び範囲は図示による。

見本の作成等 〈5.1.5〉
製 作 ※ 行わない ・ 行う (建具表による)
仮 組 ※ 行わない ・ 行う (建具表による)

防犯建物部品 ※ 使用しない ・ 使用する (建具表による) 〈5.1.7〉

② アルミニウム製建具

外部に面する建具 〈5.2.2〉<5.2.4〉<表5.2.1〉

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
・ Ａ 種	Ｓ－４	Ａ－３	Ｗ－４	７０ (引違い、片引き、上げ下げ窓で複層ガラスを使用する時に性能が確保できない場合は、１００)
・ Ｂ 種	Ｓ－５			
・ Ｃ 種	Ｓ－６	Ａ－４	Ｗ－５	※１００ ・

※ 適用箇所は図示による

表面処理		
外部に面する建具	※ Ｂ－１種	・ Ｂ－２種
内部建具	※ Ｃ－１種	・ Ｃ－２種

Ｂ－２種，Ｃ－２種の場合 ・ブロンズカラー (※標準色 ・濃色)
・ステンカラー

防音ドアセット，防音サッシ ・ 適用する (適用範囲は図示による)
※ 適用しない
適用する場合の遮音性の等級 ・ Ｔ－１ ・ Ｔ－２ ・ Ｔ－３

断熱ドアセット，断熱サッシ ・ 適用する (適用範囲は図示による)
※ 適用しない
適用する場合の断熱性の等級 ・ Ｈ－２ ・ Ｈ－３

耐震ドアセット，耐震サッシ ・ 適用する (適用範囲は図示による)
※ 適用しない
適用する場合の面内変形追随性の等級 ・ Ｄ－１ ・ Ｄ－２

3. 網戸

使用方法による区分 ※外面納まりの可動式 〈5.2.3〉
・内部納まりの開き式

防虫網 (線径0.25mm 網目16-18メッシュ)
・ガラス繊維入り合成樹脂 ・ｽﾃﾝﾚｽ(SUS 316) ※合成樹脂

防鳥網 ※ステンレス (SUS304) 線径1.5mm ピッチ15mm

4. 樹脂製建具

外部に面する建具性能等級等 〈5.3.2〉<表5.3.1〉

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
・ Ａ 種	Ｓ－４	Ａ－４	Ｗ－４	※建具表による
・ Ｂ 種	Ｓ－５		Ｗ－５	
・ Ｃ 種	Ｓ－６			

※ 適用箇所は図示による

防音ドアセット，防音サッシ 〈表5.3.2〉
・ 適用する (適用範囲は図示による) ※ 適用しない
適用する場合の遮音性の等級 ・ Ｔ－Ａ種 ・ Ｔ－Ｂ種

断熱ドアセット，断熱サッシ 〈表5.3.3〉
・ 適用する (適用範囲は図示による) ※ 適用しない
適用する場合の断熱性の等級 ・ Ｈ－Ａ種 ・ Ｈ－Ｂ種

表面色 〈5.3.4〉
・標準色 (白) ・特注色 (・黒 ・ブラウン ・シルバー)

⑤ 鋼製建具

簡易気密型ドアセット 〈5.4.2〉<5.4.4〉<表5.4.2〉
※ 使用する (適用範囲は図示とする)
気密性 ※ Ａ－３ ・
水密性 ※ Ｗ－１ ・
・ 使用しない

外部に面する建具の耐風圧性 ※ Ｓ－４ ・ Ｓ－５

鋼 板 〈5.4.3〉
※溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)
・溶融亜鉛－５%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)

建具寸法が〈5.4.4(a)〉を超える又は図示された建具に使用する鋼板類の厚さ

区分		使用箇所	厚さ (mm)
窓	枠類	枠，方立，無目	〈表5.4.2〉に同じ
出入口	枠類	一般部分	2.3
	戸	中骨	2.3
上記以外			〈表5.4.2〉に同じ

標準型鋼製建具 ※ 使用する ・ 使用しない 〈5.4.6〉

6. 鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセット 〈5.5.2～4〉<表5.5.1〉
※ 使用する (適用箇所は図示による)
気密性 ※ Ａ－３ ・
・ 使用しない

戸の鋼板 ※ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板

標準型鋼製軽量建具 ※ 使用する ・ 使用しない 〈5.5.6〉

標準型鋼製軽量建具の小窓枠，がらり ※ 鋼製 ・ アルミ製

7. ステンレス製建具

簡易気密型ドアセット 〈5.6.2〉
※ 使用する (適用範囲は図示とする)
気密性 ※ Ａ－３ ・
水密性 ※ Ｗ－１ ・
・ 使用しない

外部に面する建具の耐風圧性 ※ Ｓ－４ ・ Ｓ－５

表面処理 ※ ＨＬ ・ 〈5.6.4〉
鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ かど出し曲げ 〈5.6.5〉

5 建具改修工事

8. 木製建具

(16.7.2～4)
建具材の加工、組立時の含水率 ・ Ａ種 ※ Ｂ種 ・ Ｃ種
かまち戸の樹種 かまちは杉上小節程度 桟，鏡板は杉無節程度
ふすまの上張り ※ 新鳥の子程度又はビニル紙程度
ふすまの種類 ※ 戸ふすま 工法 (・ 在来型 ・ チップ型)

9. 建具用金物

〈5.7.2〉<表5.7.1〉

金物の種類	型式	製造所
シリンダー箱錠		
本締り付きモノロック		
モノロック		
シリンダー本締り錠		
グレモン錠		
ドアクローザー		
フロアヒンジ		
ヒンジクローザー	ピボット形	
ピボットヒンジ		JIS表示認証製品
レバーハンドル	レバー長さ L=130程度	錠前類と同一製造所
戸あたり	あおり止め付き	

標準型鋼製建具及び標準型軽量鋼製建具(準標準型共)のドアクローザー、シリンダー箱錠は公共工事標準型とする。
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセント取付位置は、建具表による。

マスターキーの作成 ・ 要 ・ 不要 〈5.7.4〉
・ 不要(既存マスターキーで施解錠可能とする。)

10. 自動ドア開閉装置

性能 ・ スライディングドア 〈5.8.2〉<表5.8.1～2〉
・ スイングドア

センサーの種類 ・ 光線式 (反射) スイッチ 〈5.8.3〉<表5.8.3〉
・ マットスイッチ式
・ タッチスイッチ
・
※ センサーの種類によらず補助センサー併用とする

凍結防止装置 ・ 要 ※ 不要
全半開装置 ※ 設ける (半開幅＝)
・ 設けない

11. 重量シャッター

〈5.10.2〉<表5.10.1〉

種類	シャッターケース	耐風圧強度	開閉方式	保護装置
・ 一般シャッター	※ 設ける ・ 設けない	建具表及び図示による	※ 上部電動式(手動併用) ・ 上部手動式	障害物感知装置(自動閉鎖型) ※ 設ける ・ 設けない
・ 防火シャッター ・ 外壁用 ・ 屋内用	※ 設ける ・		※ 上部電動式(手動併用)	障害物感知装置(自動閉鎖型)を設ける。
・ 防煙シャッター				

スラット及びシャッターケース用鋼板 〈5.10.3〉
※溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)
・塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)

12. 軽量シャッター

〈5.11.2～4〉<表5.11.1〉

開閉形式	シャッターケース	耐風圧強度	スラットの形状	保護装置
※ 手動式 ・ 上部電動式(手動併用)	※ 設ける ・ 設けない	建具表及び図示による	※ インターロッキング型 ※ オーバーラッピング型	障害物感知装置(自動閉鎖型) ※ 設ける ・ 設けない

スラットの材質 〈5.11.3〉
※塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)
・塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)

13. オーバーヘッドドア

〈5.12.2～3〉

材質	開閉方式	収納形式	耐風圧性能	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	※ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	・ ５０ ・ ７５ ・１００ ・１２５ (JIS A4715による強さの区分)	※ 溶融亜鉛メッキ鋼板 ・ ステンレス鋼板

保護装置
障害物感知装置 ※ 設ける ・ 設けない

14. ガラス

〈5.13.2〉<5.13.3〉<表5.13.1〉
※ 外部の建具に使用するガラスは、建築基準法に基づく耐風圧性能を有すること。
※ ガラスの材料、厚さ、それぞれの種類等は建具表及び図示による。
合わせガラスの特性
・ Ⅰ類 ・ Ⅱ－１類 ・ Ⅱ－２類 ・ Ⅲ類
強化ガラスの特性
・ Ⅰ類 ・ Ⅲ類
熱線吸収板ガラス
性能 ・ １類 ・ ２類
色調 ・ ブルー ・ グレー ・ ブロンズ
複層ガラス
性能 ・ １種 ・ ２種
・ ３種 (・ Ｕ３－１ ・Ｕ３－２)
・ ４種 ・ ５種
封止の加速耐久性による区分
※ Ⅲ類
熱線反射ガラス
日射遮へい性 ・ １種 ・ ２種 ・ ３種
耐久性 ・ Ａ類 ・ Ｂ類
色調 ・ ブルー ・ グレー ・ ブロンズ
・ シルバー
反射皮膜 ・ 内側 ・ 外側
映像調整 ・ 行う ・ 行わない

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	全葉	図面 No
図面名称	特記仕様書２ (Scale)		Ａ－０２

5 建具改修工事

14. ガラス

ガラスの留め材
※ シーリング ・ ガスケット（可動アルミ製建具に限る）

防火戸のガラスの留め材は建築基準法の認定を受けたシーリング材とする。
ガラスの溝幅については、〈表5.13.1〉による。ただし強化ガラス、合わせガラス及び倍強度ガラスの溝幅は図示による。

複層ガラスの保証期間は引き渡し日から１０年間とし、メーカー保証書を提出する。

15. ガラスブロック（中空）

〈5.13.5〉

表面形状 (JIS A5212)	モジュール呼び寸法による区分（長さ×高さ）	厚さによる区分
正方形	・ １２５×１２５ ・ １６０×１６０	・ ８０
	・ ２００×２００ ・ ３２０×３２０	・ ９５
長方形	・ ２５０×１２５ ・ ３２０×１６０	・ １２５

品質等

ガラスの種別	柄	目地色	金属枠	耐火性能
・ 一般ガラス ・ 乳白ガラス ・ カラーガラス ・ 熱線反射ガラス	・ 無 ・ 有	・ 白 ・ グレー	・ アルミニウム製（表面処理 ） ・ ステンレス製（表面仕上 ）	・ 規定しない ・ 有（ 分間）

6 内装改修工事

① 改修範囲

既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 〈6.1.3〉
※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。
・ 図示の範囲

天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側６００mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。
・ 図示の範囲

天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※ 既存のまま
・ 図示の範囲

2. 既存床の撤去・下地補修

合成樹脂塗床の除去方法 〈6.2.2(a)〉
・ 目荒工法 ・ 機械的除去工法

3. 改修後の床の清掃範囲

・ 当該室全体 ・ 図示の範囲 〈6.2.2(c)〉

4. 既存壁の撤去・下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修方法 〈6.3.2(a)〉
※ 〈4.4.9〉による ・（ ）

5. 木材

表面仕上げの程度 ・ A種 ※ B種 ・ C種 〈6.5.1(c)〉

含水率 下地材 ※ A種 ・ B種 〈6.5.2(a)〉〈表6.5.2〉
造作材 ※ A種 ・ B種

造作材の材面の品質 ※ A種 ・ B種 〈6.5.2(b)〉〈表6.5.3〉

代用樹種を使用しない箇所 〈表6.5.4〉
※ なし ・ あり（ ）

6. 集成材

造作用集成材は〈6.5.2(c)(ii)〉による 〈6.5.2〉

見付け材面	JASによる集成材	その他
等級	※ １等 ・ ２等	※ JAS集成材１等同等
単材の樹種		
単材の厚さ(mm)	１０～１５	１０～１５

7. 床張り用合板

床下貼り用合板 〈12.2.1〉
※ JASの構造用合板 特類 ２等以上 C−D以上
・（ ）

8. 防腐・防蟻・防虫処理

薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 〈6.5.5〉
適用部位（ ） 保存処理性能区分 ・K２ ・K３ ・K４
薬剤の加圧注入処理を行ったのち、現場における加工、切断、孔あけ等をを行った箇所は、現場にて薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理を行う。
防虫処理
ラワン材 保存処理性能区分 ※K１

9. 軽量鉄骨天井下地材

野縁などの種類 〈6.6.2〉〈表6.6.1〉
屋内 ※ １９型 ・ ２５型（室名： ）
屋外 ・ １９型 ※ ２５型

インサート 〈6.6.4(a)〉
・ 既存インサートを使用する ・ あと施工アンカーを設ける

あと施工アンカーの引抜き試験 〈6.6.4(a)〉
・ 行う ※ 行わない

耐震性を考慮した補強 〈6.6.4(j)〉
※ 行わない ・ 行う（補強方法と補強箇所は図示による）

耐風圧性を考慮した補強（ピロティ、屋外軒天井等） 〈6.6.4(k)〉
※ 行わない ・ 行う（補強方法と補強箇所は図示による）

10. 軽量鉄骨壁下地材

〈6.7.3〉〈表6.7.1〉
スタッド、ランナーなどの種類は〈表6.7.1〉による。

11. 体育館の鋼製床下地

※ JIS A 6519のJIS表示認証製品

12. ビニル床シート張り

JIS A5705のJIS表示認証製品 〈6.8.2〉〈6.8.3〉

種類	記号	色柄	厚さ(mm)	特殊機能	工法
※ 発泡層のないもの	※FS ・TS	※無地 ・マーブル	※ ２.０ ・ ２.５	・帯電防止 ・耐動荷重	※熱溶接 ・突付け
・ 発泡層のあるもの	・HS ・KS	・	・	・	・

13. ビニル床タイル張り

JIS A5705のJIS表示認証製品 〈6.8.2〉

種類	記号	寸法	厚さ(mm)	特殊機能
※ コンポジションビニル床タイル	※ KT	※ 300×300 ・	※ ２.０ ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・ ホモジニアスビニル床タイル	・ FT	・ 300×300 ・ 450×450	・ ２.０ ・	・帯電防止 ・耐動荷重

14. ビニル床タイル・ビニル床シートの特殊機能

帯電防止 〈6.8.2〉
・ 帯電防止性能評価（JIS A 1455）1.2～3.1程度
又は耐電圧（JIS L 1023）3kV以下
・ 帯電防止性能評価（JIS A 1455）3.2～5.1程度
又は漏えい抵抗値（JIS A 1454）1×10^10オーム未満
・ 帯電防止性能評価（JIS A 1455）5.2以上
又は漏えい抵抗値（JIS A 1454）1×10^7オーム未満

耐動荷重
JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、層間剥離強度試験（発泡層のあるビニルシートのみ）およびキャスター性試験等の試験後異常がないこと。

15. 視覚障害者用床タイル

〈6.8.2〉

材質	寸法(mm)
・ 塩化ビニル系 ・ せっ器質タイル系	３００×３００

16. ビニル幅木

材種 ※ 軟質 ・ 硬質 ・ 溶接 〈6.8.2〉
高さ(mm) ・ ６０ ※ ７５ ・ １００
厚さ(mm) ・ １.５ ※ ２.０

17. カーペット敷き

・ タフテッドカーペット 〈6.9.3～4〉〈表6.9.2〉

施工箇所	パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	品質	帯電性
	・	・	※全面接着工法 ・グリッパー工法		・〈6.9.3(b)〉による

・ タイルカーペット 〈6.9.3～4〉〈表6.9.2〉

施工箇所	種類	パイル形状	寸法	総厚さ	帯電性
	※第１種 ・第２種	※ループパイル ・カットパイル	※500×500 ・	※ ６.５ ・	製造所の仕様による

18. 合成樹脂塗床

材料の種類 〈6.10.2〉
・ 厚膜型塗床材
・ 弾性ウレタン樹脂系塗床材
・ エポキシ樹脂系塗床材
・ 薄膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）

仕上の種類 〈6.10.3〉
・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ

19. フローリング張り

・単層フローリング 〈6.11.2～6〉〈表6.11.1～6〉

種別	樹種	厚さ(mm)	工法	塗装
・ フローリングボード	※ナラ ・	※１５ 幅 ７５ 長さ500以上	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品
・ フローリングブロック	※ナラ ・	※１５ 303×303 ・	・モルタル埋込み工法 ・接着工法	
・ モザイクパーケット	※ナラ ・	・６ ・８ ・９ ・	・接着工法	
・	・	・		

・複合フローリング

種別	樹種	種別	防湿処理	工法	塗装
※ 複合１種フローリング ・ 複合２種フローリング ・ 複合３種フローリング	※ナラ ・サクラ ・ヒノキ ・	・A種 ・B種 ※C種	・行う ※行わない	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品
・ 大型積層フローリング	・ナラ ・サクラ ・	・	・行う ・行わない	・特殊張り工法（体育館床）	

20. 畳敷き

畳の種別 ・ A種 ・ B種 〈6.12.2〉〈表6.12.1〉
※ C種 ・ D種（ ）

21. 石こうボードその他ボード張り

〈6.13.2～3〉〈表6.13.1〉〈表6.13.5〉

種類又は記号	種別など		厚さ(mm)	規格番号
けい酸カルシウム板（繊維強化セメント板）0.8FK又は1.0FK		壁	・ ８(不燃) ・ 10(不燃) ・ 12(不燃)	JIS A 5430（タイプ2）
		天井	・ ６(不燃) ・ ８(不燃) ・ 12(不燃)	
グラスウール吸音ボード（吸音材料）GW−B	ガラスクロス（JIS A 3414 EP18程度）額縁張り品		25(不燃)	JIS A 6301（32K）
ロックウール化粧吸音板（吸音材料）DR	※ 内部用 ・ 軒天用	普通	※ ９(不燃) ・ 12(不燃)	JIS A 6301
		立体模様	・ 12(不燃) ・ 15(不燃) ・ 19(不燃)	
せっこうボード（せっこうボード製品）GB−R		壁	・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃) ・ 15(不燃)	JIS A 6901
		天井	・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	
シージングせっこうボード（せっこうボード製品）GB−S		壁	12.5(準不燃)	JIS A 6901
		天井	・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	
化粧せっこうボード（せっこうボード製品）GB−NC	トラバーチン模様 色 ※白 ・黄		9.5(不燃)	JIS A 6901
化粧せっこうボード（せっこうボード製品）GB−D	木目模様	壁	・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	JIS A 6901
	木目模様（裏桟付き）特殊模様	天井	・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	

せっこうボードの目地処理 ・ 継目処理工法 ※ 突き付けV目地工法
・ 突き付け工法 ・ 目透し工法

22. 遮音シール材

・アクリル系シーリング材 ※ ジョイントコンパウンド 〈6.13.2〉

23. 壁紙張り

〈6.14.2〉

施工箇所	品質	防火種別
		・不燃 ・準不燃 ・その他
		・不燃 ・準不燃 ・その他
		・不燃 ・準不燃 ・その他
		・不燃 ・準不燃 ・その他
		・不燃 ・準不燃 ・その他

24. タイル張り

タイルの種類 JIS A 5209のJIS表示認証製品 〈6.16.3〉

施工箇所	形状寸法(mm)	うわぐすり 施	うわぐすり 無ゆうゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	再生材利用タイル	備考
		・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	

内装タイルの工法 〈6.16.3～4〉
・ 改良積上げ張り 施工箇所（ ）
・ 接着剤張り 施工箇所（ ）

25. セルフレベリング材塗り

種別 ・ 石こう系 ・ セメント系 〈6.17.2～3〉
塗厚 ※ 10mm ・

7 塗装改修工事

1. 防火材料

〈7.1.3〉
※ 屋内の壁及び天井の仕上げは、建築基準法に基づく基材同等の認定表示のあるものとする。
・ 次の箇所を除き防火材料とする。（ ）

② 錆止め塗料塗り

〈7.3.2～3〉〈表7.2.2～3〉〈表7.3.1～4〉

下地	種別	下地調整	塗装種別	塗料種別
鉄鋼面	新規	※RA種 ・RB種 ・RC種	※A種（見え掛かり） ※B種（見え隠れ）	※A種 ※B種
	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ・B種 ※C種	(塗り)（他の場合）
亜鉛めっき鋼面	新規建具	※RA種 ※RB種 ※RC種	※A種 ・B種 ・C種	※A種・B種
	新規	※RA種 ・RB種 ・RC種	・A種 ・B種 ※C種	※C種
	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ・B種 ※C種	(塗り)（他の場合）

3. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）

〈7.2.2～4〉〈7.4.2～5〉〈表7.2.1～3〉〈表7.4.1～3〉

下地	種別	下地調整	塗装種別	
木部	新規	・RA種 ※RB種 ・RC種	※A種（外部） ※B種（内部）・C種	・1種 ・2種
	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種	
鉄鋼面	新規	※RA種 ・RB種 ・RC種	※A種 ・B種 ・C種	※1種
	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種	・2種
亜鉛めっき鋼面	建具塗替	・RA種 ※RB種 ・RC種	※A種 ・B種 ・C種	※1種
	新規	※RA種 ・RB種 ・RC種	※A種 ・B種 ・C種	・2種
	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種	

4. 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）

〈7.2.5～7〉〈7.10.2〉〈表7.2.4～7〉〈表7.10.1〉

下地	種別	下地調整	塗装種別	塗料種別
コンクリート面 ALCパネル面 押出成形セメント板面	新規	※RA種 ・RB種 ・RC種	※A種 ・B種 ・C種	※1種
	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種	
モルタル面 プラスター面	新規	・RA種 ※RB種 ・RC種	※A種 ・B種 ・C種	※1種
	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種	
石こうボード その他のボード等の面	新規	・RA種 ※RB種 ・RC種	※A種 ・B種 ・C種	※1種
	塗替え	※RA種（継目処理工法） ※RB種（その他）・RC種	・A種 ※B種 ・C種	

8−1 耐震改修工事（鉄筋工事）

1. 鉄筋の種類

〈8.2.1〉〈表8.2.1〉

規格名称	種類の記号	径(mm)
鉄筋コンクリート用棒鋼	※ ＳＤ２９５Ａ	※ Ｄ１６以下 ・
	※ ＳＤ３４５	※ Ｄ１９以上 ・

2. 溶接金網

※ JIS G 3551のJIS表示認証製品 〈8.2.2〉
線径(mm) 6.0 × 網目(mm) 100
使用箇所（ ）

3. 鉄筋の継手

径 19 mm 以上 ※ ガス圧接 ・ 重ね継手 〈8.3.4〉

4. 柱の帯筋

・ 図示

5. 圧接完了後の抜取試験

試験方法 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張り試験 〈8.3.8〉

8−2 耐震改修工事（コンクリート工事）

1. 設計基準強度

普通コンクリート（N/mm2） 〈8.1.3〉

設計基準強度	適用箇所
※ ２１	

2. レディーミクストコンクリート

類別 ※ Ⅰ類 ・ Ⅱ類 〈8.1.3〉〈表8.1.1〉

3. 打放し仕上げの種別

〈8.1.4〉〈表8.1.3〉

種別	適用箇所
・ A種	
※ B種	
・ C種	

4. セメントの種類

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 〈8.2.5〉

5. 骨材

細骨材の塩分含有量（NaCl換算） ※ 0.04 %wt 以下 〈8.2.5〉

6. 混和材料

混和剤 ※ AE剤又はAE減水剤標準形Ⅰ種 〈8.2.5〉

7. 軽量コンクリート

〈8.9.1〉〈表8.9.1〉

種別	適用箇所	気乾単位容積質量(t/m3)

8. 無筋コンクリート

適用箇所は〈6.14.1〉によるほか、下記による。 〈6.14.1〉

適用箇所

9. グラウト材

無収縮グラウト材は、製造所で調合された材料を使用する。 〈8.2.11〉
圧縮強度(N/mm2) ：３０以上
コンシステンシー J_{14}：ロート値(秒) ６～１０
乾燥収縮（×１０^−４）：０

10. 柱底等の均しモルタル

無収縮モルタル材 ・ 使用する ・ 使用しない 〈8.2.11〉

11. 型枠

せき板の種類 ※ 12mm合板 ・ 〈8.2.7〉
せき板の塗料 ※ 無 ・ 有

12. コンクリートの打込み工法

※ 流込み工法 ・ 圧入工法 〈8.19.8〉〈8.21.5〉

13. 既存部分の撤去

既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示 ・ 〈8.19.2〉
既存躯体の撤去範囲 ※ 図示 ・

8−3 耐震改修工事（あと施工アンカー工事）

1. あと施工アンカー

〈8.2.4〉
※ 接着系アンカー 〔引張耐力 （KN）、せん断耐力 （KN）〕
アンカーの種類 ※カプセル型回転・打撃式
接着剤 ※ 有機系 ・無機系
・ 金属系アンカー 〔引張耐力 （KN）、せん断耐力 （KN）〕
打込み方式 ※ 本体打込み式改良型

2. あと施工アンカーの試験

性能確認試験 ※ 行わない ・ 行う 〈8.2.4〉
施工確認試験 ※ 行う ・ 行わない 〈8.11.5〉

3. 埋込配管等の探査

範囲 ※穿孔箇所すべて ・図示 〈8.11.2〉

8−4 耐震改修工事（鉄骨工事）

1. 鉄骨製作工場

※ 指定性能評価機関の性能評価を受けて、国土交通大臣の認定を受けた下記のグレード以上の工場 〈8.1.5〉
・ S ・ H ・ M ・ R ・ J
・ 本物件と同等規模構造の施工実績を有している工場で、監督職員の承諾する工場

2. 鋼材の種類

〈8.2.8〉〈表8.2.7〉

材質	規格
・SS400 ・SSC400 ・STK400 ・STKR400 ・SN400B,C ・SN490B,C ・SM400 ・SM490 ・	JIS表示認証製品

3. 高力ボルト

〈8.2.9〉

ボルト種別	セットの種類
※トルシア形高力ボルト	※2種（S10T） ・
・ＪＩＳ形高力ボルト	※2種（F10T） ・
・溶融亜鉛メッキ高力ボルト	※1種（F8T相当） ・

4. 溶接部の試験

※超音波探傷試験 〈8.14.11〉〈8.14.12〉

5. 錆び止め塗装

〈7.3.2～3〉による。 〈8.16.3〉

6. 耐火被覆

〈8.17.2〉〈8.17.4～7〉

種別	材料及び工法製造所	備考
・ラス張モルタル	改修標仕6章15節による	
・耐火材吹付け ・耐火板張り ・耐火材巻付け	建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたもの	※半乾式 ・湿式

7. アンカーボルト

材質 ※ＳＳ４００ ・ＳＮＲ４００Ｂ 〈7.2.4〉

8. 既存部分の撤去

既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示 ・ 〈8.20.2〉
既存躯体の撤去範囲 ※ 図示 ・

8−5 耐震改修工事（柱補強工事）

1. 工法

・ 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 〈8.21.5〉
溶接金網の継ぎ手 ※ 重ね継ぎ手
コンクリート及び構造躯体用のモルタルの打設
・ 圧入工法 ・ 流し込み工法
・ 鋼板巻き工法 〈8.21.6〉
・ 帯板巻き付け工法 〈8.21.6〉
・ 連続繊維補強工法 〈8.21.7〉
製造所（ ）
引張強度試験及び付着強度試験
・ 行う ・ 行わない

2. 既存部分の撤去

既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示 ・ 〈8.21.2〉
既存躯体の撤去範囲 ※ 図示 ・

8−6 耐震改修工事（耐震スリット）

1. スリットの種類

・ 完全スリット ・ 部分スリット 〈8.22.1〉

2. スリットの充填材

耐火材の使用 ・ 使用する ・ 使用しない 〈8.22.2〉
適用箇所 ※ 図示

遮音材の使用 ・ 使用する ・ 使用しない
適用箇所 ※ 図示

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	全葉	図面 No
図面名称	特記仕様書３ Scale		Ａ－０３

9－1（アスベスト含有建材の処理工事）

① 一般事項

石綿等の取扱については，大気汚染防止法（昭和43年6月10日法律第97号）（以下，「大防法」という。）及び石綿障害予防規則（平成17年2月24日厚生労働省令第21号）（以下，「石綿則」という。）を遵守すること。

施工調査 〈9.1.1(d)〉
・ 行わない
※ 行う （大防法第18条の17により，同法の特定工事に該当するか事前調査を行うこと。調査結果は，図面等に記録し，書面により発注者に説明の上，提出すること。特定工事に該当する場合，受注者は大防法第18条の15による届出書の案を作成し，監督職員に提出すること。調査の結果，設計図書と異なる場合は監督職員と協議する。）

調査事項
※ アスベスト含有建材等の使用部位
※ アスベスト含有建材等の種類，厚さ，面積
※ 施工範囲と工事範囲区分
※ 排出等作業の方法
・

調査結果を公衆に見やすいよう掲示すること。
※ 事業場の名称 ※ 調査結果
※ 建築物等の種類 ※ 調査者及び所属
※ 調査方法 ※ 調査終了年月日
※ 発注者からの通知 ・

アスベスト含有分析 〈9.1.1(d)〉
・ 行わない
⊙ 行う（分析結果は監督職員に提出する。）
調査箇所 ※ 図示 ・（ ）
分析方法 ※ JIS A 1481「建材製品中のアスベスト含有測定法」による。

材 料 名	定性分析	定量分析
	・（試料数： ）	・（試料数： ）
	・（試料数： ）	・（試料数： ）

アスベスト粉じん濃度測定 〈9.1.1(e)〉
・ 行わない。
※ 行う（測定する時期・場所等は下表による）
「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法－第1部－：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差、分散顕微鏡法による。

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）	室名等
・	測定１	処理作業前	処理作業室内（注１）	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
・	測定２		施工区画周辺又は敷地境界	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
・	測定３	処理作業中	処理作業室内（注１）	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
⊙	測定４		セキュリティゾーン入口（空気の流れを確認）	※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点	
⊙	測定５		負圧・粉じん装置の排出吹出口（除じん装置の性能確認）	※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点	
⊙	測定６		施工区画周辺又は敷地境界	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
⊙	測定７	処理作業後シート撤去前	処理作業室内	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
・	測定８		施工区画周辺又は敷地境界	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
・	測定９	処理作業後シート撤去後	処理作業室内	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
			測 定 点 総 計	点	

注１：周囲状況により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。

（例）アスベスト粉じん濃度測定方法

	測点３	測点１，２，４，６，７，８	測点５
数計機器	位相差・分散顕微鏡		
メンブレンフィルタの直径	２５㎜		４７㎜
試料の吸引流量	１Ｌ／min	５Ｌ／min	１０Ｌ／min
試料の吸引時間	5min	１２０min	２４０min
試料の透明化	アセトン固定－有機物灰化－屈折率浸液法		
計数条件	総合倍率４００倍、アスベスト繊維総数、通常５０視野		
計数アスベスト	幅３μm未満、長さ５μm以上、アスペクト比（長さ／幅）３以上		
定量限界	５０本／Ｌ	０．４７本／Ｌ	０．３本／Ｌ

記録する項目
ア．測定結果
イ．測定時間
ウ．測定位置（測定高さとともに図面上に記載する。）
エ．サンプリング条件（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量）
オ．マウンティング法
カ．顕微鏡視野面積、計数視野数
キ．測定時（各測定場所ごと）の天候、温度、湿度、外気の風速及び風量

測定機関 〈9.1.1(e)〉
都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関

施工記録報告書の提出
1．施工計画書
2．工事記録及び工事写真
3．産業廃棄物処理記録（廃石綿）
4．施工調査等記録（条規施行調査、含有分析、粉じん濃度測定等）
5．作業者の作業記録、各種健康診断記録、安全衛生教育記録
6．その他必要事項

提出部数 ３部作成

9－1（アスベスト含有建材の処理工事）

2．除去工事共通事項

専門工事業者 〈9.1.2(a)〉
アスベスト含有建材の除去を直接行う専門業者については、工事に相応した技術を有することを証明する書類を監督員に提出する。

作業主任者の選出 〈9.1.2(b)〉
石綿作業主任技能講習又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習を終了したものの中から、「石綿作業主任者」を選任しなければならない。

除去作業者の教育 〈9.1.2(c)〉
作業者は、就業時に石綿則第27条に基づく教育を受けた者とする。
また、一般健康診断、石綿健康診断及びじん肺健康診断を受診した者とし、肺機能に異常のない者とする。

特別管理産業廃棄物管理責任者の選出 〈9.1.2(d)〉
排出業者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選任し管理しなければならない。
ただし、アスベスト含有成形板の処理工事を除く。

表示及び掲示
更衣室など見やすい箇所に次の表示及び掲示を行う。 〈9.1.2(f)〉
※ アスベスト作業主任者名と職務内容
※ 関係者以外立入禁止
※ 喫煙・飲食の禁止
※ 「アスベスト除去作業中」の表示
※ アスベストの有害性
※ 取り扱い上の注意事項
※ 使用すべき保護具

周辺住民の見やすい箇所に以下の表示を行う。
※ 「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ（労働基準監督署への届出内容、粉じん飛散抑制装置、曝露防止措置等）」

保護具、保護衣 〈9.1.2(g)〉
作業内容に応じた、呼吸用保護具、保護めがねを使用すること。

除去したアスベスト含有物の保管、運搬等 〈9.1.3(c)〉〈9.1.4(d)〉〈9.1.5(c)〉
※ 他の内装材、廃棄物等と分別保管
※ 保管場所での飛散防止を施す。また、アスベスト成形板を運搬する場合は、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。
※ アスベスト等の保管場所である旨の表示を行う。

3．アスベスト含有吹付け材の除去

アスベスト含有吹き付け材の除去工事 〈9.1.3(b)〉
・ 行う （適用範囲 ・図示 ・ ）
・ 行わない

作業場等の隔離等 〈9.1.3(a)〉
※ 作業場は以下によるものとし負圧除じん機にて負圧状態により飛散防止をすること。

隔離シートの性能

※ 床面	※ 0.15mm以上のプラスチックシート等で二重
※ 壁面	※ 0.08mm以上のプラスチックシート等

ただし、（一財）日本建築センターの「建設技術審査証明事業」による「吹き付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術（除去）」の審査証明書（以下、「審査証明書」という。）を取得している工法と同等の飛散防止処理技術を有する工法とすることができる。その際には監督員の承諾を得ること。

セキュリティーゾーンの設置 〈9.1.3(a)〉
※ 下表による

適用	室名	状態	
※	更衣室		※ 更衣ロッカー ※ 新品の保護具 ※ 呼吸用保護具保管箱 ※ 洗顔、うがい設備 ・
※	洗浄室	負圧	※ エアシャワー（温水シャワー） ・
※	前室	負圧	・ 高性能真空掃除機 ・ 使用済み保護衣保管かご

ただし、（一財）日本建築センターの「建設技術審査証明事業」による「吹き付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術（除去）」の審査証明書（以下、「審査証明書」という。）を取得している工法と同等の飛散防止処理技術を有する工法とすることができる。その際には監督員の承諾を得ること。

除去物及び汚染等 〈9.1.3(b)〉
処理方法
※ 密封処理（二重袋梱包）
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、除じん機フィルタについても密封処理を行う。
・ セメント固化

4．アスベスト含有保温材等の除去

アスベスト含有保温材の除去工事 〈9.1.4〉
・ 行う （適用範囲 ・図示 ・ ）
・ 行わない

養生等 〈9.1.4(b)〉
※ 養生シート等を用いて区画し、場外への飛散防止を行う。

掻き落とし、破砕、切断による除去方法
※ 行わない
・ 行う（〈9.1.3〉「アスベスト含有吹き付け材の除去」による）

除去工法 〈9.1.4(c)〉
※ 粉じん飛散抑制剤などにより湿潤化したあとに、手ばらしによること。
※ 除去物については〈9.1.3(b)〉により、密封処理とする。

⑤ アスベスト含有成形板の処理

アスベスト含有成形板の除去工事 〈9.1.5〉
⊙ 行う （適用範囲 ⊙図示 ・ ）
・ 行わない

養生 〈9.1.5(a)〉
※ 作業場は、養生シート等を用いて区画する。

除去工法 〈9.1.5(b)〉
※ 作業場は、散水等により湿潤化し、手ばらしによること。
※ やむを得ず破壊しなければならない場合には、十分に湿潤化した状態で行うこと。
※ 除去物については、粉じんの飛散防止に努め、特に破砕されたアスベスト含有成形板については、湿潤化の上、丈夫なプラスチック袋に入れる等の飛散防止措置を講ずること。

9－2（環境配慮改修工事）

1．断熱材

断熱材の打込み及び現場発泡工法 〈9.5.2～3〉

種	類	箇所	厚さ(mm)	備考
※ ポリスチレンフォーム（発泡プラチック保温材）	・A種ビーズ法 ※A種押出法 ２種b	下記以外	※ 25 ・	JIS A 9511の JIS表示認証製品
	※A種押出法 ３種b （スキン層付き） ・	接地部分及び屋根防水部分ピット内部		
・ 硬質ウレタンフォーム保温材	※A種 ・	・		
・ フェノールフォーム保温材	※A種 ・	・	・	JIS A 9511の JIS表示認証製品
・ 吹付け硬質ウレタンフォーム保温材	※A種１ ・	・	※ 20 ・	JIS A 9526 による難燃性 ・２級 ※３級
・	・	・	・	

※ 施工範囲は建築工事標準詳細図(図7-01-1)による。

上記以外に用いる断熱材

種	類	箇所	厚さ(mm)	備考
・ ＪＩＳＡ発泡プラスチック保温材	・A種ビーズ法 ※A種押出法 ２種b	下記以外	※ 25	JIS表示認証製品
	※A種押出法 ３種b （スキン層付き） ・	接地部分及び屋根防水部分ピット内部		
・ グラスウール保温材			※ 100 ・	※ 24K品 ・

※ グラスウール使用部分の室内側防湿シート
※ 被覆品 ・防湿層ポリエチレンフィルム(t0.15)張り (重ね100)

10 土工事

① 埋戻し及び盛土の種別

・ A 種 ※ B 種 ・ C 種 ・ D 種 (3.2.3)(表3.2.1)
C種の場合 建設発生土受入れ量 m3
発生場所
受入条件

② 建設発生土の処理

・ 構外に搬出し適切に処理する。
・ 構外指示の場所に搬出する。
受入れ施設名・住所 (km)
⊙ 構内指示の場所に敷きならす。
・ 構内指示の場所にたい積する。

11 パネル・押出成形セメント板工事 コンクリートブロック・ALC工事

1．コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類 (8.3.2)(表8.3.1)
※ 空洞ブロック 16 ・
（ただし、設備配管用裏積等は空洞ブロック08とすることができる。）

12 舗装工事

1．再生材

※ 使用する ・ 使用しない (22.1.3)

2．盛土材料

路床の盛土材料 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 (22.2.3)

3．遮断層及び凍上抑制層用材料

遮断層 ※ 川砂・海砂又は良質な山砂 (22.2.3)
凍上抑制層 ※ 再生クラッシャラン ・ 切込砂利又は切込砕石

4．路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験

※ 行わない ・ 行う（※ 乱した土 ・ 乱さない土） (22.2.5)

5．路床締固め度の試験

・ 行わない ※ 行う（箇所：埋戻し及び盛土部） (22.2.5)

6．路盤材料

(22.3.3)(表22.3.3)
※ 再生クラッシャラン ＲＣ－４０（透水性舗装の場合を除く）
・ クラッシャラン Ｃ－４０
・ クラッシャランスラグ ＣＳ－４０

7．路盤の締固め度の試験

※ 行う (22.3.5)

8．アスファルト舗装

加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.2)(22.4.4)(表22.4.5)

表 層	※ 再生密粒度アスファルト混合物（１３） ・ 密粒度アスファルト混合物（１３） ・ 細粒度アスファルト混合物（１３） ・	舗装の厚さは図示による
基 層	※ 再生粗粒度アスファルト混合物（２０） ・ 粗粒度アスファルト混合物（２０） ・	

アスファルト混合物等の抽出試験 ※行わない ・行う (22.4.6)

9．コンクリート舗装

早強セメント ・ 使用する ※ 使用しない (22.5.3)
溶接金網 ※ あり ・ なし

10．ブロック系舗装

・ コンクリート平板舗装 ※ 砂目地 (22.9.2)(表22.9.1)
・ モルタル目地
・ インターロッキングブロック舗装
・ 舗石舗装 基 層 ※ コンクリート舗装 ・ アスファルト舗装

11．縁石及び側溝

地業の材料 ・再生クラッシャラン (21.4.2)

12．砂利敷き

・ A種(通路) ※ B種(建物周辺) (22.10.2)

13．区画線

※ ＪＩＳＫ５６６５ ３種１号

13 ユニット及びその他の工事

1．フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工場所	工法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力(Ks)	耐荷重性能(N)	表面仕上げ
	・溝工法（置敷工法）		・ 1.0G ※ 0.6G	・ 3,000 ・ 5,000 ・	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット
	・支柱一体型パネル工法（置敷工法）				
	・支柱分離型パネル工法（独立支柱工法）				

ボーダー部 ※ 一般部分の仕様に準ずる ・ 図示による
床表面仕上げ材の品質は標準仕様書19章による。
配線取出し用切り欠きパネルは１枚／㎡以上とする。
空調用吹き出し（吸い込み）パネル ※ なし
・ 有り（※固定式 ・可変式）
施工箇所は図示

2．可動間仕切（パーテーション）

構造形式による種類 スタッド式（内蔵） (20.2.3)
構成材の種類 アルミニウム合金系又はスチール系
パネル表面材 焼付塗装鋼板（標準色） ｔ＝０．５以上
遮音性 ３６dB/500Hz以上
防火性能 不燃

3．移動間仕切（スライディングドア）

パネルの操作方法による種類 規定しない (20.2.4)
パネル表面材の材質及び仕上げ 製造所仕様の化粧鋼板（標準色）
ｔ＝０．５以上
パネル圧接装置の操作方法 ハンドル回転式又はワンタッチ上下式
遮音性 ３６dB/500Hz以上
防火性能 不燃
取り付け用あと施工アンカー 材質，寸法等は図示又は製造所の仕様による

4．トイレブース

表面材 メラミン化粧板（標準色） (20.2.5)
幅 木 ステンレス製 H＝６０
フレーム アルミ製
扉 厚４０中心吊りアール形アルミ製エッジ，帽子掛け戸当たり付き

5．階段滑り止め（ノンスリップ）

材 種 ステンレス（ＳＵＳ３０４） (20.2.6)
ビニールタイヤ入り（幅約35㎜）
取り付け方法 ※ 接着工法 ・ 埋込み工法

6．床目地棒

ステンレスＦＢ（ＳＵＳ３０４） ｔ５～６×Ｈ１２ (20.2.7)
（床仕上げが異なる場合に設ける。但し、建具部は建具表による。）

7．鏡

耐湿鏡 ｔ＝５ ステンレスフレーム付き (20.2.9)

8．表示

衝突防止表示 ステンレス製 ＨＬ仕上げ Φ３０程度 市販品 (20.2.10)
誘導標識 市販品
室名札 アクリル板

9．点検口

施工箇所	材 種	寸 法	形 式
天 井	※ アルミニウム製	※ ４５０×４５０ ・ ６００×６００	※ 目地タイプ ・ 額縁タイプ
床	※ アルミニウム製	・ ４５０×４５０ ※ ６００×６００	※ 一般型貼物用 ・ 一般型充填用

10．視覚障害者用誘導ブロック

屋 外 ※ コンクリート製
・ 磁器質タイル（※１００角 ・１５０角）

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	全葉	図面 No
図面名称	特記仕様書４ Scale		Ａ－０４

14 総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）測定仕様書

① 一般事項

試料採取および測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」（以下「厚労省の測定方法」という。）の新築住宅の例に準拠して行う。

② 測定対象化学物質

測定対象化学物質は，下記４ 1)，2)の区分に従い，表の①から⑭の１４物質及びＴＶＯＣ又は表の①から⑨の９物質及びＴＶＯＣとする。

③ 測定方法

1） クロマトグラム上で「n-ヘキサン」から「n-ヘキサデカン」までの部分に検出される物質のピーク値を「トルエン」に換算した値をＴＶＯＣ濃度とする。
2） トルエン換算で 2.0μg/m3 未満のピークは測定の対象としない。
3） 上位１０ピークについて物質を特定して濃度の測定を行う。

表 測定対象化学物質及び室内濃度指針値

化学物質名	室内濃度指針値			
①ホルムアルデヒド	100	μg/m3	0.08	ppm
②トルエン	260	μg/m3	0.07	ppm
③キシレン	870	μg/m3	0.20	ppm
④エチルベンゼン	3,800	μg/m3	0.88	ppm
⑤スチレン	220	μg/m3	0.05	ppm
⑥パラジクロロベンゼン	240	μg/m3	0.04	ppm
⑦テトラデカン	330	μg/m3	0.04	ppm
⑧アセトアルデヒド	48	μg/m3	0.03	ppm
⑨ノナナール	(暫定)41	μg/m3	0.007	ppm
⑩フタル酸ジ-n-ブチル	220	μg/m3	0.02	ppm
⑪フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	120	μg/m3	0.0076	ppm
⑫クロルピリホス	1	μg/m3	0.00007	ppm
⑬ダイアジノン	0.29	μg/m3	0.00002	ppm
⑭フェノブカルブ	33	μg/m3	0.0038	ppm
⑮総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）	400	μg/m3 （暫定目標値）		

④ 測定する室

1） １４物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室等
⊙ 室名：プール

2） ９物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室
・ 室名：

⊙ 屋外（周囲の建物から離れた場所１か所）

⑤ 測定結果等報告書の提出

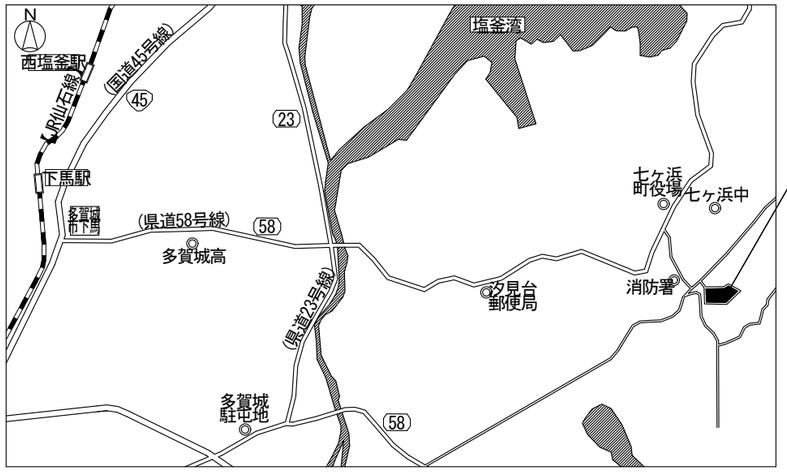
次の事項を記載した報告書を２部提出する。
1） 測定結果（アセトアルデヒドについては，試料採取時の気温が20℃に満たない場合には，「厚労省の測定方法」に定める計算式で20℃，湿度50%に，ホルムアルデヒドについては25℃，湿度50%に補正した濃度を報告すること。）
2） 試料採取時の状況（気温・湿度（屋外，室内），天候、風の状況、日射進入状況，採取年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成から試料採取までの日数）
3） 試料採取方法，測定方法，使用した測定機器
4） ＴＶＯＣ濃度の算出に使用したクロマトグラムの写し

⑥ その他

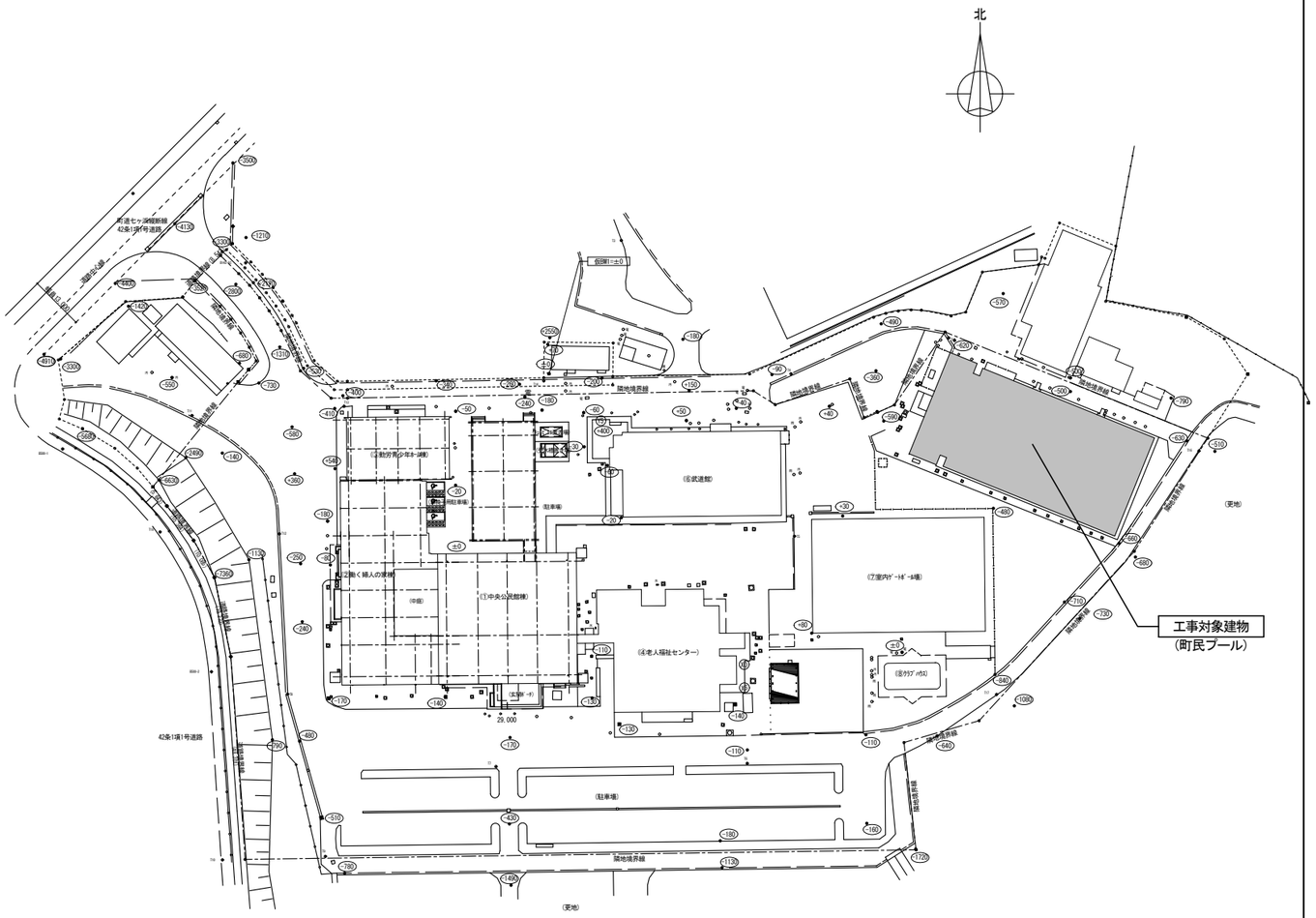
表の化学物質①から⑤のうち，いずれかの物質の濃度が室内濃度指針値を超える場合は，工事目的物の引渡しを受けない。
ＴＶＯＣの測定の結果，暫定目標値を超える場合は，発生原因の究明及び汚染物質の発生を低減するための対策について，協議を行うこと。

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	全葉	図面 No
図面名称	特記仕様書５ Scale		Ａ－０５

工事場所：宮城県宮城郡七ヶ浜吉田浜字野山５－９



案内図



配置図　Ｓ＝１／１，０００

特記事項						工事名称	平成３１年度町民プール改修工事		図面番号
						図面名称	案内図　配置図	縮尺 １／1,000	Ａ－０６

○ 改 修 概 要

1. 本工事は七ヶ浜町民プール内の劣化の激しい部分である、プール棟構造部補強及び塗装改修と附属棟建具改修を行う改修工事である。
2. 騒音・振動・粉塵対策に注意をはらい、工事範囲周辺施設の通常業務に支障とならないよう、工事の進め方を関係部署と十分に打合せの上工事を進めること。
3、適宜仮囲い等を設け、周辺施設使用者及び職員の安全確保に努めること。
4. 作業中は「労働安全規則」を遵守することはもちろん、作業員に対し必要な安全措置の徹底を図ること。
5. 強風時における仮置材・発生材・解体材の飛散防止に努めること。又、ほこり等で外部へ影響を及ぼすことのないよう、対策措置を講ずること。
6. 工事に当たっては、倒壊等のないよう防止措置を講ずること。

○ 改 修 工 事 内 容

（プール棟）　外　部　屋根葺き材一部撤去の上新設。既存屋根面の補修
既存軒先幕板及び既存軒天井撤去。
既存軒どい撤去の上軒どい新設。
鉄部全面の塗替え

内　部　構造部材腐食劣化部の補強。
鉄部全面の塗装替え。

建　具　一部外部建具改修。

建　具　一部外部建具改修。

（附 属 棟）　外　部　機械室の既存外部建具撤去の上新設。更衣室外部建具改修。

建物概要

建　物	構造・規模	地　業	基　礎	躯　体	屋　根	建　具	備　考
プール棟	鉄骨造・平屋建て	直接基礎	鉄筋コンクリート造・独立基礎	鉄骨造ラーメン架構	断熱パネル葺き 一部折板葺き、一部ＦＲＰ製折板葺き	アルミ製建具	
附属棟	鉄筋コンクリート鉄骨造・平屋建て	直接基礎	鉄筋コンクリート造・独立基礎	壁式鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	アルミ製建具、鋼製建具	

外部仕上表

建　物		外部床	外幅木	外　壁	屋　根	軒天井	備　考
プール棟	改修前・撤去	－　－	鉄骨柱根まわり：鉄筋コンクリート直均し仕上【在来のまま】	ＡＬＣ版ｔ＝100縦張り下地【在来のまま】 複層塗材Ｅ【在来のまま】 鉄骨壁下地【撤去】、鋼板包み断熱パネルｔ＝35張り【撤去】	鉄骨【一部撤去】下地 断熱パネルｔ＝35葺き【一部撤去】 折版ｔ＝0.8葺き【撤去】 ＦＲＰ製折版ｔ＝2.0葺き【撤去】 棟包みW≒600：断熱パネル表面材同材ｔ＝0.5【撤去】 ケラバ包みH≒250：断熱パネル表面材同材ｔ＝0.5【撤去】	ＬＧＳ下地【撤去】、石綿セメント板ｔ＝5.0 ＶＰ【撤去】	軒どいW＝150【撤去】(落とし口共) 鼻隠し：カラー鋼板ｔ＝0.8【撤去】(鉄骨下地共) 床下隠しパネル： エキスパンドメタル+アクリル板ｔ＝2.0【撤去】(鉄骨枠共) 土台：片面歩車道境界ブロックＡ種【撤去】 たてどいＶＰ100 ＳＯＰ【在来のまま】(下部ＳＧＰ100Ａ共) 犬走り：砕石敷きｔ＝30【一部掘削】 縁石：片面歩車道境界ブロックＡ種【在来のまま】
	改修後	－　－	鉄骨柱根まわり：鉄筋コンクリート直均し仕上【在来のまま】	ＡＬＣ版ｔ＝100縦張り下地【在来のまま】 複層塗材Ｅ【在来のまま】 鉄骨壁下地【新設】、鋼板包み断熱パネルｔ＝35張り【新設】	鉄骨下地【一部新設】【一部再取付】 断熱パネルｔ＝35葺き【一部新設】【一部補修】 ＦＲＰ製折版ｔ＝2.0葺き【新設】 棟包みW≒600：断熱パネル表面材同材ｔ＝0.5【新設】 ケラバ包みH≒250：断熱パネル表面材同材ｔ＝0.5【新設】	屋根葺き材表し	軒どいW＝150【新設】(落とし口共) 床下隠しパネル： 中空セメント板ｔ＝15縦張り【新設】 土台：鉄筋コンクリート造打放し仕上(Ｂ種)【新設】 たてどいＶＰ100【塗替え】(下部ＳＧＰ100Ａ共) 犬走り：砕石敷きｔ＝30【一部新設】 縁石：片面歩車道境界ブロックＡ種【在来のまま】 ＥＸＰ.Ｊ改修：アルミ製カバープレート【新設】(可動幅75mm以上) 外階段：鉄骨造 【補修(鋼鋼板ｔ＝4.5上張り)】の上ＤＰ【塗替え】
附属棟	改修前・撤去	玄関・階段まわり：せっ器質床用タイル張り【在来のまま】	鉄筋コンクリート打放し仕上(Ｂ種)下地【在来のまま】 複層塗材Ｅ【在来のまま】	鉄筋コンクリート打放し仕上(Ｂ種)下地【在来のまま】 複層塗材Ｅ【在来のまま】	鉄筋コンクリート直均し仕上(防水下地)下地【在来のまま】 アスファルト防水(屋根露出防水密着工法Ｃ－２)【在来のまま】 トップライト屋根： 防水モルタルｔ＝３０金ごて仕上下地【在来のまま】 合成高分子系ルーフィングシート防水(接着工法Ｓ－Ｆ２)【在来のまま】 玄関庇屋根：防水モルタルｔ＝３０金ごて仕上【在来のまま】	玄関庇：鉄筋コンクリート打放し仕上(Ｃ種)下地【在来のまま】 防水形複層塗材Ｅ【在来のまま】	ルーフドレイン：鋳鉄製既製品100Ａ【在来のまま】 たてどい：ＳＧＰ100Ａ ＳＯＰ塗り【在来のまま】
	改修後	玄関・階段まわり：せっ器質床用タイル張り【在来のまま】	鉄筋コンクリート打放し仕上(Ｂ種)下地【在来のまま】 複層塗材Ｅ【在来のまま】	鉄筋コンクリート打放し仕上(Ｂ種)下地【在来のまま】 複層塗材Ｅ【在来のまま】	鉄筋コンクリート直均し仕上(防水下地)下地【在来のまま】 アスファルト防水(屋根露出防水密着工法Ｃ－２)【在来のまま】 トップライト屋根： 防水モルタルｔ＝３０金ごて仕上下地【在来のまま】 合成高分子系ルーフィングシート防水(接着工法Ｓ－Ｆ２)【在来のまま】 玄関庇屋根：防水モルタルｔ＝３０金ごて仕上【在来のまま】	玄関庇：鉄筋コンクリート打放し仕上(Ｃ種)下地【在来のまま】 防水形複層塗材Ｅ【在来のまま】	ルーフドレイン：鋳鉄製既製品100Ａ【新設】(落とし口共) たてどい：ＳＧＰ100Ａ ＳＯＰ塗り【在来のまま】

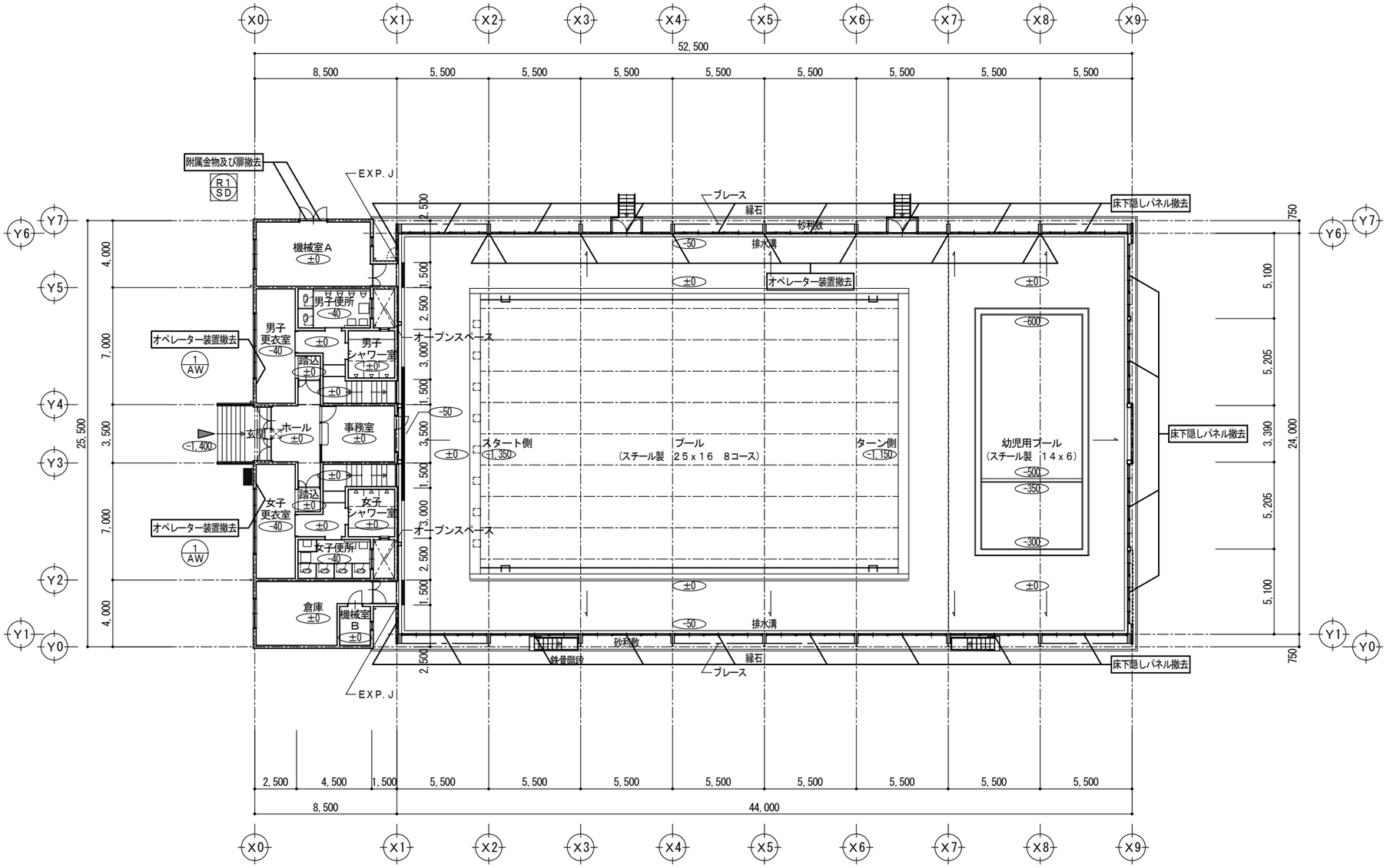
内部仕上表

室　名		床	幅　木	外壁に面する内壁	内壁（間仕切壁）	天　井	天井高さ	備　考
プール棟　プール	改修前・撤去	プールサイド：豆砂利コンクリート直均し下地【在来のまま】、 せっ器質床用タイル張り【在来のまま】 幼児プールまわり：豆砂利コンクリート直均し下地【在来のまま】、 ビニル床シート(ノンスリップ加工)ｔ＝2.9張り【在来のまま】	モルタル金ごて仕上Ｈ＝85～90 ＶＰ【在来のまま】	ＡＬＣ版ｔ＝100縦張り下地【在来のまま】 複層塗材Ｅ【在来のまま】 上部下り壁： 鉄骨壁下地【撤去】、石綿セメント板ｔ＝5.0 ＶＰ【撤去】	附属棟側腰壁：モルタル金ごて仕上下地【在来のまま】、 複層塗材Ｅ【在来のまま】	屋根葺き材表し【一部撤去】	－－	鉄骨部材ＳＯＰ【一部撤去】【一部取外し】 アルミ製建具【一部取外し】 プール缶体： コンクリート金ごて下地【在来のまま】、 プール塗料塗り【撤去】 鋼板ｔ＝6.0下地【在来のまま】、プール塗料塗り【撤去】
	改修後	プールサイド：豆砂利コンクリート直均し下地【在来のまま】、 せっ器質床用タイル張り【在来のまま】 幼児プールまわり：豆砂利コンクリート直均し下地【在来のまま】、 ビニル床シート(ノンスリップ加工)ｔ＝2.9張り【在来のまま】	モルタル金ごて仕上Ｈ＝85～90 ＶＰ【在来のまま】	ＡＬＣ版ｔ＝100縦張り下地【在来のまま】 複層塗材Ｅ【在来のまま】 上部下り壁： 鉄骨壁下地【新設】、 けい酸カルシウム板ｔ＝5.0 ＮＡＤ【新設】	附属棟側腰壁：モルタル金ごて仕上下地【在来のまま】、 複層塗材Ｅ【在来のまま】	屋根葺き材表し【一部新設】	－－	鉄骨部材ＤＴ【一部新設】【一部再取付け】【在来部塗替え】 アルミ製建具【一部再取付】 プール缶体： コンクリート金ごて下地【在来のまま】、 プール塗料塗り【塗替え】 鋼板ｔ＝6.0下地【在来のまま】、プール塗料塗り【塗替え】
附属棟　男子更衣室 女子更衣室	改修前・撤去	鉄筋コンクリート直均し下地【在来のまま】、 モザイクタイル25角張り【在来のまま】 塩ビ製スノコＨ＝40敷き【在来のまま】、	－－	モルタル金ごて下地【在来のまま】、複層塗材Ｅ【在来のまま】	モルタル金ごて下地【在来のまま】、複層塗材Ｅ【在来のまま】	軽量鉄骨天井下地【在来のまま】、 塩ビ製天井パネル張り【在来のまま】	２，４５０	
	改修後	鉄筋コンクリート直均し下地【在来のまま】、 モザイクタイル25角張り【在来のまま】 塩ビ製スノコＨ＝40敷き【在来のまま】、	－－	モルタル金ごて下地【在来のまま】、複層塗材Ｅ【在来のまま】	モルタル金ごて下地【在来のまま】、複層塗材Ｅ【在来のまま】	軽量鉄骨天井下地【在来のまま】、 塩ビ製天井パネル張り【在来のまま】	２，４５０	アルミ製建具【一部改修】

特記事項　1、外部に用いる断熱パネルは、外面材：ウレタン系塗装ＳＧＬｔ＝0.5+ポリイソシアヌレートフォームｔ＝35+内面材：ポリエステル系塗装ＧＬｔ＝0.35とする。
外部に用いる断熱パネルは、外面材：ふっ素系塗装ＳＧＬｔ＝0.5+ポリイソシアヌレートフォームｔ＝35+内面材：ポリエステル系塗装ＧＬｔ＝0.35とする。
2、鼻隠し、棟包み及びケラバ包みの材料は、断熱パネル外面同等材ｔ＝0.5とする。
3、プール棟外部及び内部の鉄部は全てＤＰ塗りまたはＤＰ塗替え（下地処理ＲＡ種）とし、上塗り塗料は１級とする。
4、屋根葺き材は飛び火認定（ＵＲ認定以上）を受けた材料とする。
5、プール塗料塗替えは「文部科学省　建築改修工事標準仕様書（特記基準）平成３１年版」により、塗り工程の種別はＰＥＦ－１（下地調整ＲＡ種）及びＰＥＦ－３（下地調整ＲＡ種）とする。

特記事項	工事名称	図面番号
	平成３１年度町民プール改修工事	Ａ－０７
	図面名称：改修概要　仕上表　／　縮尺：	

改修前・撤去

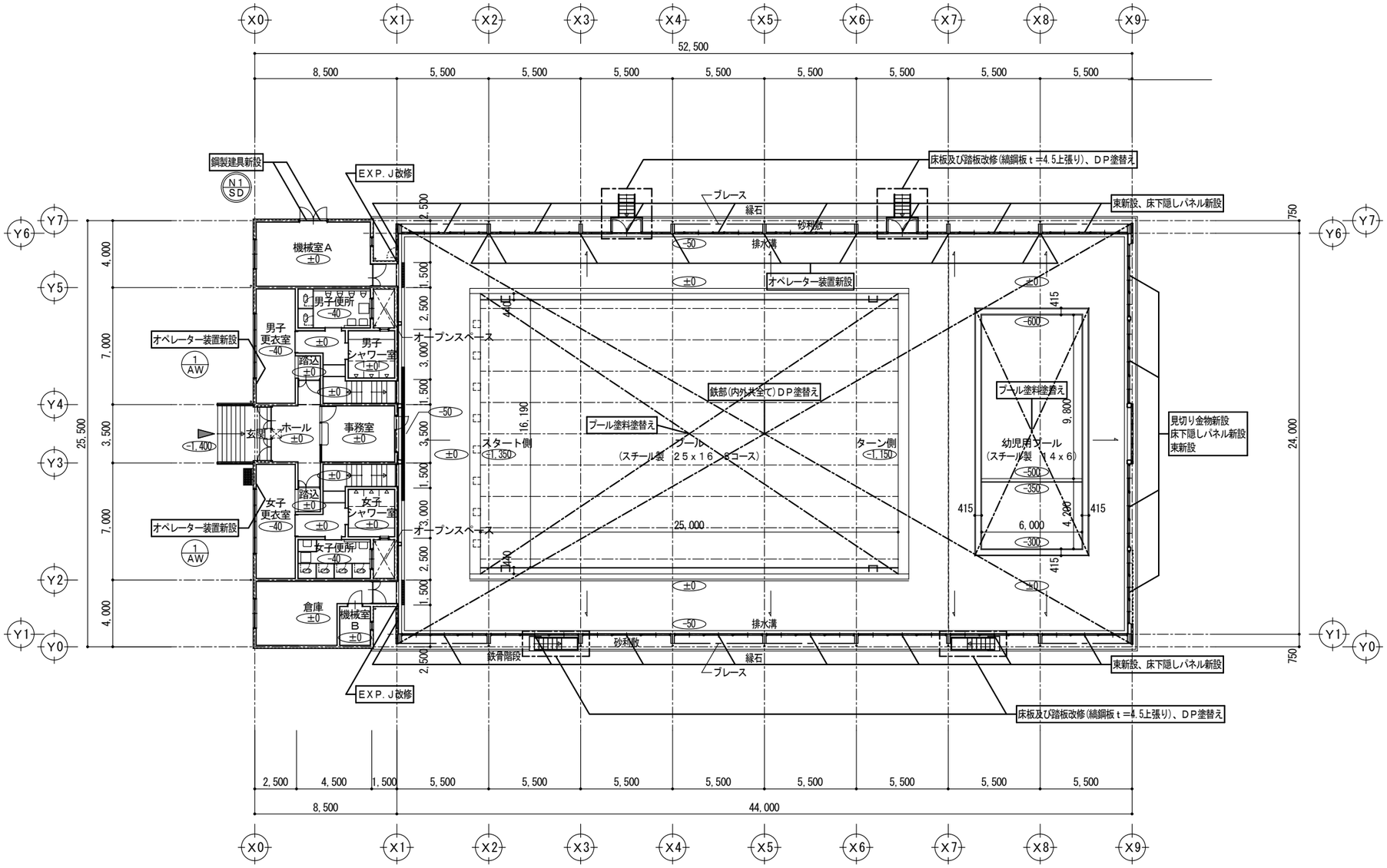


凡例							
	▶	外部出入口	＊＊＊＊＊	改修内容を示す。			
		鉄筋コンクリート壁	＋＊＊＊	床レベル（１ＦＬからの高低を示す）			
		ＡＬＣ版壁					

特記事項

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
図面名称	平面図（改修前・撤去）	縮尺 １／２００
		Ａ－０８

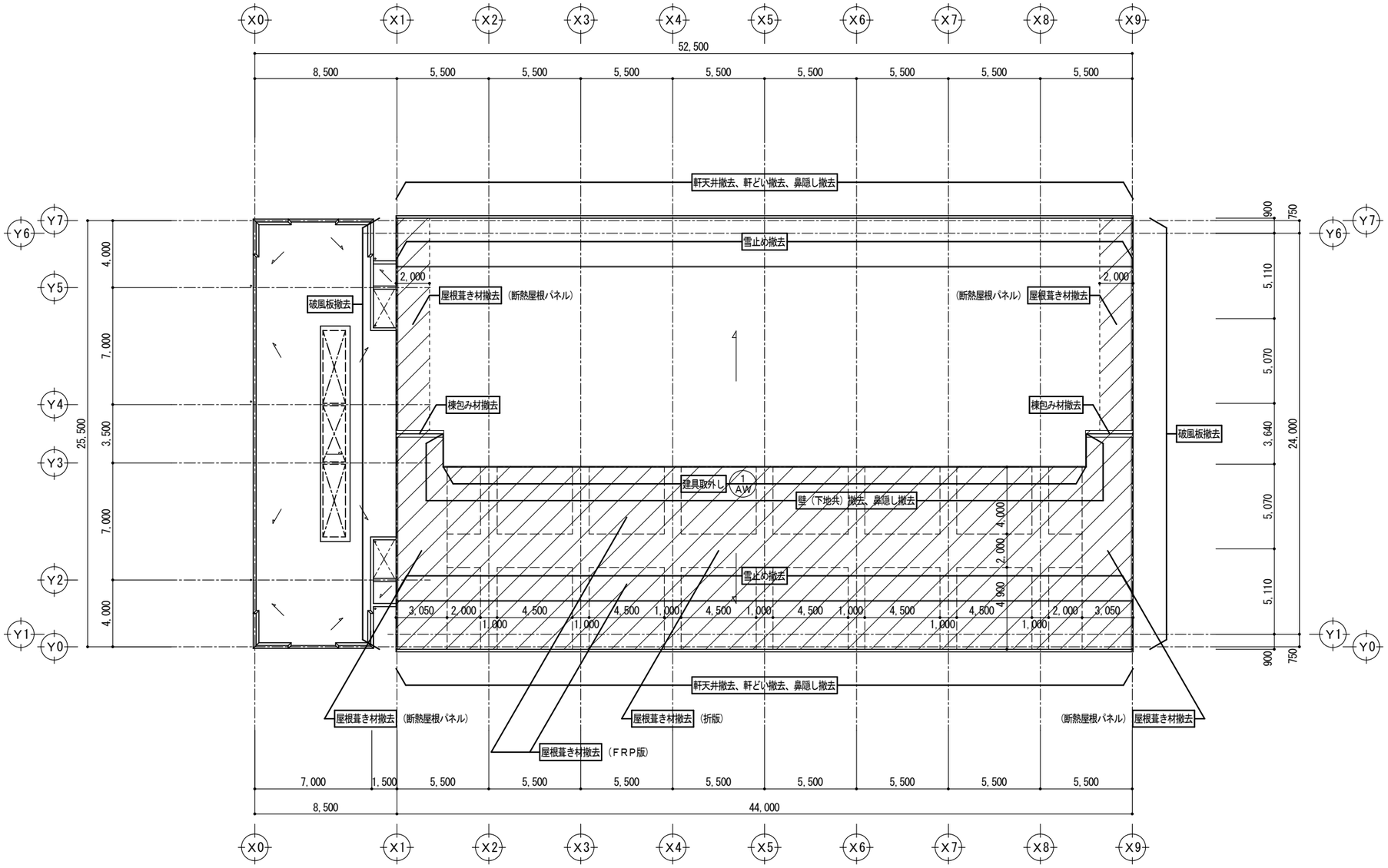
改修後



凡例							
	▶	外部出入口	＊＊＊＊＊	改修内容を示す。			
		鉄筋コンクリート壁	＋＊＊＊	床レベル（１ＦＬからの高低を示す）			
		ＡＬＣ版壁					

特記事項	工事名称	図面番号
	平成３１年度町民プール改修工事	Ａ－０９
	図面名称 平面図（改修後）	縮尺 １／２００

改修前・撤去

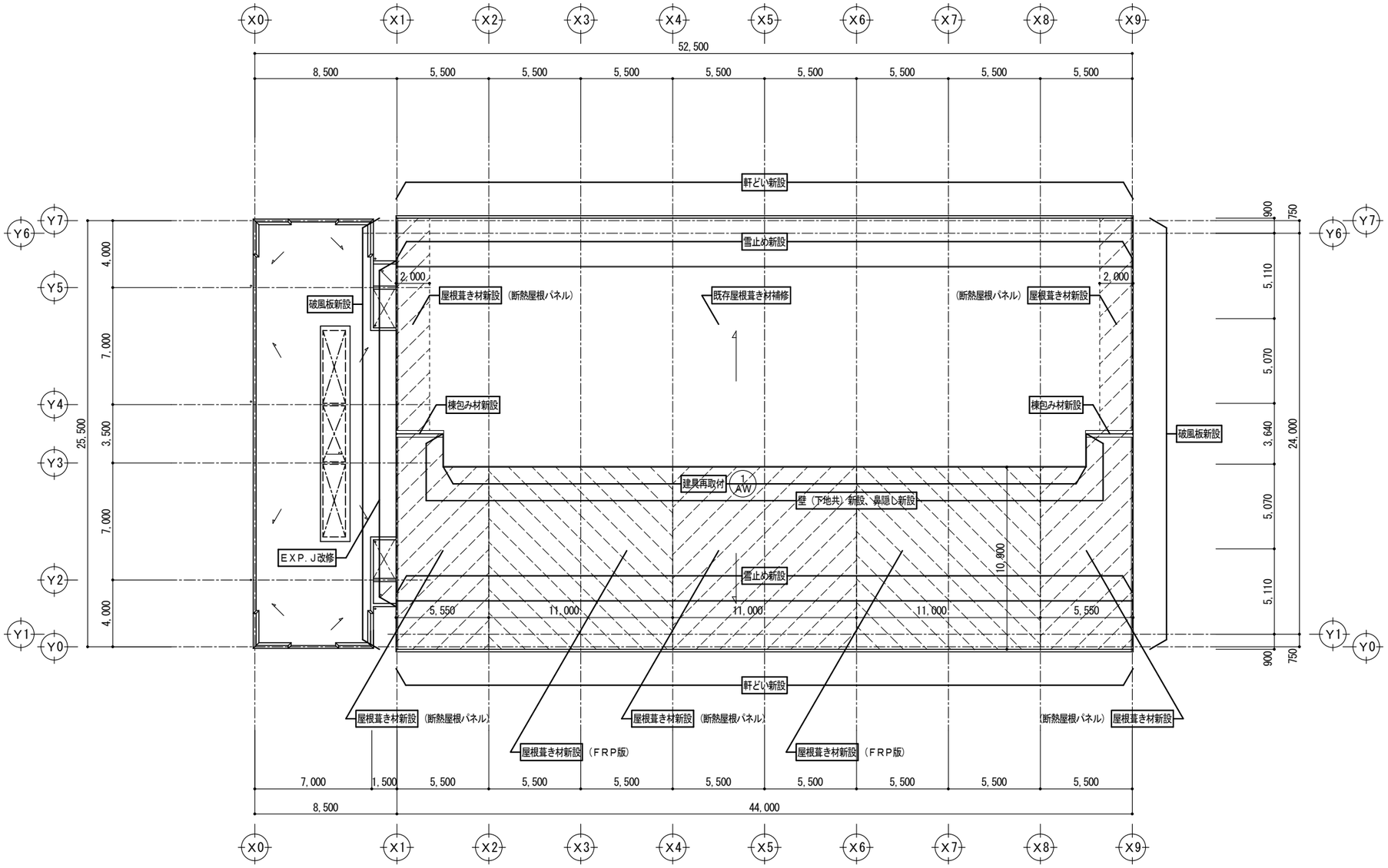


凡例							
	▶	外部出入口	＊＊＊＊＊	改修内容を示す。			
		鉄筋コンクリート壁	＋＊＊＊	床レベル（１ＦＬからの高低を示す）			
		ＡＬＣ版壁					

特記事項

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
図面名称	屋根伏図（改修前・撤去）	縮尺 １／２００
		Ａ－１０

改修後

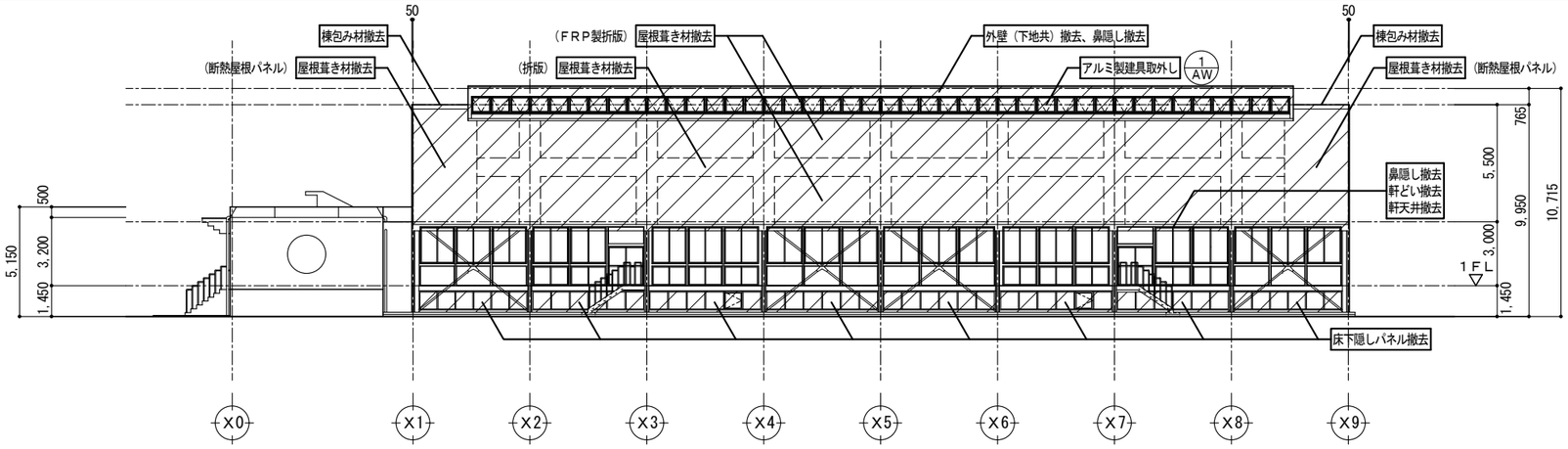


凡例								
	▶	外部出入口	＊＊＊＊＊	改修内容を示す。				
		鉄筋コンクリート壁	＋＊＊＊	床レベル（１ＦＬからの高低を示す）				
		ＡＬＣ版壁						

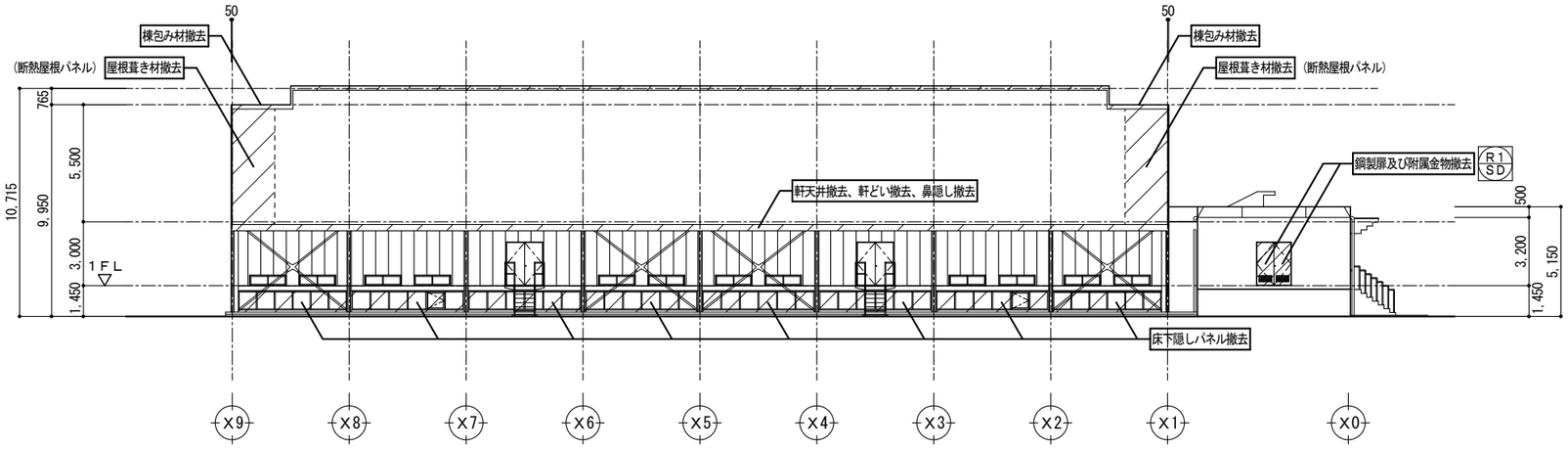
特記事項

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
図面名称	屋根伏図（改修後）	縮尺 １／２００
		Ａ－１１

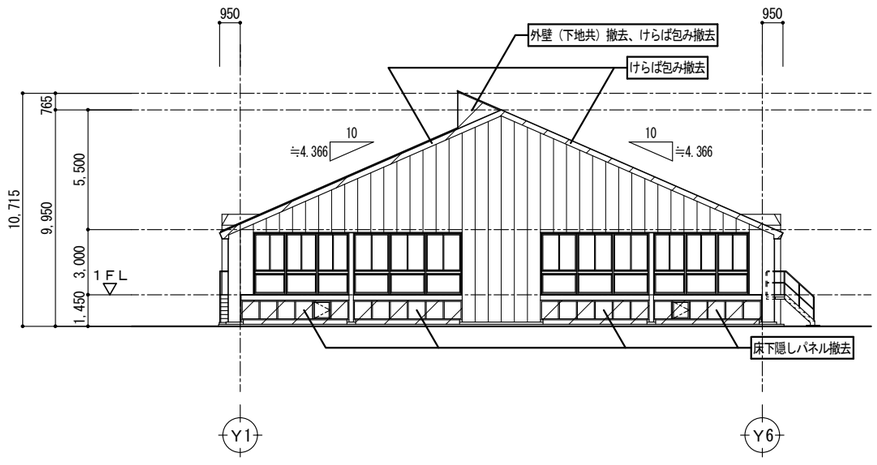
改修前・撤去



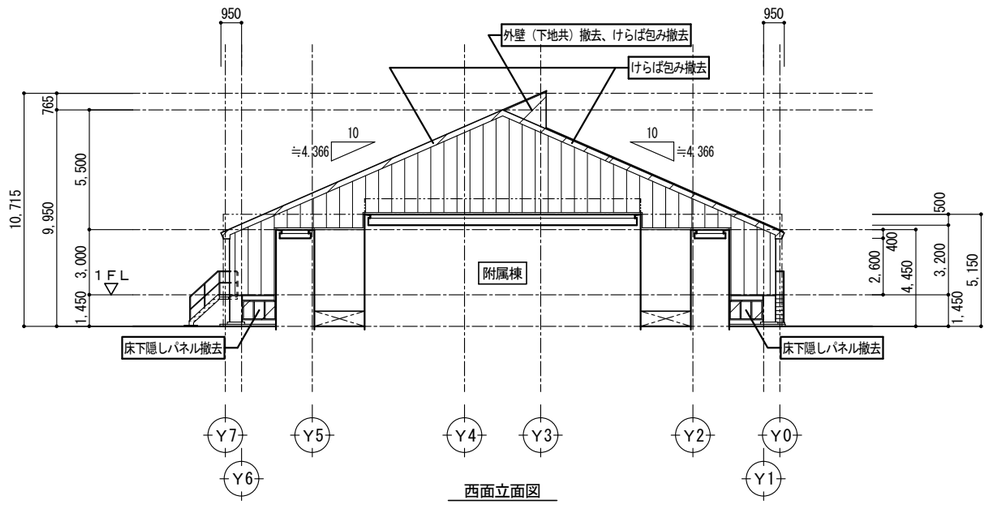
南面立面図



北面立面図



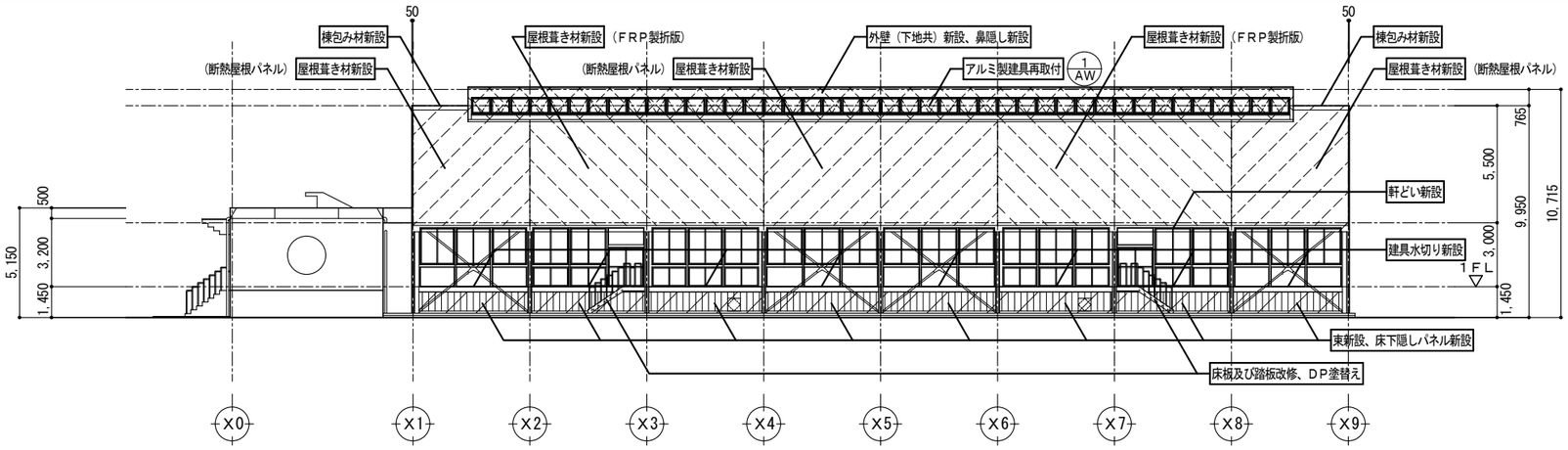
東面立面図



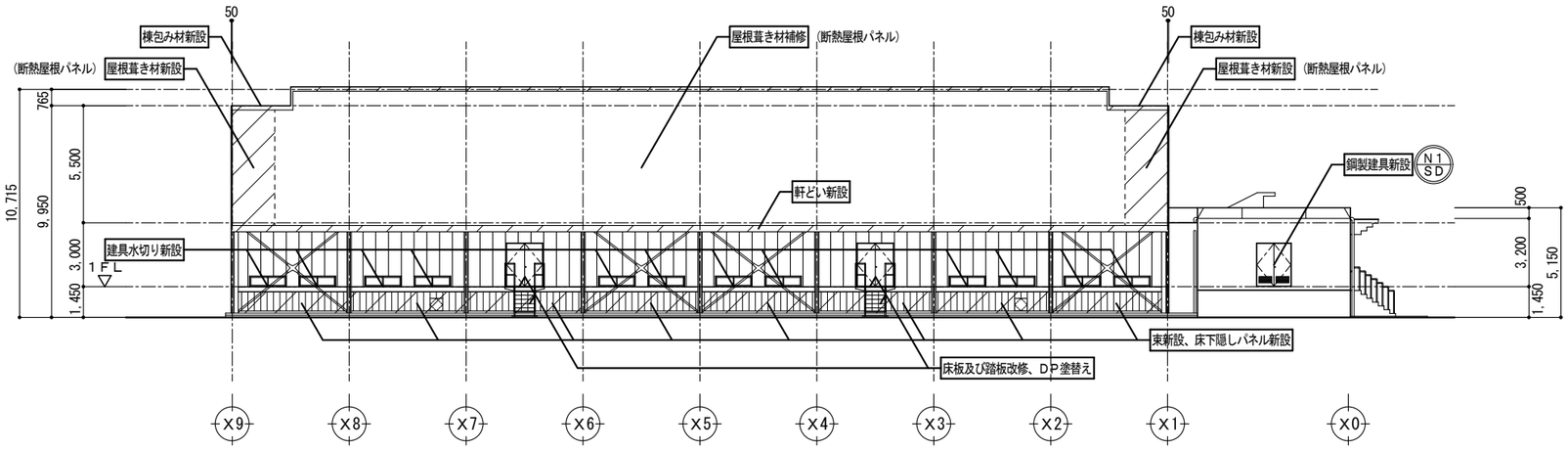
西面立面図

特記事項	工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
	図面名称	立面図（改修前・撤去） 縮尺 １／２００	Ａ－１２

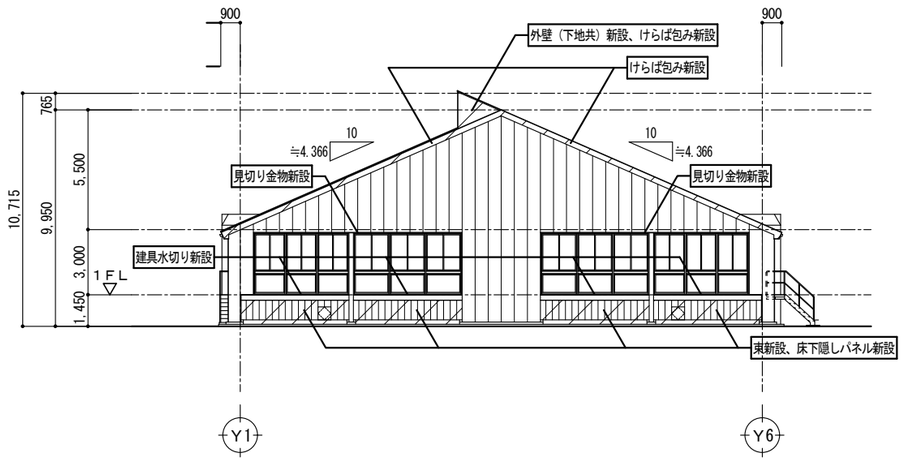
改修後



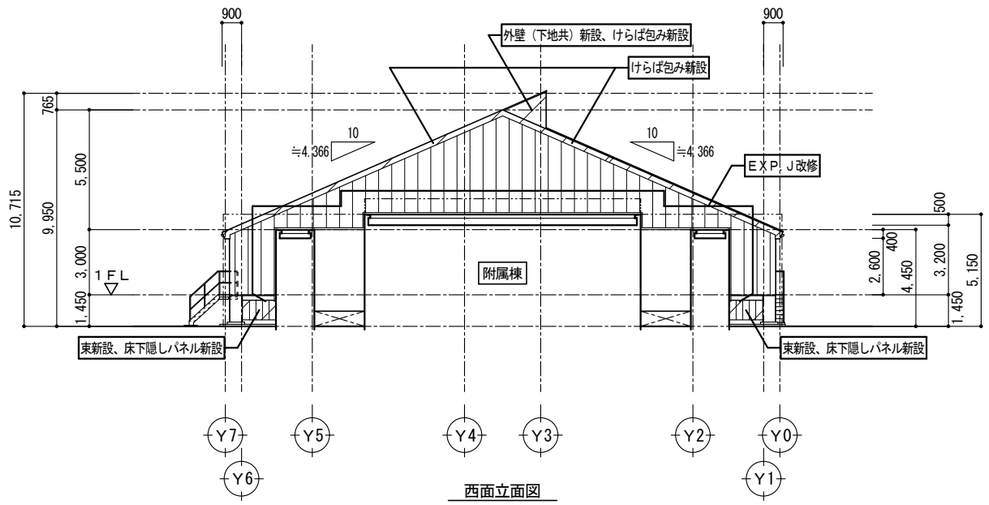
南面立面図



北面立面図



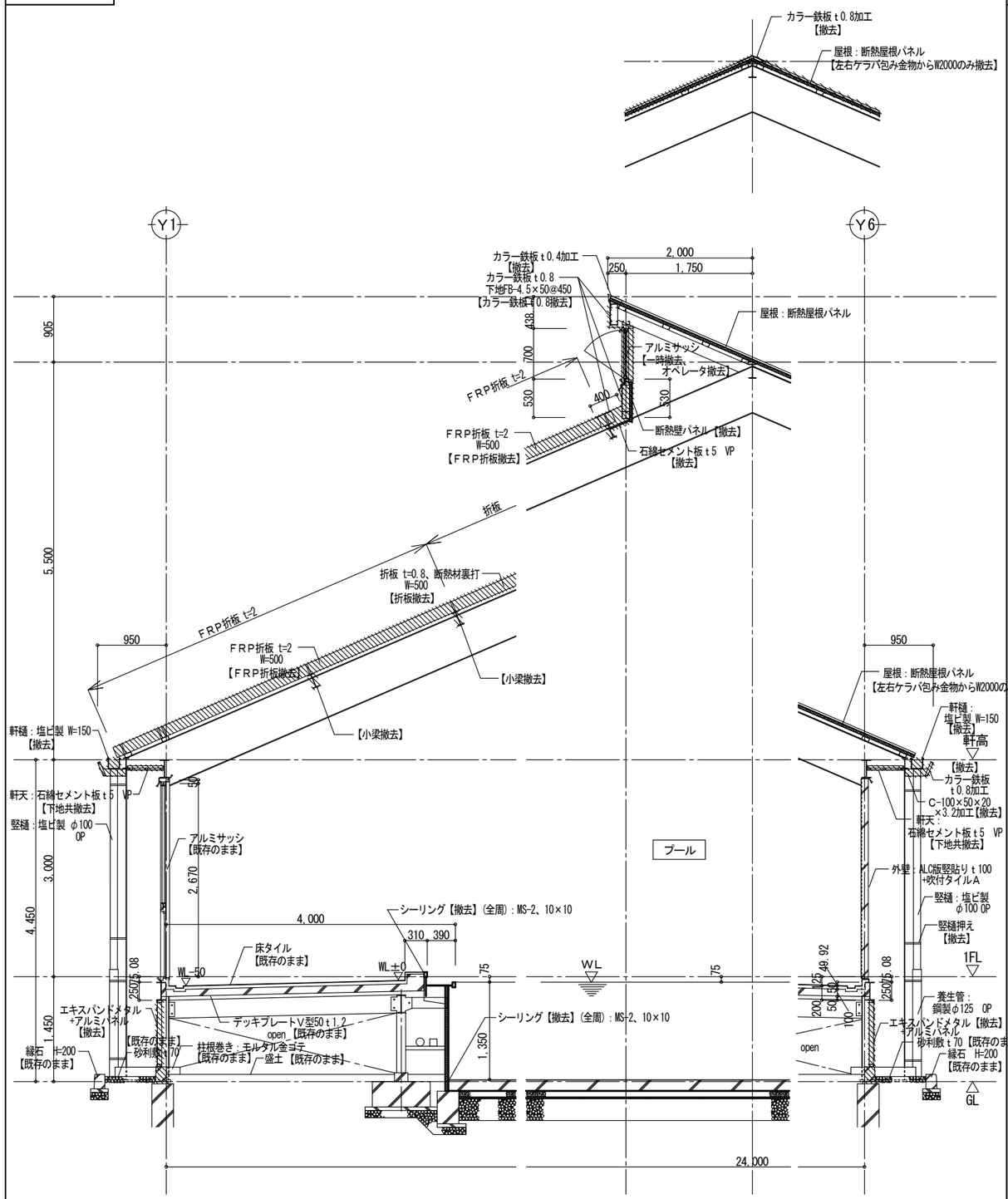
東面立面図



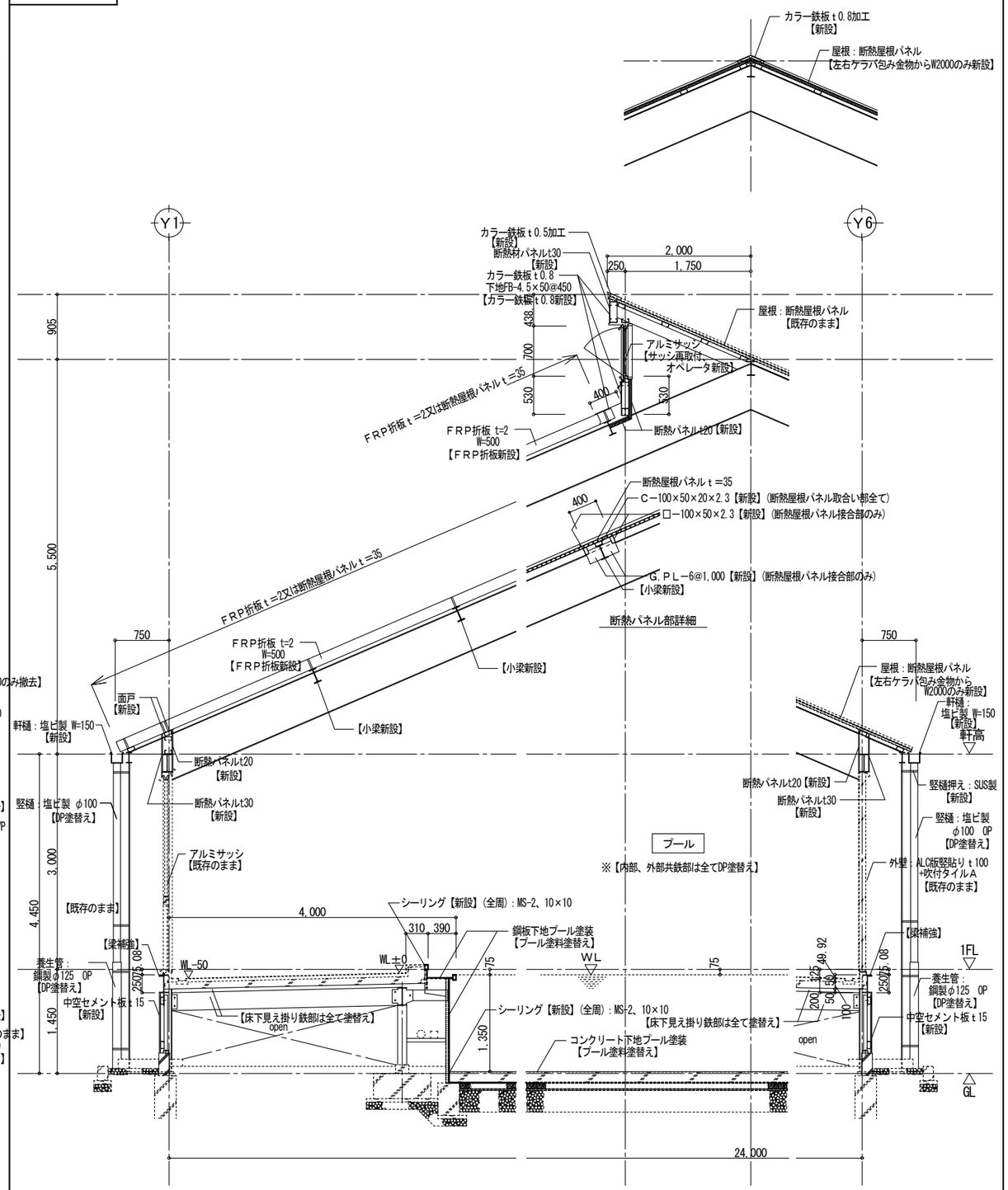
西面立面図

特記事項					工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
					図面名称	立面図（改修後） 縮尺 １／２００	Ａ－１３

改修前・撤去

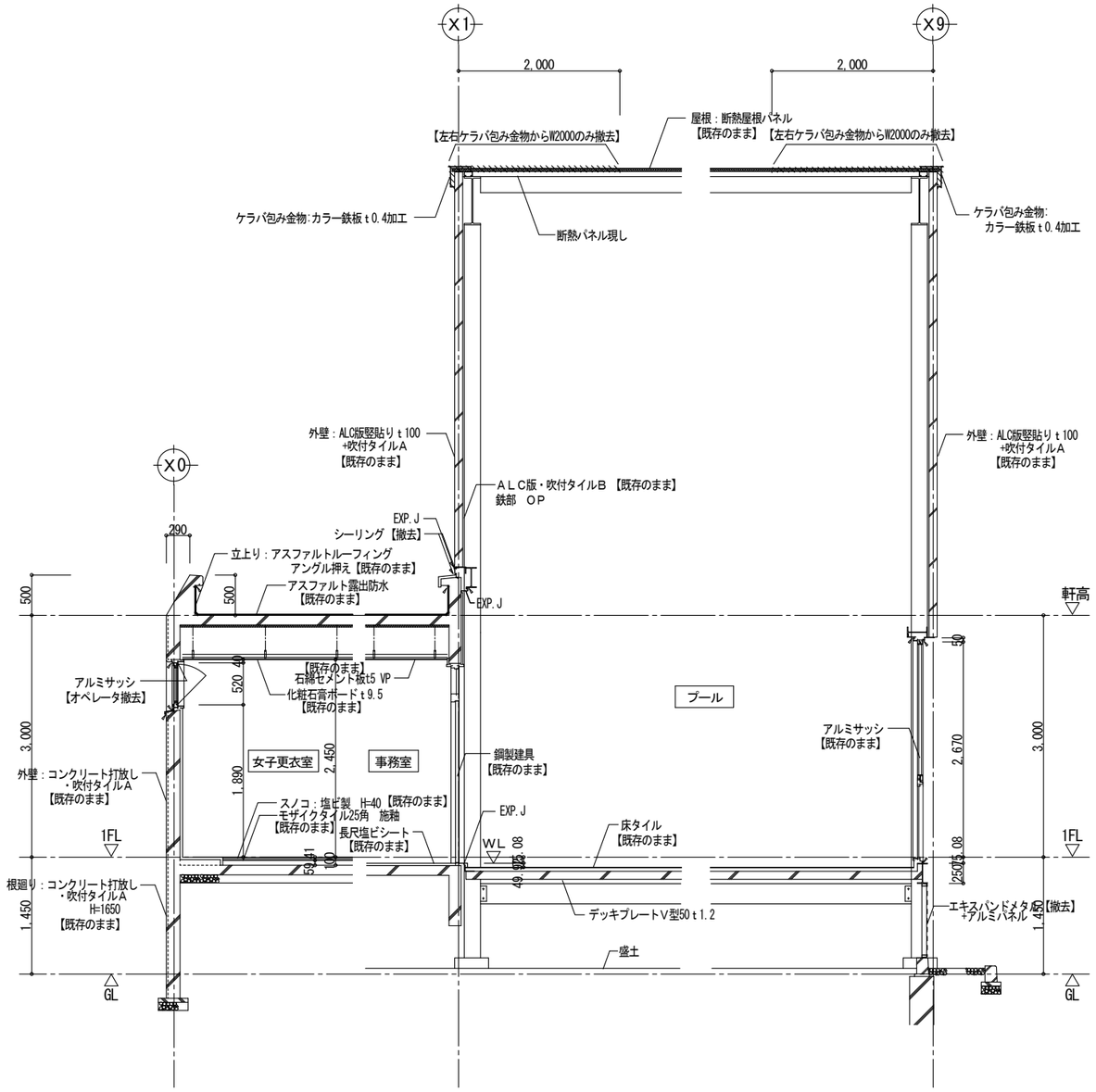


改修後

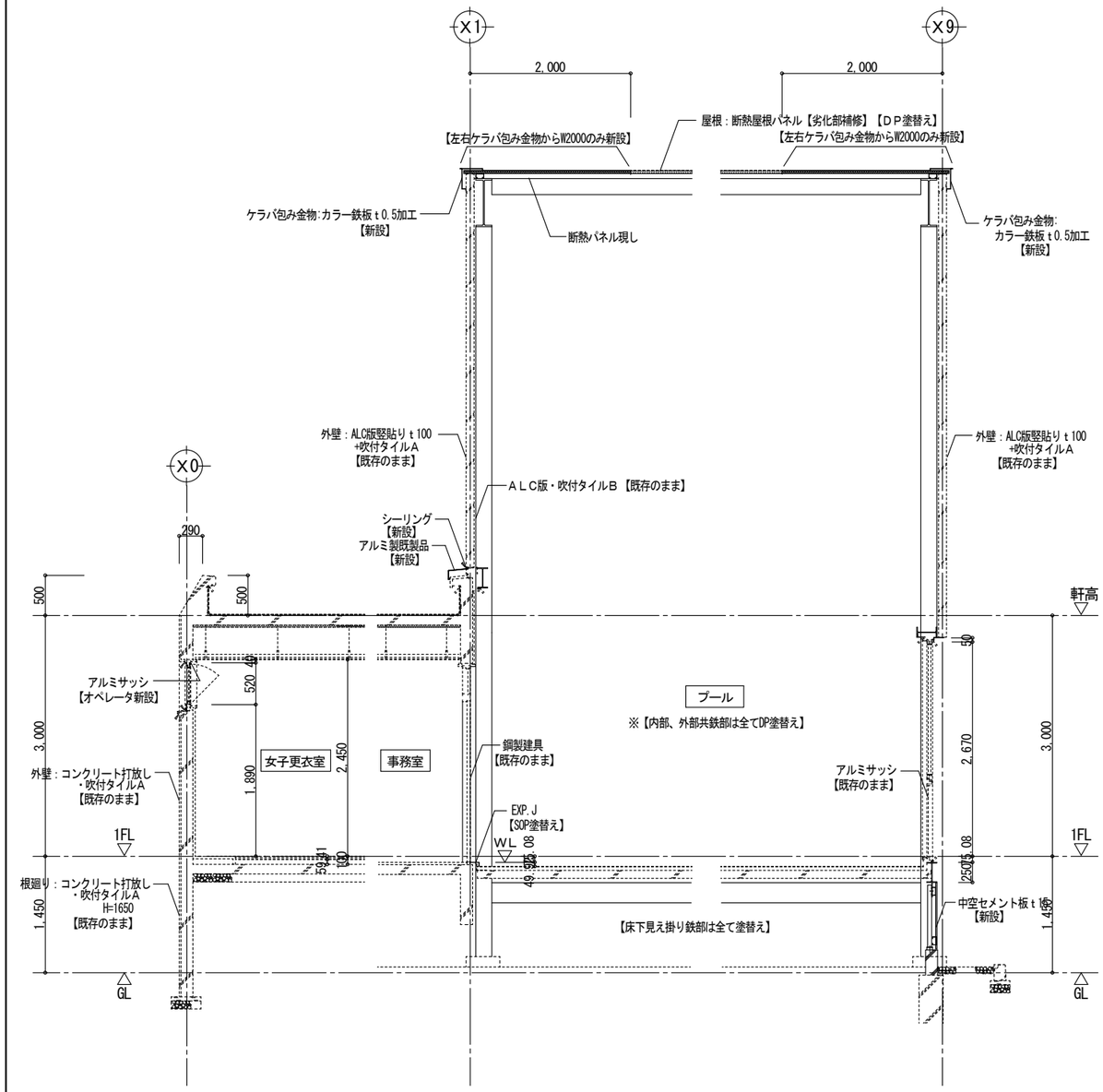


特記事項	工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
	図面名称	矩計図（1）	縮尺 1／50	A－14

改修前・撤去



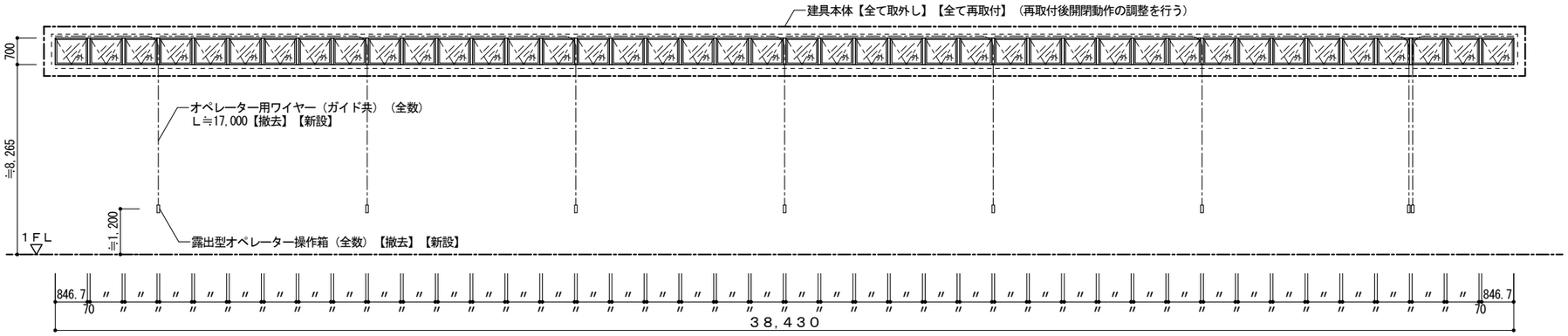
改修後

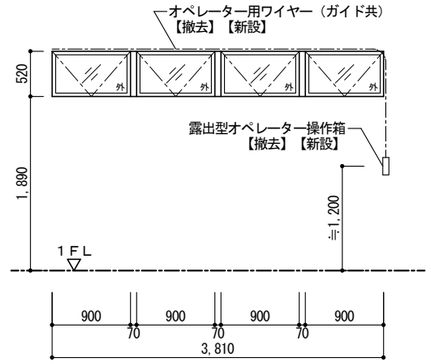


特記事項	工事名称	図面番号
	平成３１年度町民プール改修工事	Ａ－１５
	図面名称：矩計図（2）	縮尺：１／５０

記号・形式	1 AW アルミ製４２連外倒し窓 （改修建具）	2 AW アルミ製４連外倒し窓 （改修建具）
位置	プール天窓	男子更衣室、女子更衣室
数量	1	2

形状・寸法

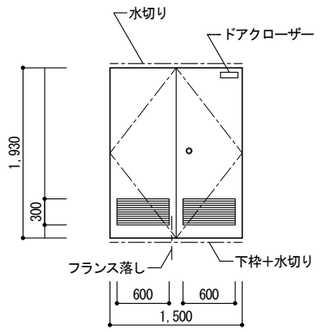


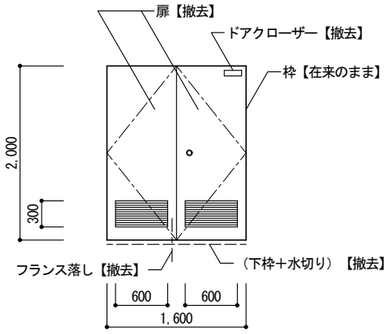


仕上 見込	アルミ製シルバー / 枠見込７０	アルミ製シルバー	枠見込７０
ガラス	強化プラスチック板ｔ＝3.2【在来のまま】	強化プラスチック板ｔ＝3.2【在来のまま】	
金　物	鋼板製外額縁及び鋼板製水切り【撤去】、アルミ製外額縁及びアルミ製水切り【新設】 既存オペレーター装置（ワイヤー共）【撤去】、オペレーター装置（ワイヤー共）【新設】 鋼製外額縁【撤去】、鋼製水切り【撤去】、鋼製内額縁【撤去】、鋼製膳板【撤去】、アルミ製外額縁(110×30)【新設】、アルミ製水切り(Ｄ＝55)【新設】、アルミ製内額縁(30×25)【新設】、アルミ製膳板(280×275)【新設】	既存オペレーター装置（ワイヤー共）【撤去】 オペレーター装置（ワイヤー共）【新設】	
備　考	建具本体（枠共）【全て取外し】【全て再取付】：再取付後開閉動作の調整を行う	建具本体（枠共）【在来のまま】：開閉動作の調整を行う	

記号・形式	N1 SD 鋼製両開き戸 （新設建具）	R1 SD 鋼製両開き戸 （撤去建具）	
位置	機械室	機械室	
数量	1	1	

形状・寸法



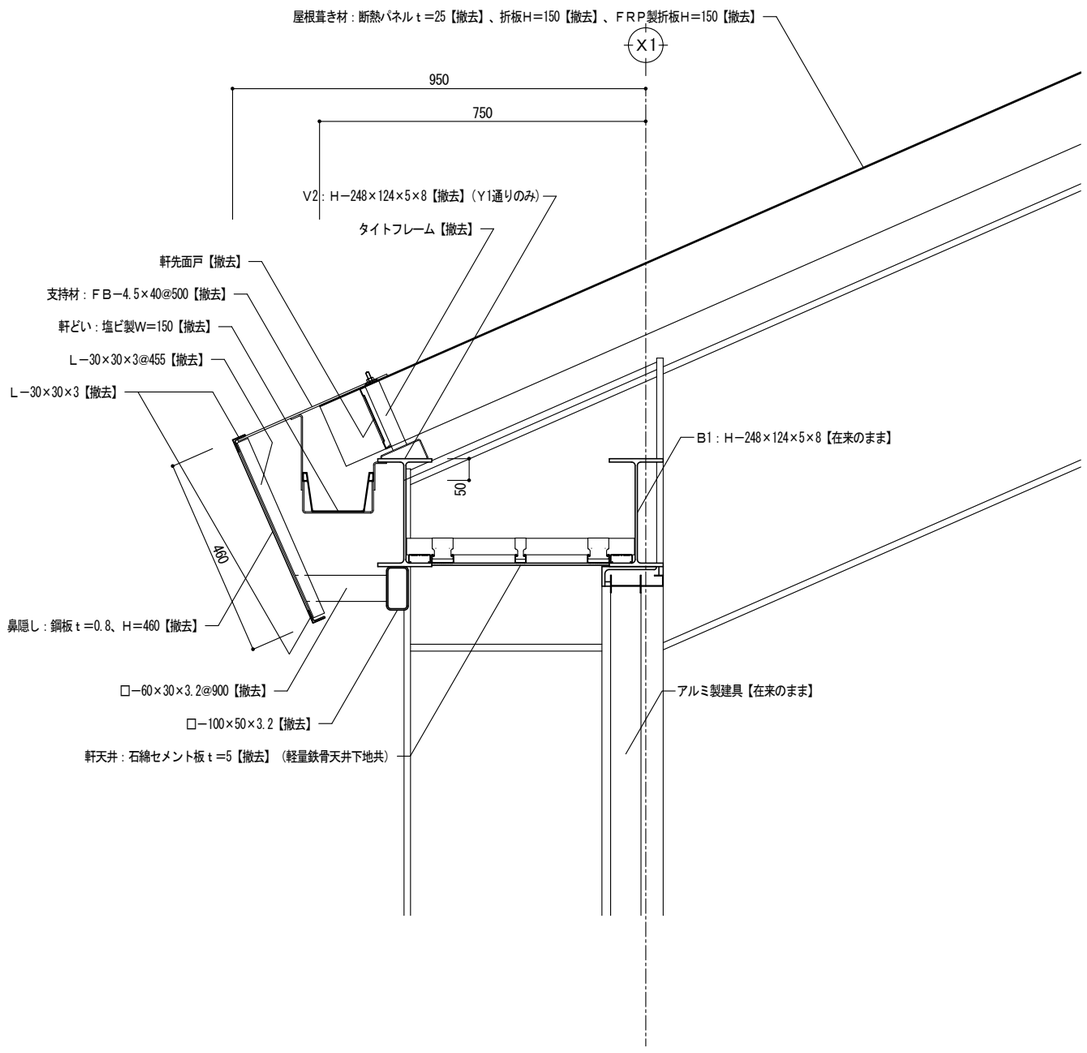


仕上 見込	鋼製　ＤＰ仕上 / 枠見込１００　扉見込４０	鋼製　ＳＯＰ仕上 / 枠見込１００　扉見込４０	
ガラス	－－	－－	
金　物	モノロック錠（内側：サムターン）×１、鋼製ガラリ×２ ステンレス製丁番×６、ドアクローザー×１、フランス落とし×１ ステンレス製下枠、ステンレス製水切り、壁付戸当り×２	モノロック錠（内側：サムターン）×１ ステンレス製丁番×６、ドアクローザー×１、フランス落とし×１ 鋼製ガラリ×２、ステンレス製水切り	
備　考	建具本体（枠共）【全て新設】	扉及び附属金物【撤去】、枠【在来のまま】	

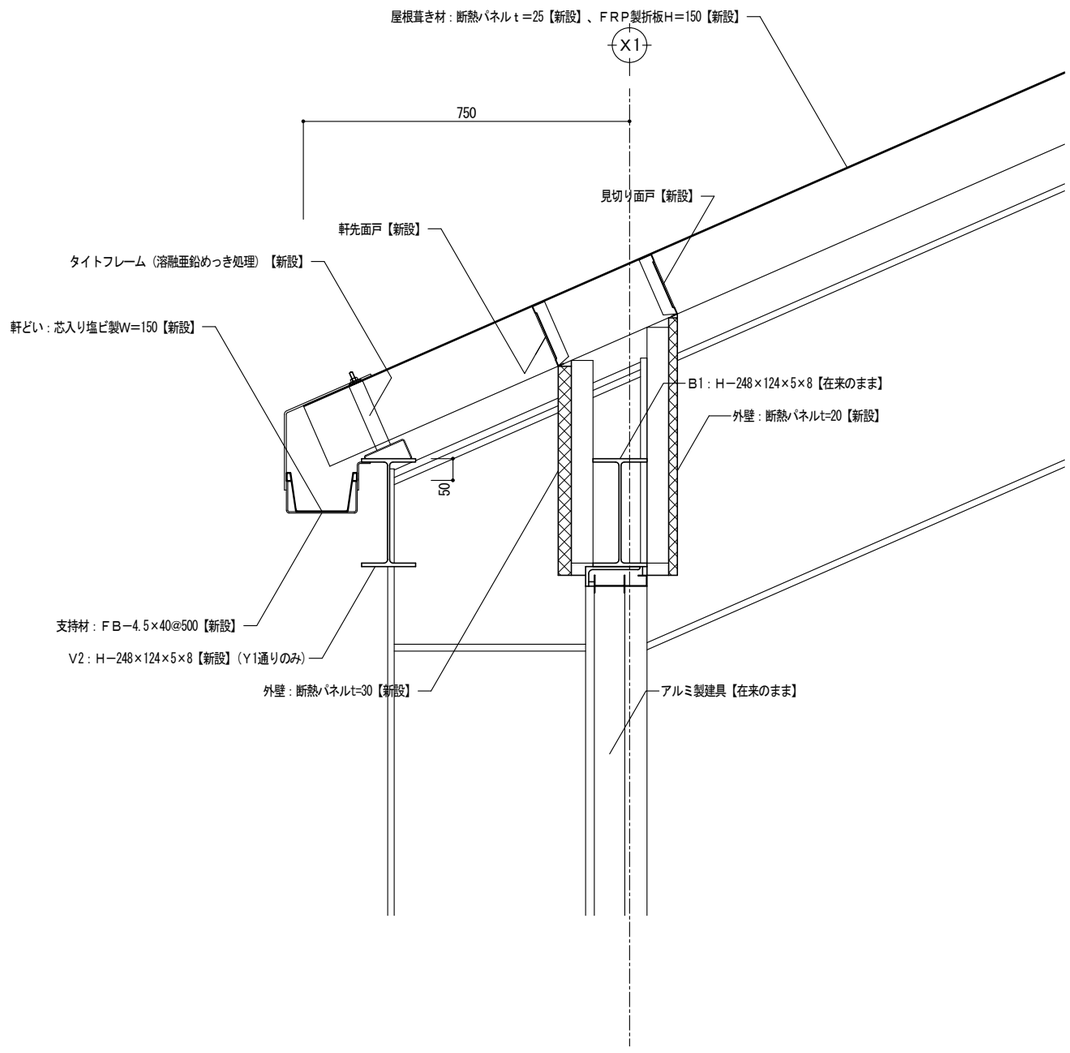
特記事項

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
図面名称	建具表	縮尺 １／５０
		Ａ－１６

改修前・撤去



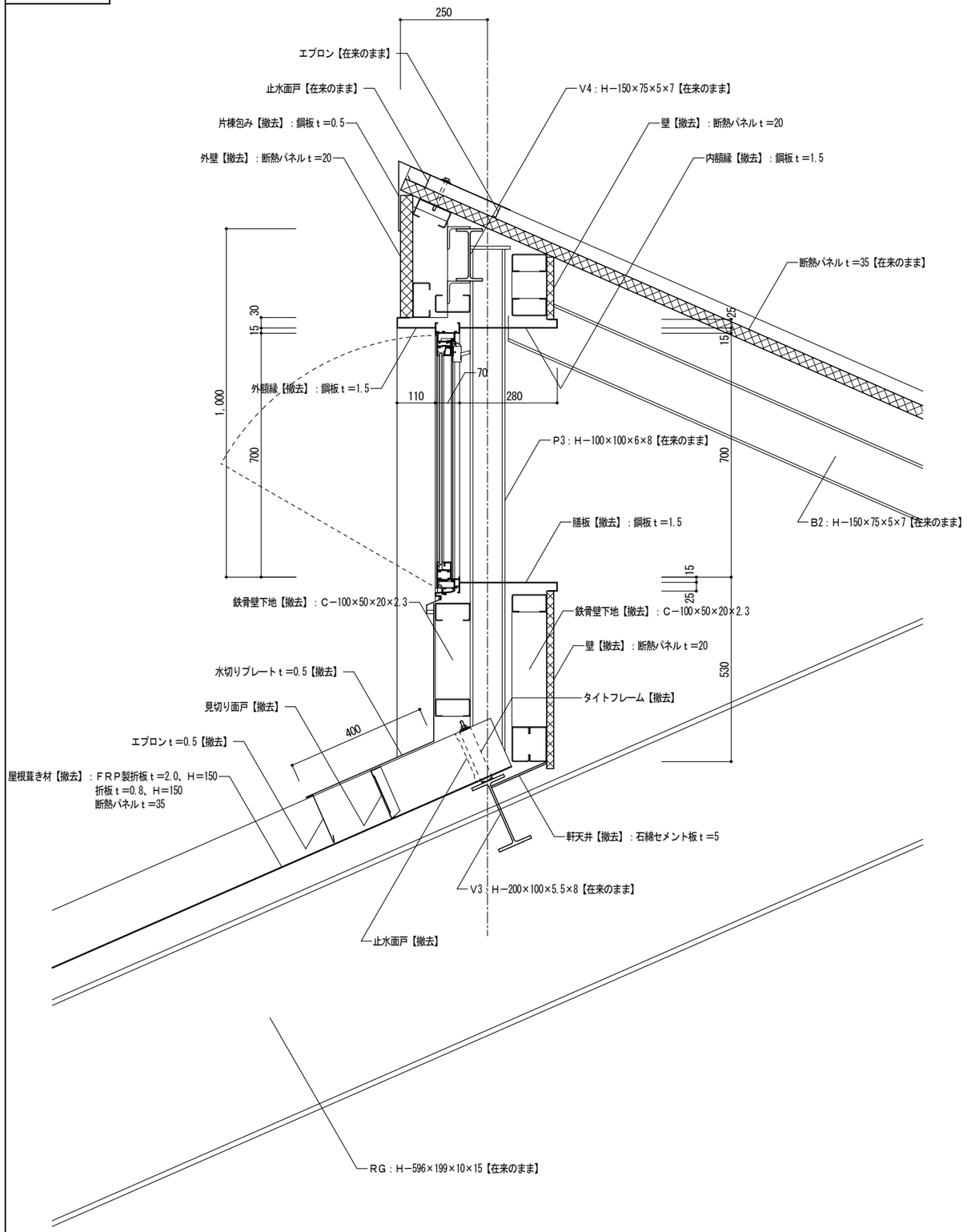
改修後



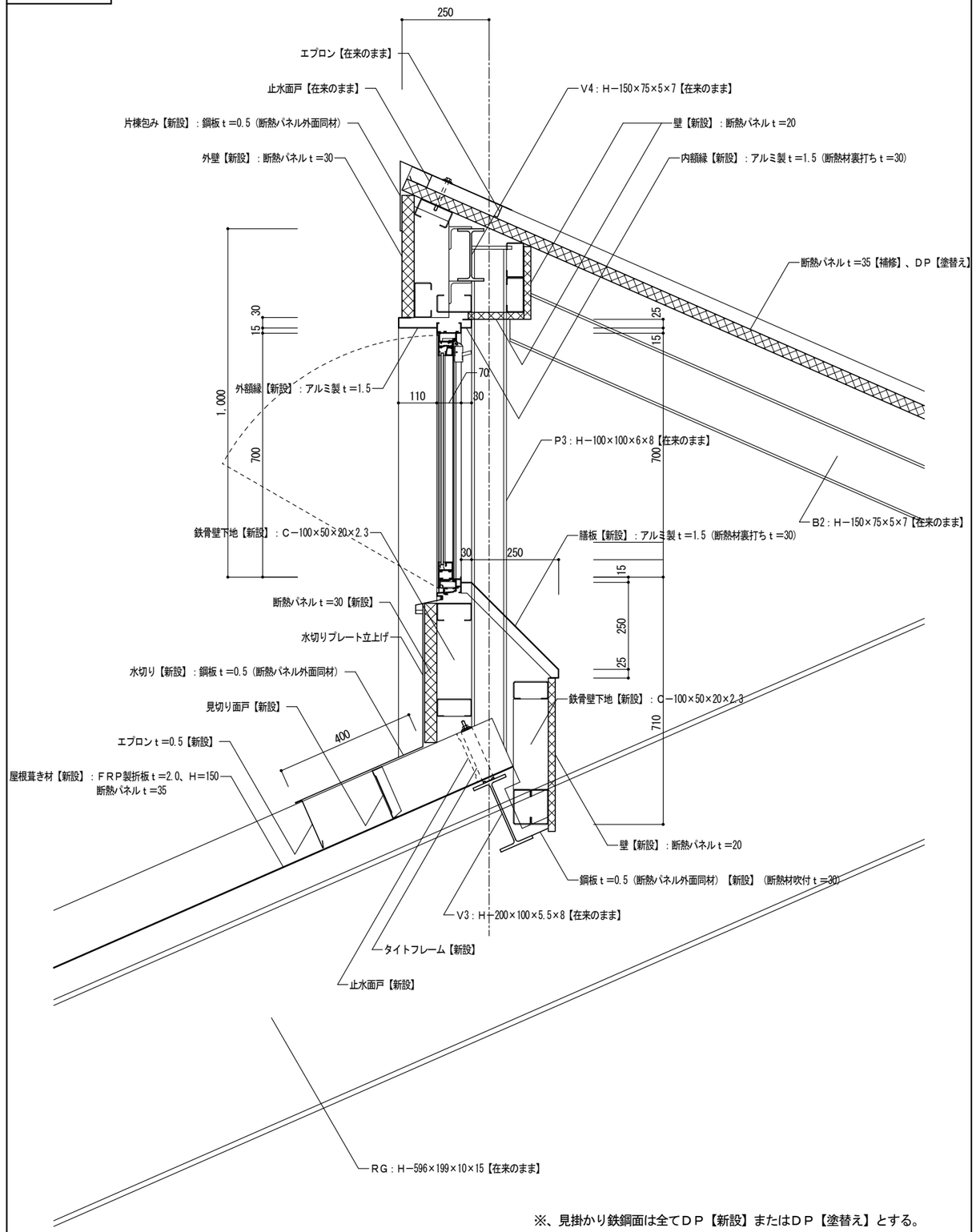
※、見掛かり鉄鋼面は全てＤＰ【新設】またはＤＰ【塗替え】とする。

特記事項	工事名称	図面番号
	平成３１年度町民プール改修工事	Ａ－１７
	図面名称：部分詳細図（１）　縮尺：１／１０	

改修前・撤去



改修後



※、見掛かり鉄鋼面は全てＤＰ【新設】またはＤＰ【塗替え】とする。

特記事項	工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
	図面名称	部分詳細図（２）	縮尺 １／１０	Ａ－１８

鉄骨標準図

1-1 縁端距離及びボルト間隔

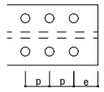
（a）縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に３本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図になければ、表1.1の縁端距離とボルト軸径の2.5倍以上のうち、大きい値とする。

また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.1　縁端距離及びボルト間隔　（単位mm）

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12 M16 M20 M22	40	60
M24	45	70

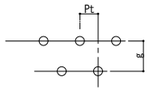


（b）千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2　千鳥のゲージ及びボルト間隔　（単位mm）

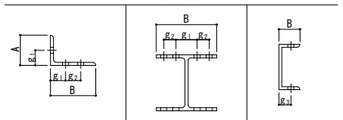
ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔　Pt ねじの呼び M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	–	40



（c）形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3　形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径　（単位mm）



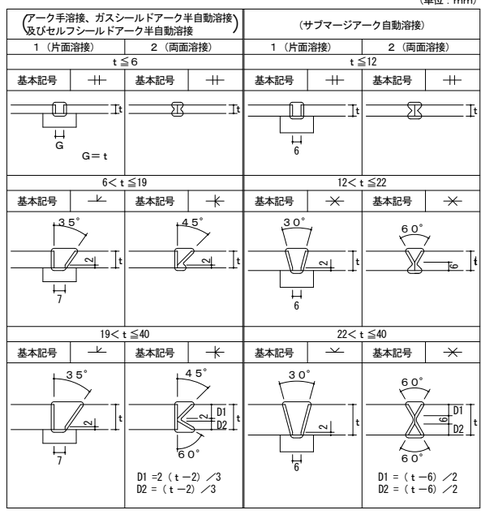
A又はB	g_1	g_2	最大軸径	B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_3	最大軸径
45	25		12	100	56		16	50	30	12
50	28		16	125	75		16	65	35	20
60	35		16	150	90		22	70	40	20
65	35		20	175	105		22	75	40	22
70	40		20	200	120		24	80	45	22
75	40		22	250	150		24	90	50	24
80	45		22	300	150	40※1	24	100	55	24
90	50		24	350	140	70	24			
100	55		24	400	140	90	24			
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1　千鳥打ちとした場合

1-2 溶接継手の種類別開先標準

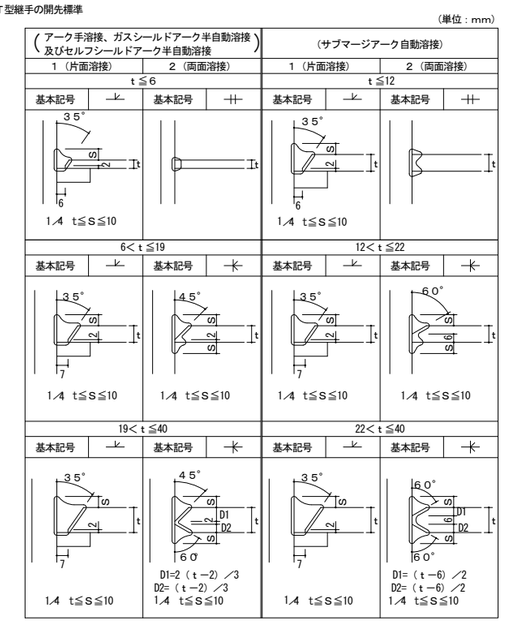
突合わせ継手の開先標準

（単位：mm）



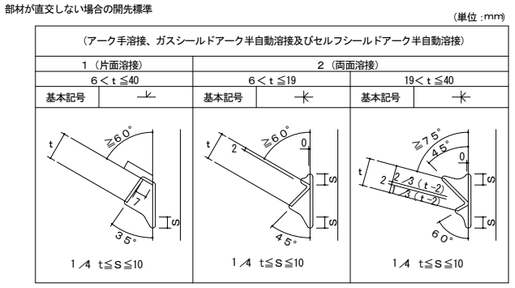
T型継手の開先標準

（単位：mm）



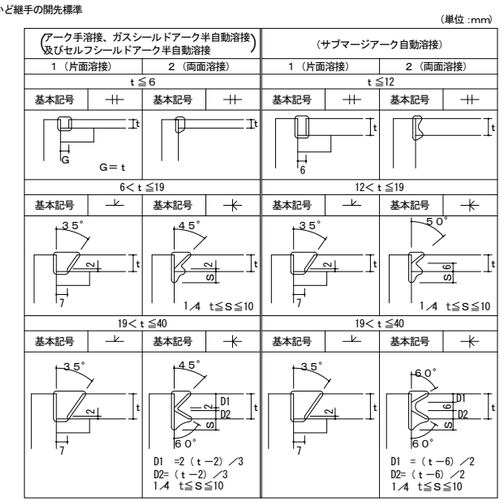
部材が直交しない場合の開先標準

（単位：mm）



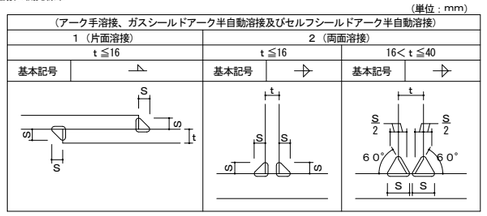
かど継手の開先標準

（単位：mm）



隅肉溶接の開先標準

（単位：mm）



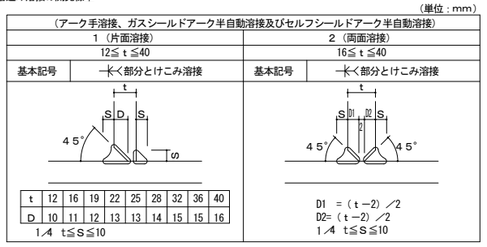
隅肉溶接のサイズ

（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準

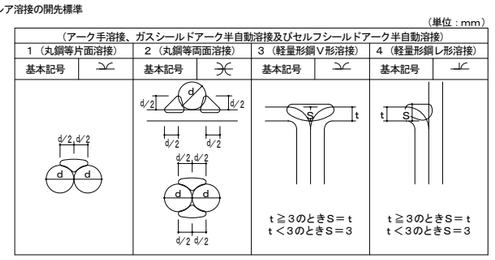
（単位：mm）



t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

フレア溶接の開先標準

（単位：mm）

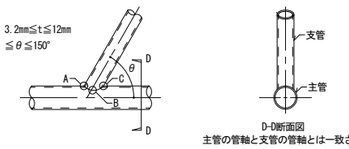


1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。　（単位：mm）

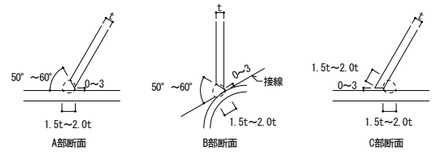
適用管厚　3.2mm≦t≦12mm

交角　30°≦θ≦150°



D-D断面図

主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。

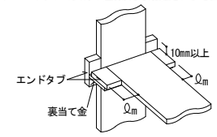


1-4 鉄骨溶接施工

（a）エンドタブ

（1）エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。

（2）エンドタブの鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。



溶接方法	ℓ_m
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

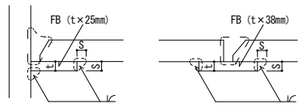
（b）裏当て金

裏当て金の溶接

（1）裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。

（2）完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。

（3）裏当て金の鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。



裏当て金の厚さ　（単位：mm）

溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ　（単位：mm）

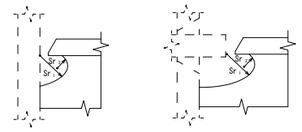
裏当て金の厚さ	S
t≦9	5
t＞9	9

（d）スカラップ

改良型スカラップ

（1）スカラップ半径Sr_1は35mmとする。Sr_2は10mmとする。

（2）スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。

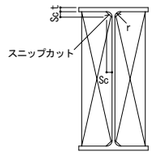


従来型スカラップ

（1）スカラップ半径Srは35mmとする。

（e）スニップカット

（1）スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



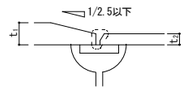
（2）スニップカットの寸法

スニップカットの寸法は下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r+2により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

（f）溶接部分の段差

（1）完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合

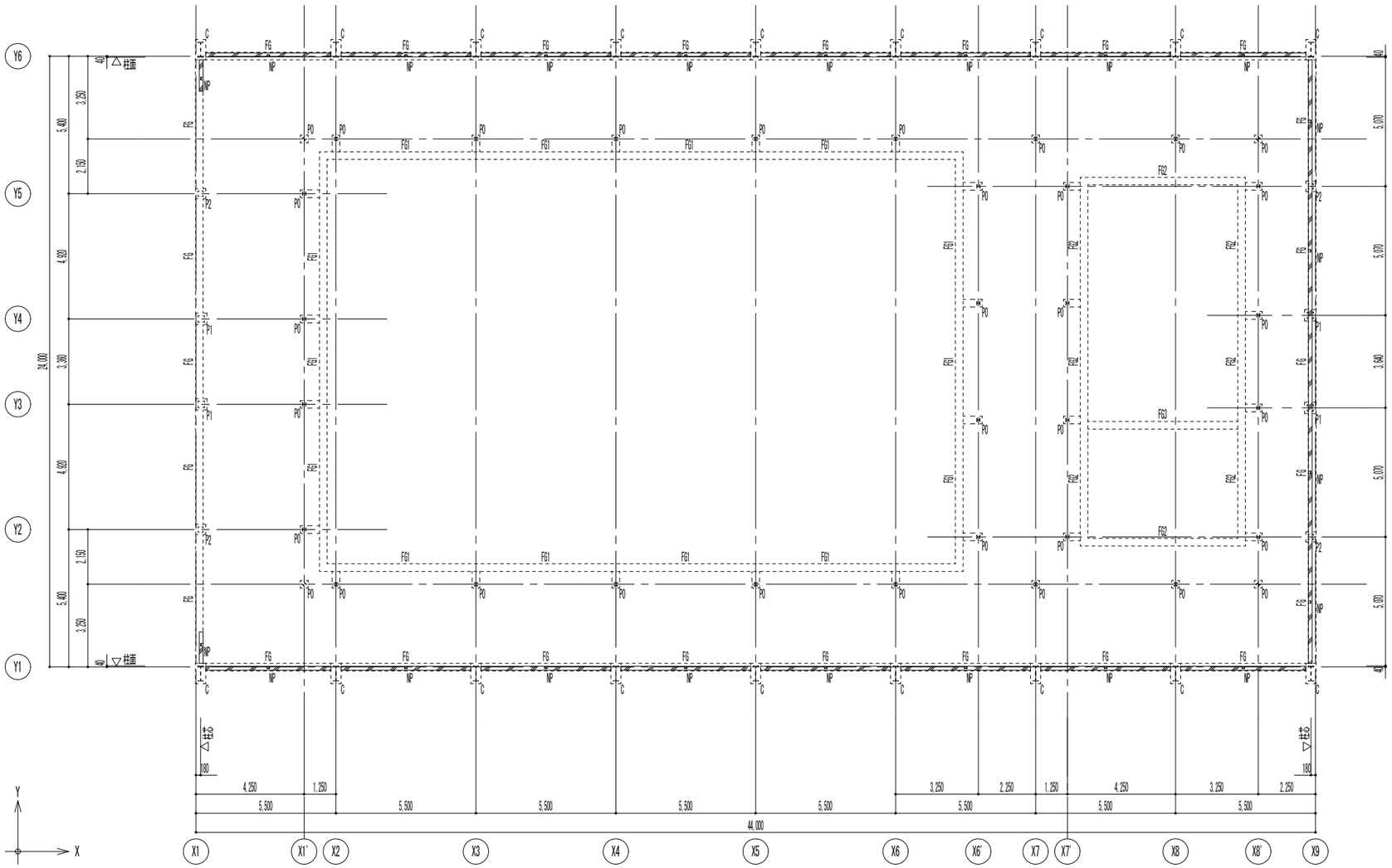


（g）鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱（KJ/cm）	パス間温度（℃）
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	JIS Z 3214		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3212	40以下	350以下
	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGW-18, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3214		
	YGA-50W, 50P		
520N級鋼	YGW-18, 19	30以下	250以下
400N級STKR、BCR及びBCP	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGW-18, 19	40以下	350以下
490N級STKR、及びBCP	YGW-18, 19	30以下	250以下

特記事項

工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
図面名称	鉄骨標準図	縮尺 1／
		Ｓ－０１

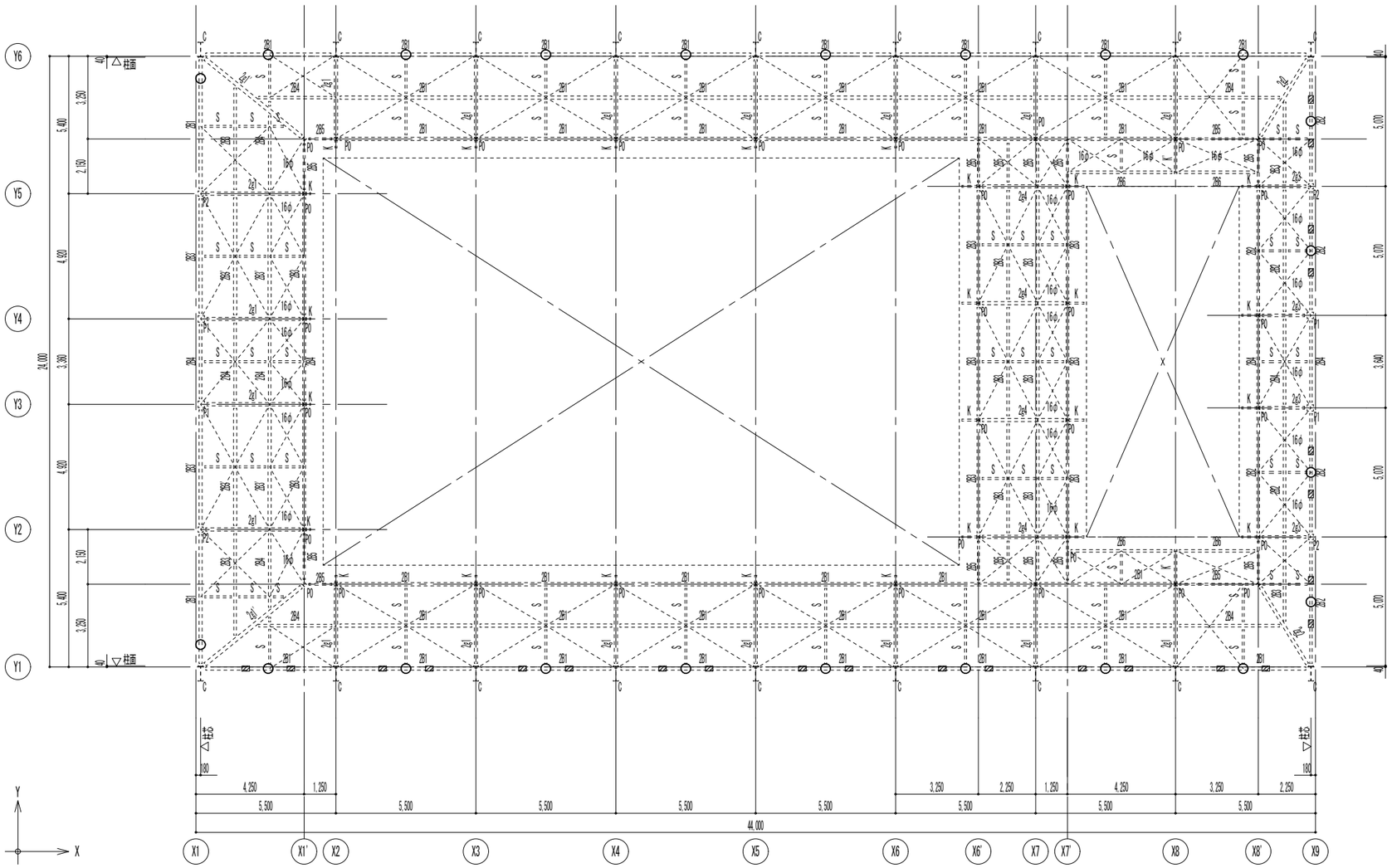


補強１階梁伏図　S=1/100

○　特記なき限り下記による

1.　　印は新設腰壁t=150　位置を示す。

特記事項						工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
						図面名称	補強伏図(1)	縮尺 1／100	S－02

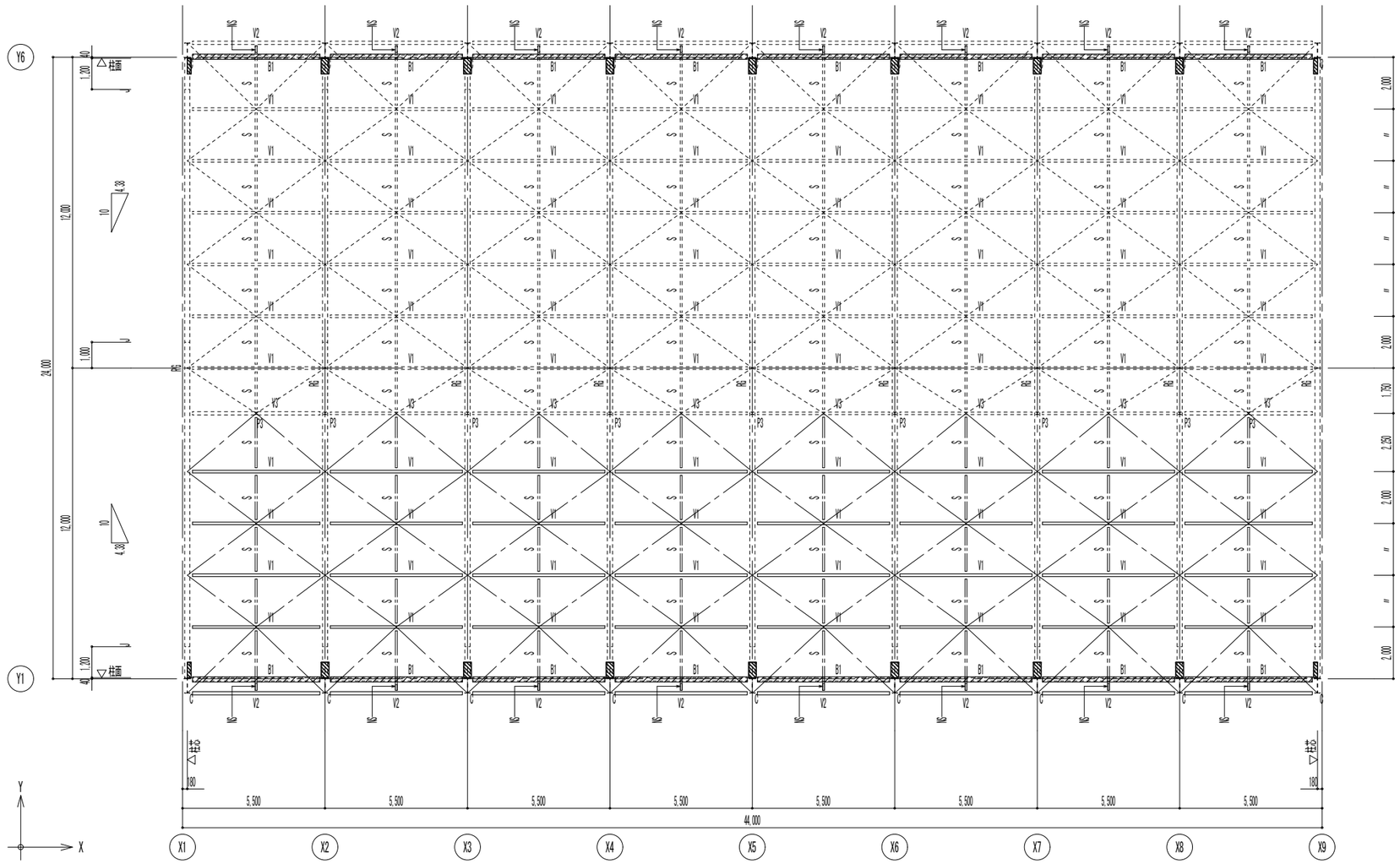


補強中２階梁伏図　S=1/100

○　特記なき限り下記による

1. ▨ 印はサッシ方立て下部のZB1・ZB2　外側上部フランジにフラットバーを溶接し、補強する箇所を示す。
2. ○ 印は補強束材NP　の位置を示す。

特記事項	工事名称	図面番号
	平成３１年度町民プール改修工事	Ｓ－０３
	図面名称：補強伏図(2)　縮尺：１／１００	

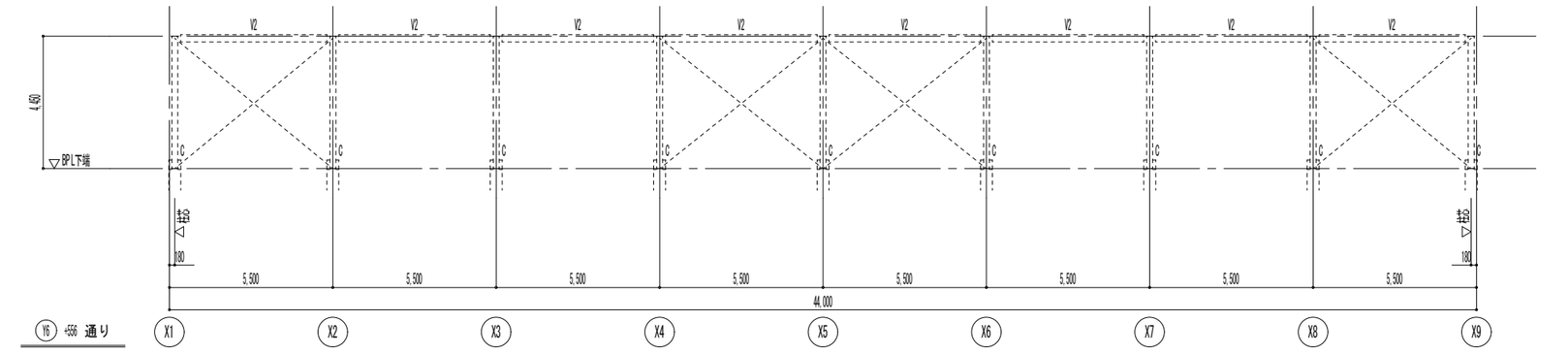


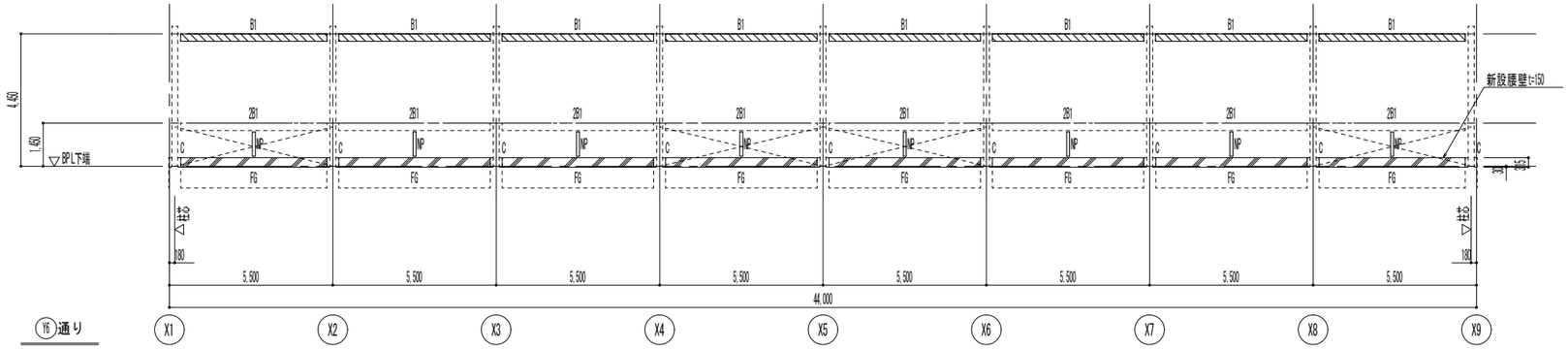
補強屋根伏図　S=1/200

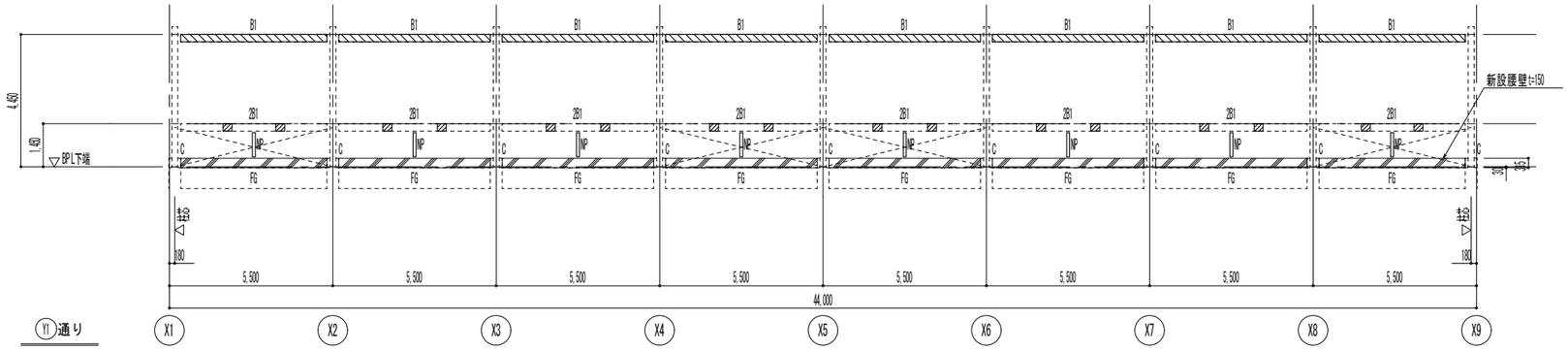
○ 特記なき限り下記による

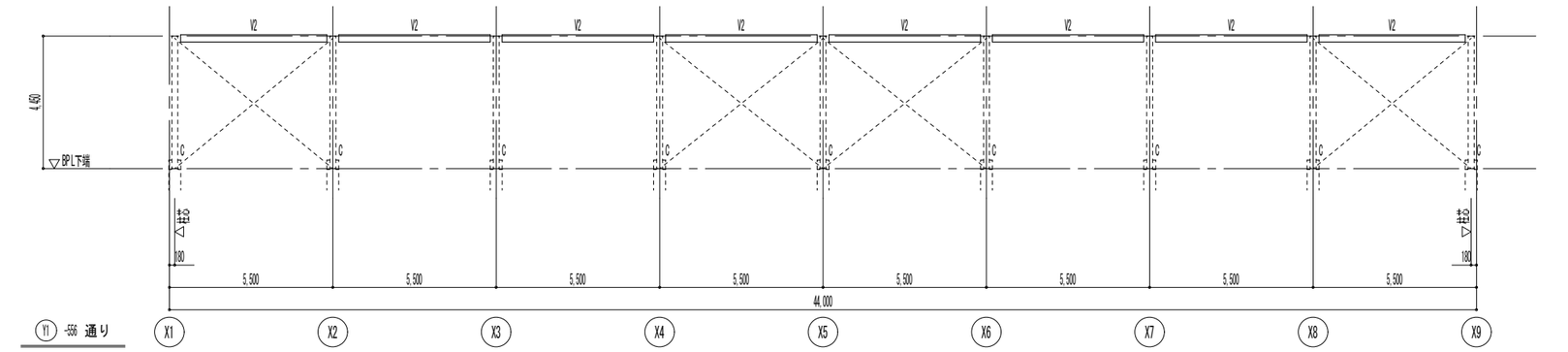
1. 印B1　梁は下フランジ上部内側にフラットバーを溶接し、補強する箇所を示す。
2. 印RG　梁は下フランジ上部にフラットバーを溶接し、補強する箇所を示す。
   但し、X1・X9　通りは内側のみ補強すること。
3. 印V1・V2　は既存部材を撤去し同サイズ部材の新設を示し、
   NS　は部材新設を示す。
4. 印S 及び ―・― 印水平ブレースは　V1・V2　部材改修のため既存部材の取外し、再取付を示す。

特記事項	工事名称	図面番号
	平成３１年度町民プール改修工事	Ｓ－０４
	図面名称：補強伏図(3)　縮尺：１／１００	







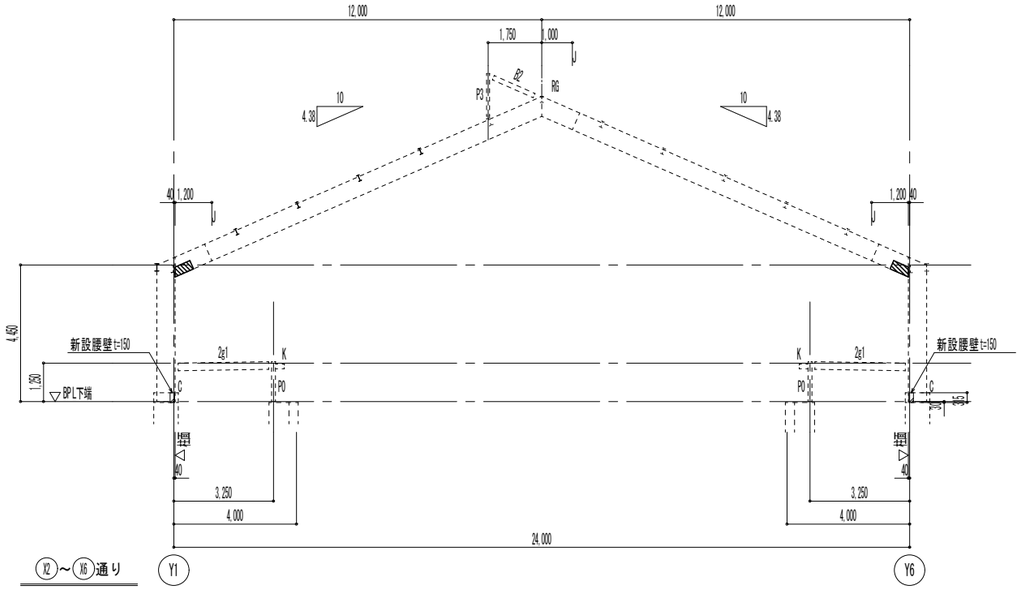


○ 特記なき限り下記による

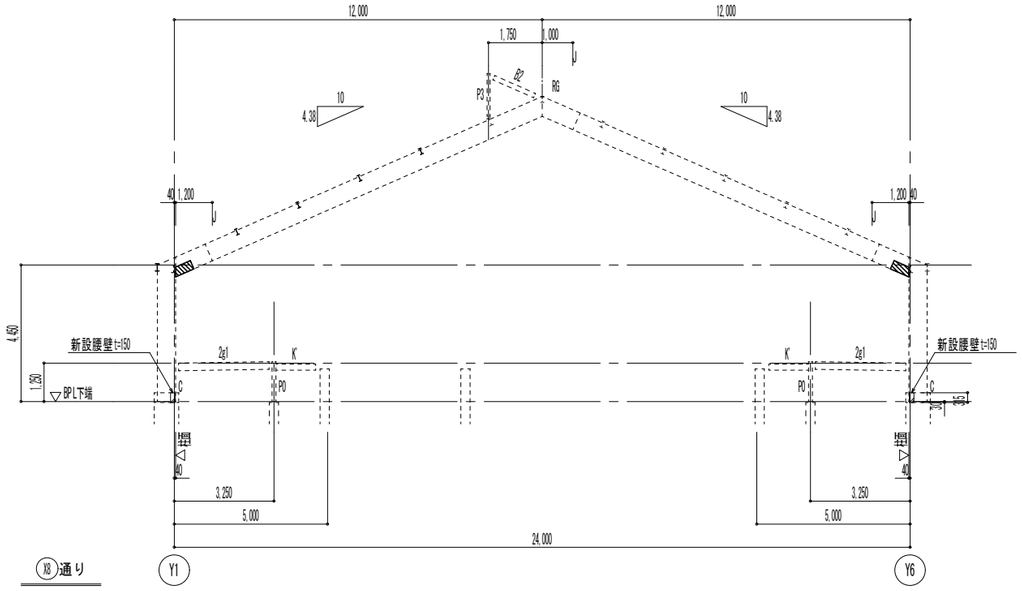
1. 印B1 梁は下フランジ上部内側にフラットバーを溶接し、補強する箇所を示す。
2. 印はサッシ方立て下部の2B1 外側上部フランジにフラットバーを溶接し、補強する箇所を示す。
3. 印V2 は既存部材を撤去し同サイズ部材の新設を示す。
NP は部材新設を示す。

補強軸組図(1) S=1/100

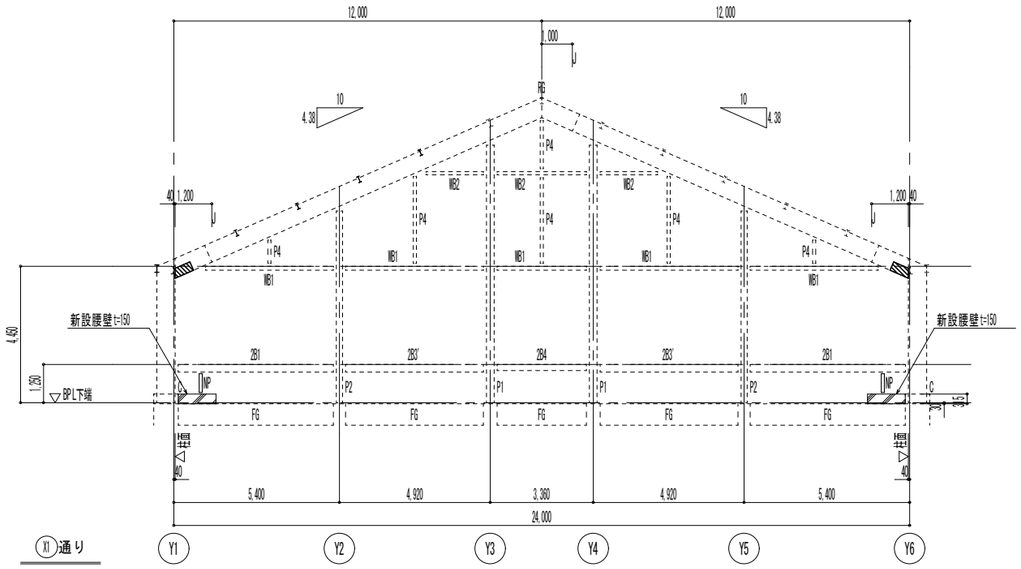
特記事項	工事名称	図面番号
	平成３１年度町民プール改修工事	S－05
	図面名称 補強軸組図(1)	縮尺 1／100



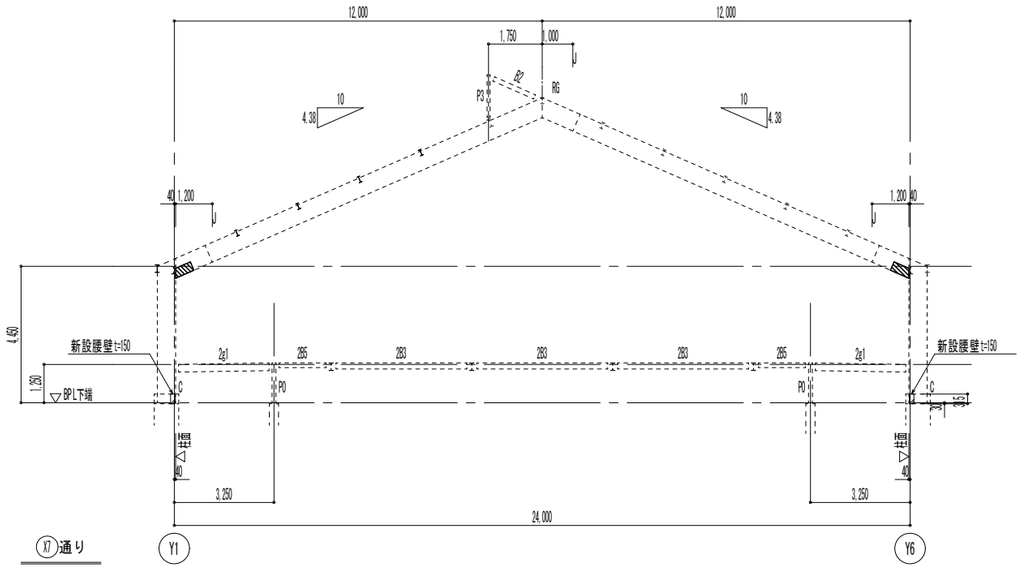
X2～X6通り



X8通り



X1通り



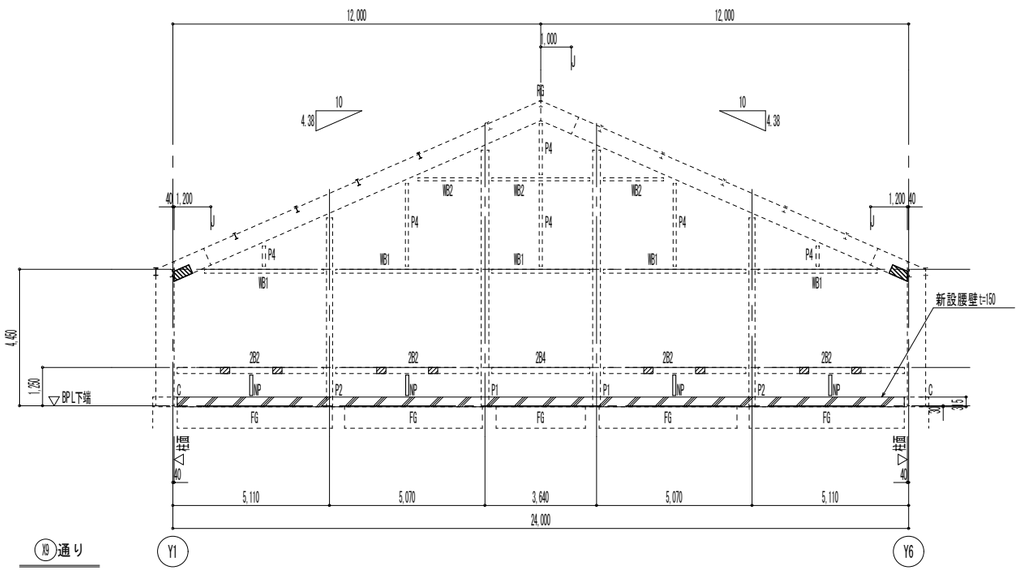
X7通り

○ 特記なき限り下記による

1. ▨ 印はRG 柱端下フランジにフラットバーを溶接し、補強する箇所を示す。
但し、X1 通りは内側のみ補強すること。

補強軸組図(2) S=1/100

特記事項	工事名称	図面番号
	平成３１年度町民プール改修工事	S－06
	図面名称 補強軸組図(2)	縮尺 1／100



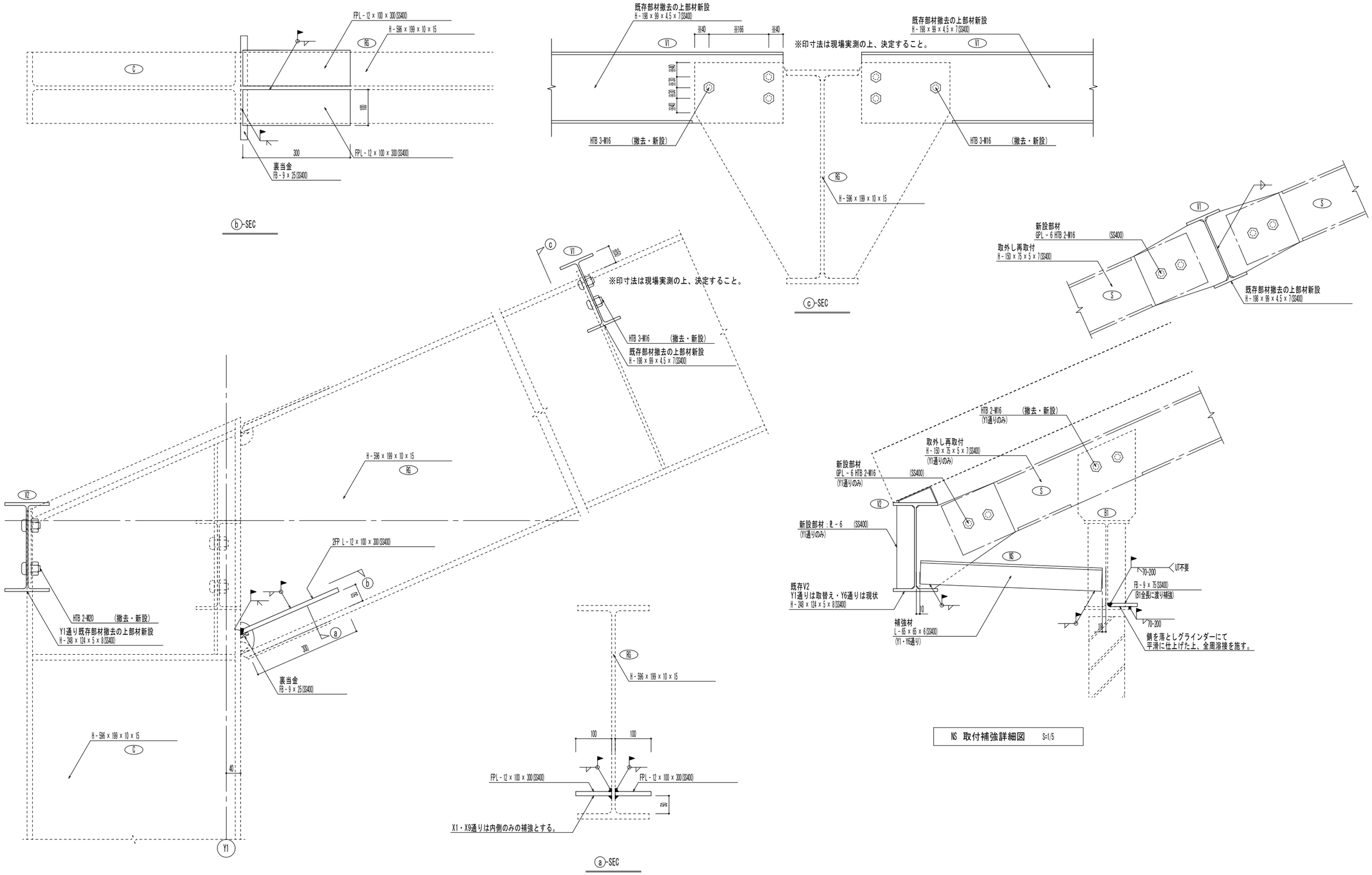
既存部材リスト			
符　号	部材サイズ	備　考	
C	H-596 x 199 x 10 x 15	主柱	在来のまま
RG	H-596 x 199 x 10 x 15	主梁	一部既存部材補強
V1	H-198 x 99 x 4.5 x 7	屋根面梁材	一部既存部材撤去の上部材新設
V2・V3'	H-248 x 124 x 5 x 8	屋根面梁材	Y1通り既存部材撤去の上部材新設
V3	H-200 x 100 x 5.5 x 8	屋根面梁材	在来のまま
2g1	H-250 x 125 x 6 x 9	中2階大梁	在来のまま
2g2	H-248 x 124 x 5 x 8	中2階大梁	在来のまま
2g3	H-198 x 99 x 4.5 x 7	中2階大梁	在来のまま
2g4	H-248 x 124 x 5 x 8	中2階大梁	在来のまま
2g1'	H-298 x 149 x 5.5 x 8	中2階大梁	在来のまま
2B3'・B1・WB1	H-248 x 124 x 5 x 8	B1：サッシ受材 WB：耐風梁	Y1・Y6通り既存部材補強
2B1	H-250 x 125 x 6 x 9	小梁	一部既存部材補強
2B2	H-200 x 100 x 5.5 x 8	小梁	一部既存部材補強
2B3・WB2	H-198 x 99 x 4.5 x 7	小梁	在来のまま
2B4	H-198 x 99 x 4.5 x 7	小梁	在来のまま
2B5	H-150 x 75 x 5 x 7	小梁	在来のまま
2B6	H-198 x 99 x 4.5 x 7	小梁	在来のまま
V4・K	H-150 x 75 x 5 x 7	V4：越屋根つなぎ材 K：床面キャンテ材	在来のまま
K'	H-198 x 99 x 4.5 x 7	K'：床面キャンテ材	在来のまま
S	H-150 x 75 x 5 x 7	屋根　補助材	一部取外し再取付
	2C-100 x 50 x 20 x 2.3	中2階	在来のまま
P0	H-125 x 125 x 6.5 x 9	管柱	在来のまま
P1	□-250 x 250 x 12	間柱	在来のまま
P2	□-200 x 200 x 9	間柱	在来のまま
P3	H-100 x 100 x 6 x 8	越屋根材	在来のまま
P4	□-100 x 100 x 2.3	吊材	在来のまま
B2	H-150 x 75 x 5 x 7	越屋根材	在来のまま
ブレース(越屋根)	壁・屋根面：16φ		在来のまま
ブレース(屋根面)	軒部：22φ　　中間部：19φ		一部取外し再取付
ブレース(壁面)	Y1・Y6通り下部：　L-65 x 65 x 6 上部：L-75 x 75 x 6		在来のまま
ブレース(床下・両方向)	19φ		在来のまま
ブレース(床面)	16φ　　特記無き：19φ		在来のまま
NP	[-100 x 50 x 5 x 7.5		新設
NS	L-65 x 65 x 6		新設

○　特記なき限り下記による

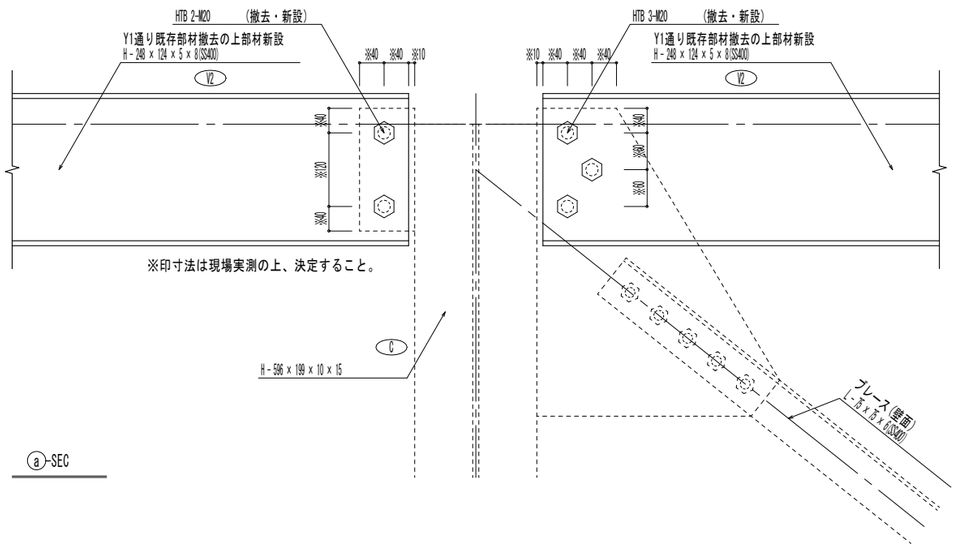
1. 印はサッシ方立て下部の2B2　外側上部フランジにプレートを溶接し、補強する箇所を示す。
2. 印はRG　柱端下フランジにフラットバーを溶接し、補強する箇所を示す。
但し、X9　通りは内側のみ補強すること。

補強軸組図(3)　　S=1/100

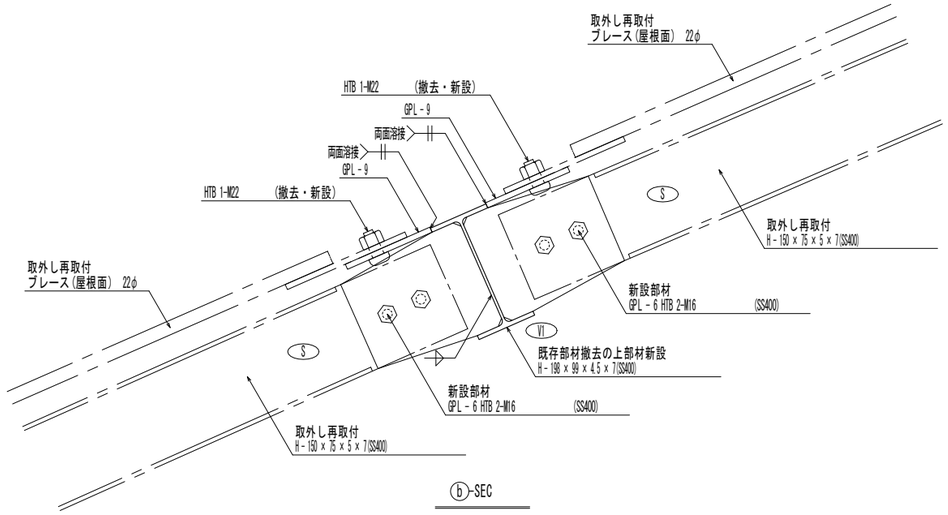
特記事項						工事名称		図面番号
						平成３１年度町民プール改修工事		Ｓ－０７
						図面名称	縮尺	
						補強軸組図(3)	１／１００	



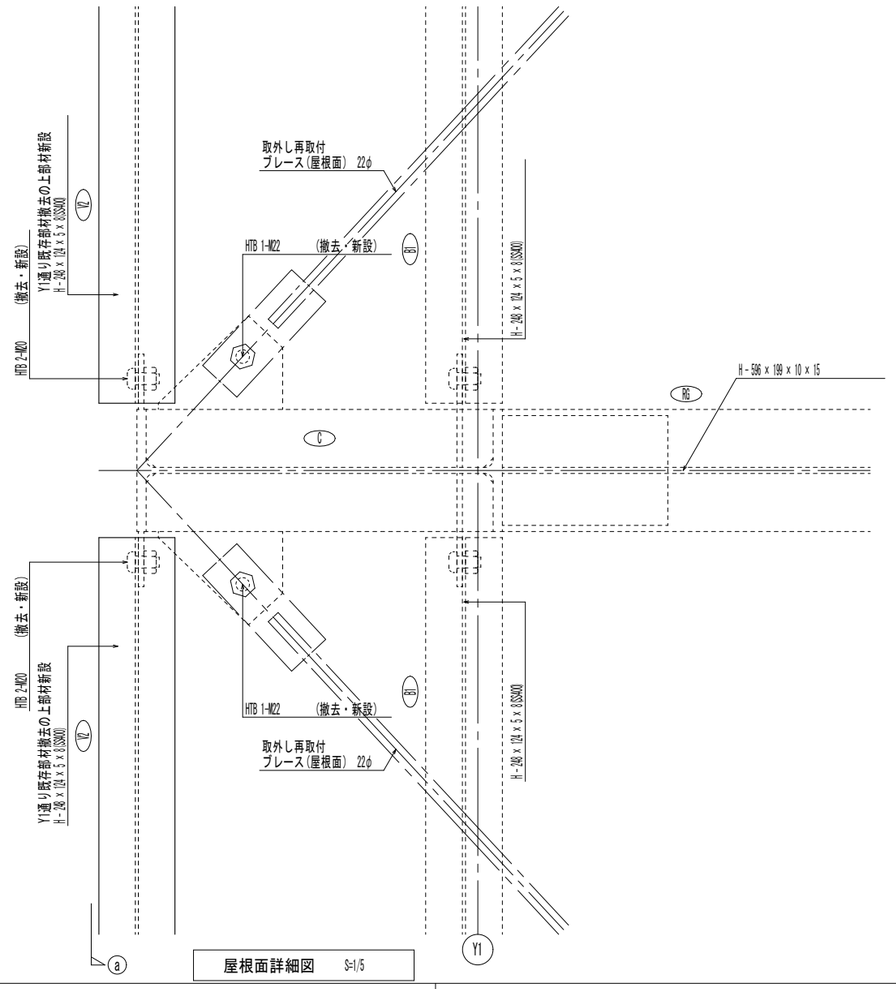
特記事項						工事名称	平成３１年度町民プール改修工事		図面番号
						図面名称	補強詳細図(1)	縮尺 １／５	Ｓ－０８



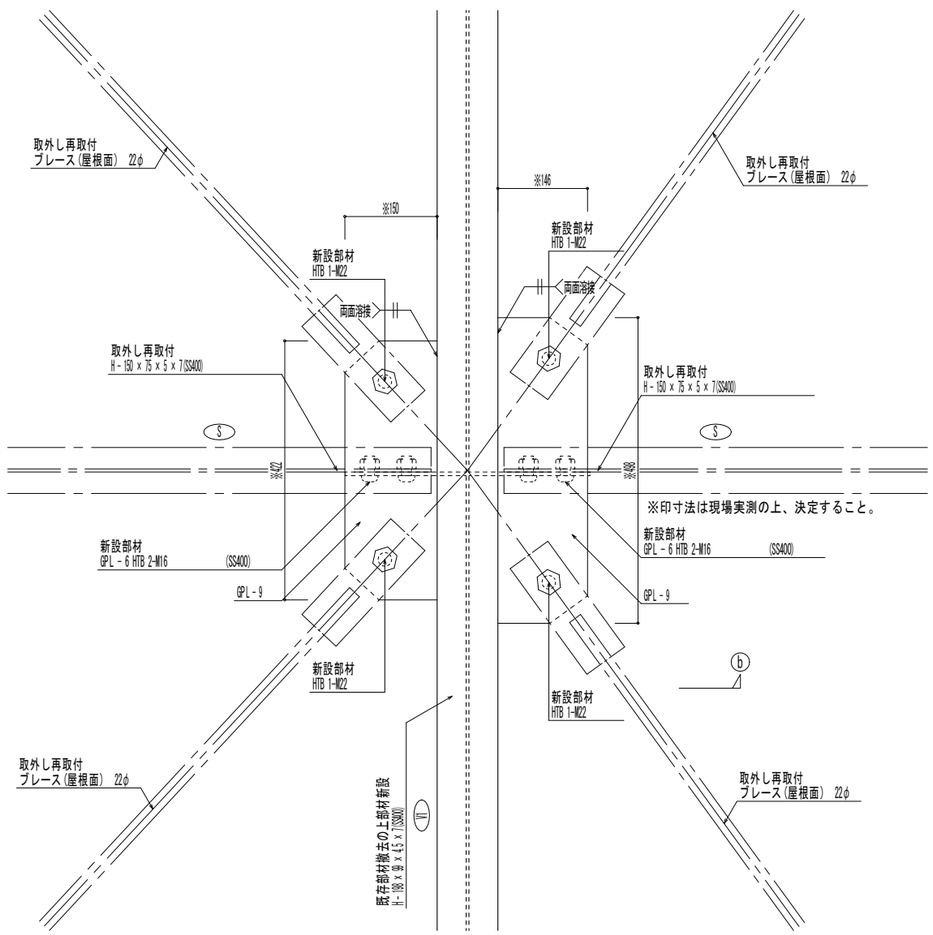
ⓐ-SEC



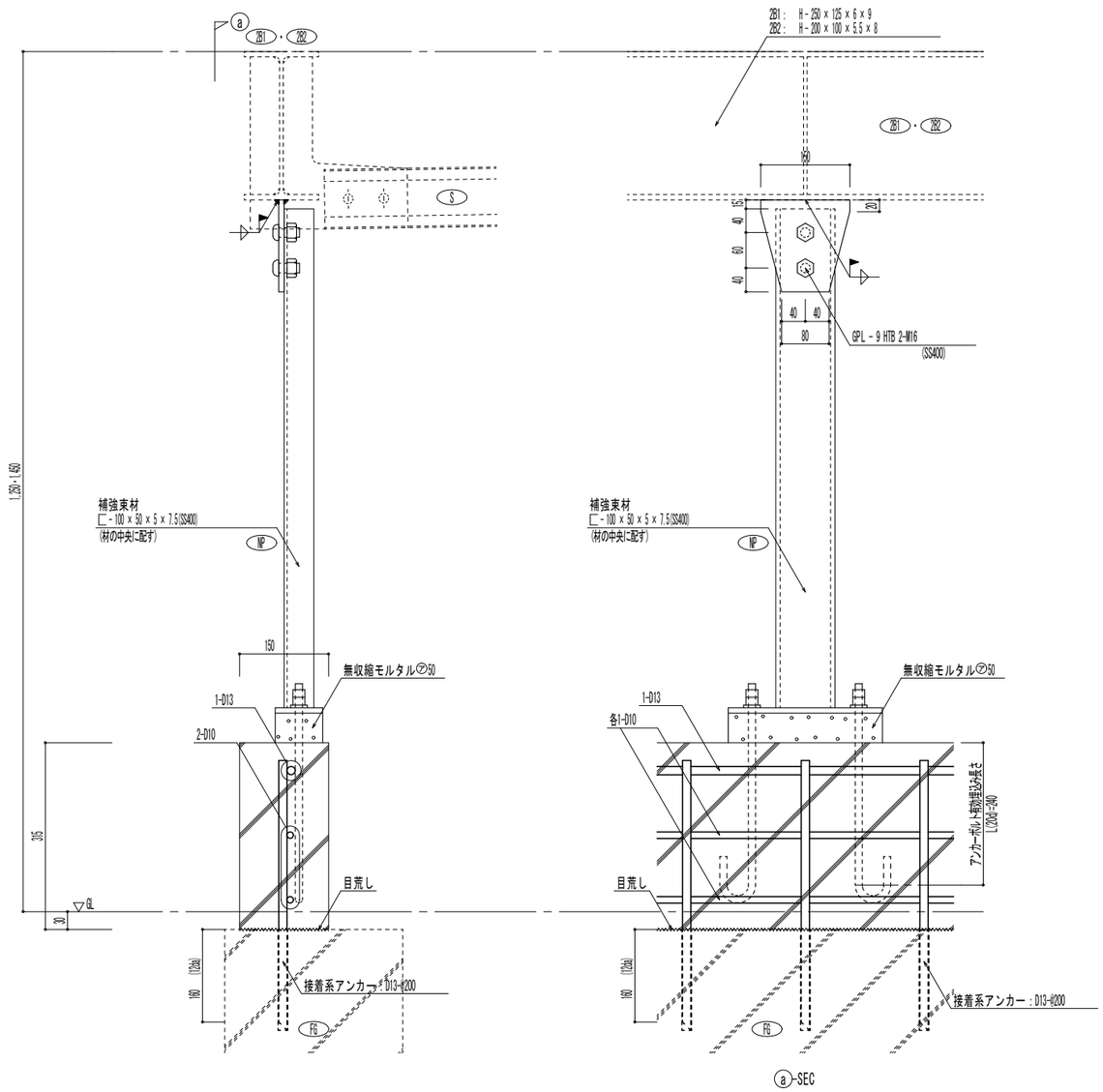
ⓑ-SEC



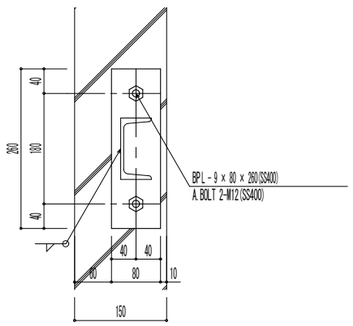
屋根面詳細図 S=1/5

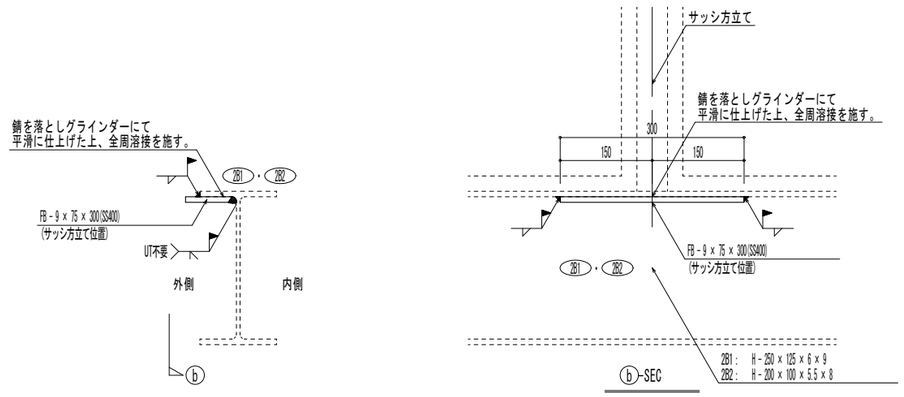


特記事項					工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
					図面名称	補強詳細図(2) 縮尺 1／5	S－09



補強束材取付詳細図　S=1/5

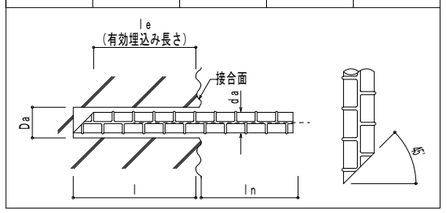




サッシ方立て下部補強プレート取付詳細図　S=1/5

註記）施工時には、鉄筋探査等により既存鉄筋本数を確認すること。

アンカー筋の寸法および先端形状（ナット付：点付溶接）				
接着系アンカーリスト（材質ＳＤ２９５Ａ）				
接着系アンカー	D13用			
da	13			
le	160			
ln	285			
l	173			
Da	16			



※ アンカー筋は、施工により有効埋め込み深さが長くなることがあるので、
アンカー筋実長に対し、若干長めに製作しておくこと。

一般事項

1．図面及び特記仕様書に記載されてない事項は、公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成28年度版及び、日本建築防災協会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説」による。

2．使用材料

コンクリート：　設計基準強度　Fc = 21N/mm²
鉄筋材質　：　SD295A
グラウト材　：　無収縮モルタル
設計基準強度σM=30N/mm²以上
接着系アンカー：　接着剤は樹脂カプセル型のポリエステル系、エポキシアクリレート系、ビニルウレタン樹脂系エポキシ系でメーカーにより接合筋の母材強度が保証されたもの。

3．あと施工アンカー穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存部の損傷を極力避ける。

あと施工アンカー

a）施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。

b）アンカーが既存鉄筋に当たった場合や斜め打込み、穿孔を失敗した場合は、アンカーピッチを守り打ち直しとする。

c）現場施工されたあと施工アンカーは、監督官立ち会いのもと施工確認試験を行う。

施工確認試験は、引張試験機による引張試験とする。

施工確認試験（引張試験）の仕様は、公共建築改修工事標準仕様書による。

引張試験の確認強度は下記による。

なお、改修範囲のうち、金属系アンカー使用範囲については、引張試験を省略することができる。

接着系アンカーの引張試験の確認強度

アンカー筋	確認強度	備　考
D13	29.2 kN/本(12da)	母材破壊

・引張試験の確認強度は、下記による。
接着系アンカー：母材強度、コーン破壊による強度、付着強度のうち最小強度を２／３倍した数値とした。
D13(12daの場合)　　母材強度=43.8kN　コーン破壊=87.3kN　付着強度=63.7kN

特記事項	工事名称	平成３１年度町民プール改修工事	図面番号
	図面名称	補強詳細図(3)	縮尺 1／5
			Ｓ－１０